

三島市国民健康保険
第3期保健事業実施計画
(データヘルス計画)及び
第4期特定健康診査等実施計画

データ分析結果

令和6年3月

三島市

目次

1. 三島市の保険者特性		3. 特定健康診査の状況・実施効果	
1-1. 人口・被保険者構成		3-1. 特定健康診査の状況	
・人口、被保険者数、加入割合	5	・特定健診の実施状況	27
・性・年代階層別被保険者構成(令和4年度)	6	・日常生活圏域ごとの特定健診受診率(令和4年度)	28
・被保険者の前期高齢者(65歳以上74歳以下)割合の推移	6	・日常生活圏域ごとの一人当たり医療費(令和4年度)	28
1-2. 平均寿命と健康寿命 / 要支援・要介護認定者の状況 / 介護保険給付費の比較		・男性の年齢別特定健診実施状況(令和4年度)	29
・平均寿命及び平均自立期間(令和4年度)	7	・女性の年齢別特定健診実施状況(令和4年度)	29
・要支援・要介護認定実人数及び介護保険給付費の推移	7	・40、41歳の特定健診受診率	30
・介護認定率(県比較)	8	・特定健診受診回数別医療費状況(令和元年度～令和4年度)	31
・要支援、要介護認定者の疾患別有病の割合(令和4年度)	9	・特定健診有無の糖尿病・高血圧治療中断者状況(令和4年度)	32
・一件当たり介護保険給付費の比較(令和4年度)	9	3-2. 特定健康診査の受診結果-全体	
1-3. 主たる死因の状況		・メタボリックシンドローム該当者・予備群割合の推移	33
・主要疾病別死因割合(令和4年度)	10	・年代別・男女別メタボリックシンドローム該当者・予備群の内訳(令和4年度)	33
・死因別標準化死亡比(三島市) ※平成29～令和3年度	11	・メタボリックシンドローム該当者・予備群の該当項目及び人数、割合(令和4年度)	34
2. 医療費状況		3-3. 特定健康診査の受診結果-検査項目別の受診結果	
2-1. 国民健康保険被保険者の医療費状況①		・有所見者(保健指導判定値以上)割合の比較(令和4年度)	35
・医療基礎情報(令和4年度)	13	・HbA1c8.0%以上の者の割合	36
・年度別 基礎統計	13	・内臓脂肪症候群の該当率	36
・年度別 大分類による疾病別医療費統計	14	・高血圧症有病者の割合(高血圧I度以上の割合)	37
・大分類による疾病別医療費統計(令和4年度)	15	・高血圧予備群の割合	37
・疾病分類別医療費の内訳(入院・外来)(大分類)	16	・質問票調査の状況(男女別)	38
・年度別 中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)	17	4. 特定保健指導の状況・実施効果	
・年度別 中分類による疾病別統計(レセプト件数上位10疾病)	18	4-1. 特定保健指導の状況①	
・年度別 中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)	19	・特定保健指導の実施状況	40
・年度別 中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費が高額な上位10疾病)	20	・年齢層別特定保健指導の実施状況(令和4年度)	40
・疾病分類別医療費の内訳(中分類)	21～22	4-2. 特定保健指導の状況②	
・医療費年間総額、一人当たりの年間医療費	23	・特定保健指導利用者と未利用者の一人当たり年間医療費	41
・一人当たりの年間医療費の比較(令和3年度)	23	・特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率(令和3年度)	41
・日常生活圏域ごとの一人当たり医療費(令和4年度)	23	・特定保健指導利用者の翌年度健診受診率及び検査値改善率	42
・医療分類別一人当たり年間医療費の推移	23		
2-2. 国民健康保険被保険者の医療費状況②			
・高額レセプト(5万点以上)の件数、医療費	24		
・高額レセプト(5万点以上)入院・外来	24		
・高額(5万点以上)レセプト発生患者の疾病傾向(患者数順)	25		
・高額(5万点以上)レセプト発生患者の疾病傾向(患者一人当たりの医療費順)	25		

5.重症化予防事業に関する状況	
5-1.脳血管疾患患者の状況	
・脳血管疾患の患者数、医療費(令和4年度)	44
・脳血管疾患患者の有病状況	44
5-2.高血圧症患者の状況	
・高血圧症患者数と割合の推移	45
・高血圧症年間医療費の推移	45
・高血圧症有病者及び予備群の割合	46
・高血圧症有病者の割合(年代別男女別)	46
・高血圧症有病率(県・同規模・国との比較)	47
6.人工透析・糖尿病患者の状況	
6-1.糖尿病患者の分析	
・糖尿病患者数の推移	49
・糖尿病年間医療費の推移(百万円)	49
・糖尿病患者の治療中断者の状況	50
・糖尿病患者の有病状況	50
・糖尿病有病率(国・県・同規模との比較)	51
6-2.腎症患者の状況	
・慢性腎臓病患者の病期階層	52
・腎症ステージ(糖尿病患者)	52
6-3.人工透析の状況/新規人工透析導入者の状況	
・人工透析患者数、一人当たり年間医療費	53
・人工透析有病率	53
・新規人工透析導入者有病状況(令和4年度)	53
7.受診行動適正化事業に関する状況	
・年間重複受診(令和4年度)	55
・年間頻回受診(令和4年度)	55
・年間重複投薬(令和4年度)	56
・指導対象者の特定(重複受診者、頻回受診者、重複服薬者)	57
・除外設定(重複受診者、頻回受診者、重複服薬者)	57
・優先順位(重複受診者、頻回受診者、重複服薬者)	58
・薬剤併用禁忌対象者数(令和4年度)	59
・薬剤併用禁忌 医薬品リスト	59

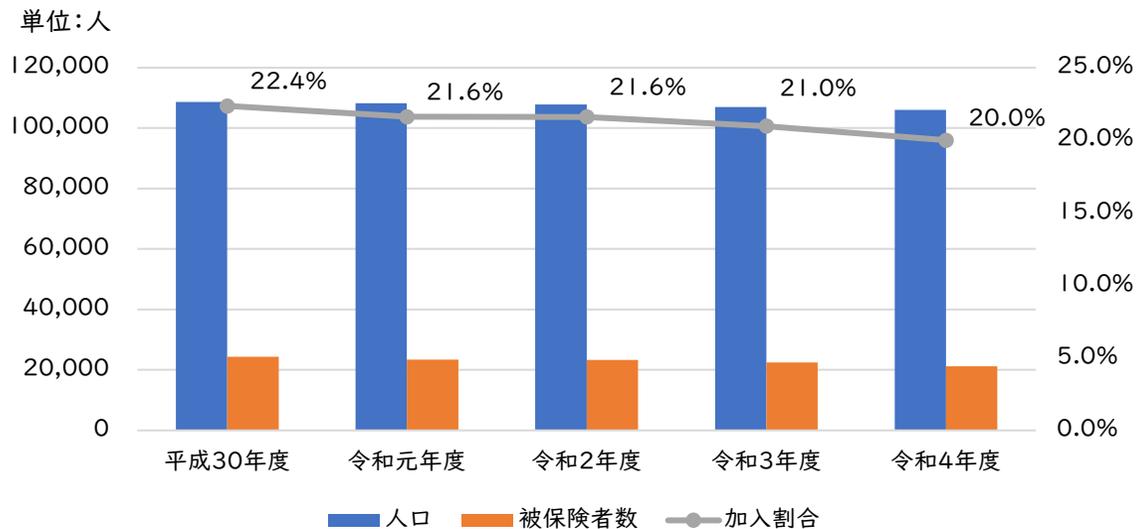
8.ジェネリック医薬品普及の状況	
・年度別ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)	61
・年度別ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)	61
・ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(患者数ベース)	62
・ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(金額ベース)	62
9.歯科医療の状況	
・特定の疾病別歯科レセプト発生者の医療費	64
10.フレイルに関する分析	
・フレイル関連疾病別 患者数および医療費	66
・年齢階層別 フレイル関連疾病医療費	66
・フレイル関連疾病別・年齢階層別 患者数及び割合(男性)	67
・フレイル関連疾病別・年齢階層別 医療費及び患者一人当たり医療費(男性)	67
・フレイル関連疾病別・年齢階層別 患者数及び割合(女性)	68
・フレイル関連疾病別・年齢階層別 医療費及び患者一人当たり医療費(女性)	68
・疾病ごとの介護認定者数と認定度	69
11.保健事業実施に関わる詳細分析	
11-1.健康異常値放置者に係る分析	
・指導対象者の特定(健診異常値放置者)	71
・除外設定(健診異常値放置者)	71
・優先順位(健診異常値放置者)	72
11-2.生活習慣病治療中断者に係る分析	
・指導対象者の特定(生活習慣病治療中断者)	73
・除外設定(生活習慣病治療中断者)	73
・優先順位(生活習慣病治療中断者)	74
11-3.糖尿病性腎症重症化予防に係る分析	
・「透析」に関する診療行為が行われている患者数	75
・新規人工透析患者数(n=25)の有病状況	75
・腎症患者の全体像	76
・保健指導対象者	76

1.三島市の保険者特性

1-1. 人口・被保険者構成

平成30年度から令和4年度にかけての人口に対する被保険者率の推移は年々減少傾向にあります。前期高齢者の被保険者割合は、令和4年度は47.8%で国(43.8%)と比較するとやや高く、加齢とともに医療費は相対的に増加すると考えられます。

人口、被保険者数、加入割合



	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人口(人)	108,688	108,236	107,783	106,927	106,072
被保険者数(人)	24,300	23,395	23,278	22,424	21,203
加入割合	22.4%	21.6%	21.6%	21.0%	20.0%

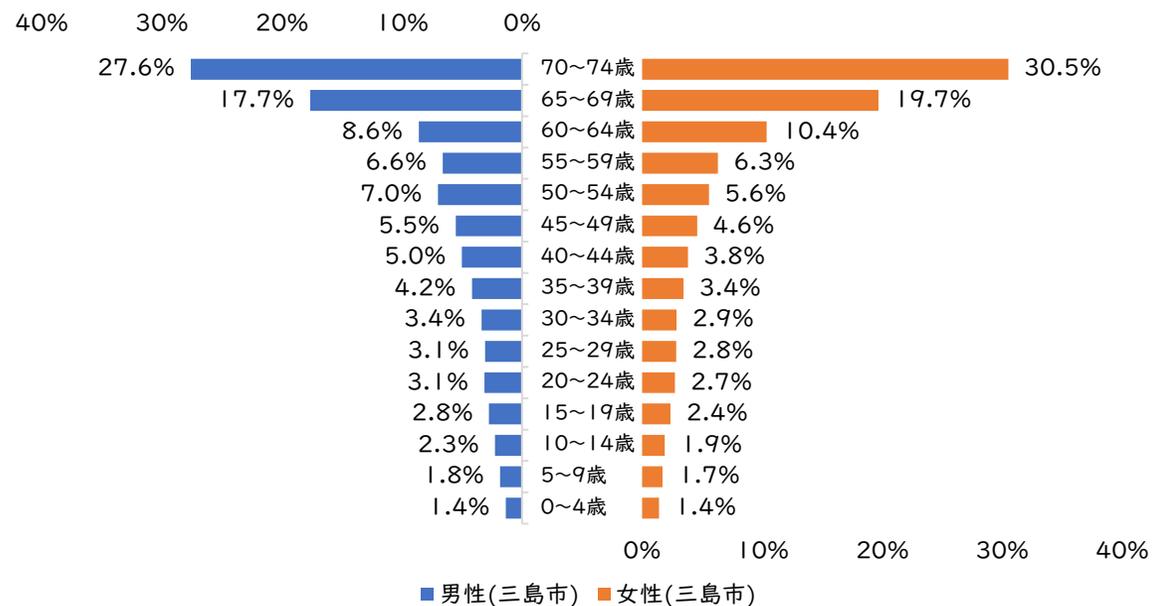
(見える化システム、KDBシステム「人口及び被保険者の状況」)

人口、被保険者数、加入割合(令和4年度)

	三島市	静岡県	国
人口(人)	106,072	3,594,263	123,214,261
被保険者数(人)	21,203	721,527	24,660,500
加入割合	20.0%	20.1%	20.0%

(見える化システム、KDBシステム「人口及び被保険者の状況(令和4年度)」)

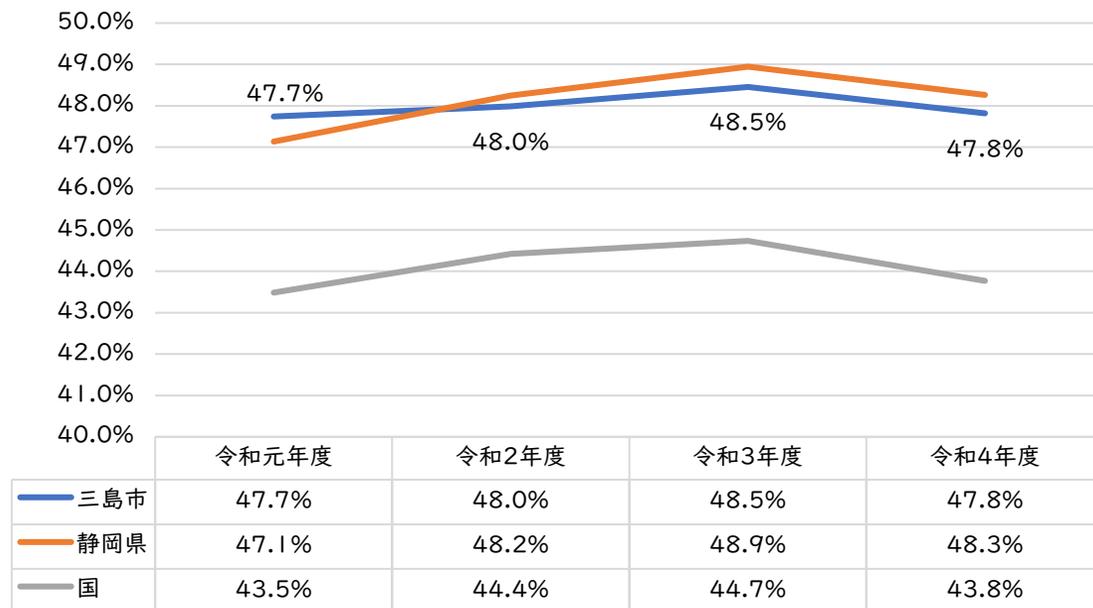
性・年代階層別被保険者構成(令和4年度)



	全体		男性		女性	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
合計	21,203	100%	10,094	100%	11,109	100%
0~39歳(人)	4,356	20.5%	2,221	22.0%	2,135	19.2%
40~64歳(人)	6,708	31.6%	3,307	32.8%	3,401	30.6%
65~74歳(人)	10,139	47.8%	4,566	45.2%	5,573	50.2%
平均年齢(歳)	55.4		54.3		56.3	

(KDBシステム「人口及び被保険者の状況」)

被保険者の前期高齢者(65歳以上74歳以下)割合の推移

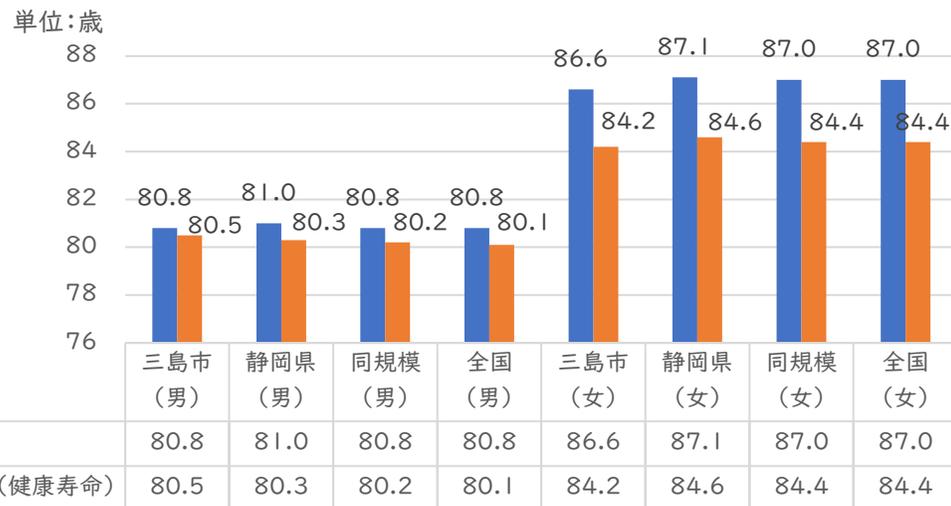


(KDBシステム「人口及び被保険者の状況」)

1-2. 平均寿命と健康寿命 / 要支援・要介護認定者の状況 / 介護保険給付費の比較

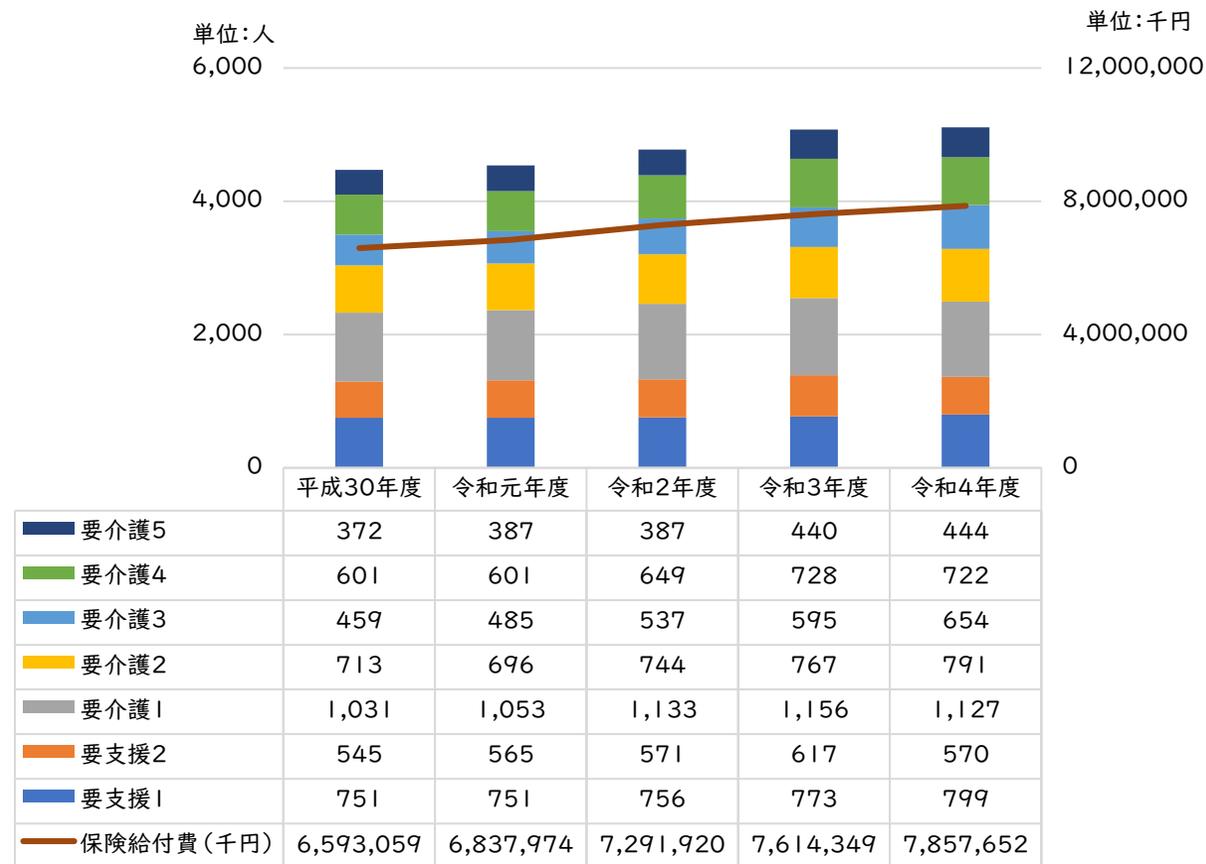
本市の要支援・要介護認定者は、高齢化に伴い年々増加の傾向にあり、令和4年度時点で5,107 人となっています。また、介護保険給付費も同様に増加傾向にあり、令和4年度時点で約79億円です。

平均寿命及び平均自立期間（令和4年度）



(KDBシステム「地域の全体像の把握(令和4年度)」)

要支援・要介護認定実人数及び介護保険給付費の推移



※1号被保険者、2号被保険者含む

(KDBシステム「要介護(支援)者認定状況」「介護費の状況」)

要介護（要支援）認定率は15.9%、県平均（17.3%）であり、1件あたり給付費は59,394円で、県平均（62,506円）よりも低い状況です。

介護認定率（県比較）

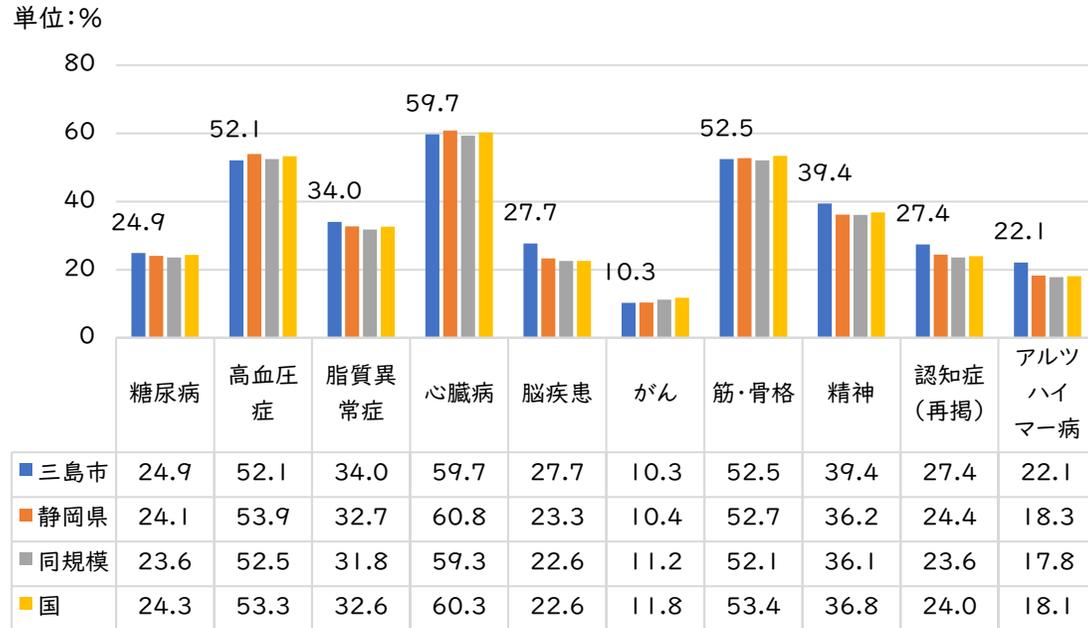
	介護1号 認定者数(人)	介護1号 被保険者数(人)	認定率(%)	総給付費(千円)	1件当たり 給付費(円)
三島市	4,992	31,677	15.9	7,857,652	59,394
静岡県	186,636	1,084,282	17.3	300,630,887	62,506

(KDBシステム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題(令和4年度)」)

要支援、要介護認定者の疾患別有病の割合は県、同規模、国と比較して「糖尿病」「脂質異常症」「脳疾患」「精神」「認知症（再掲）」「アルツハイマー病」が高い状況です。

一件当たり介護保険給付費においては、県、同規模、国と比較して「要支援1」が高い傾向にあります。

要支援、要介護認定者の疾患別有病の割合（令和4年度）

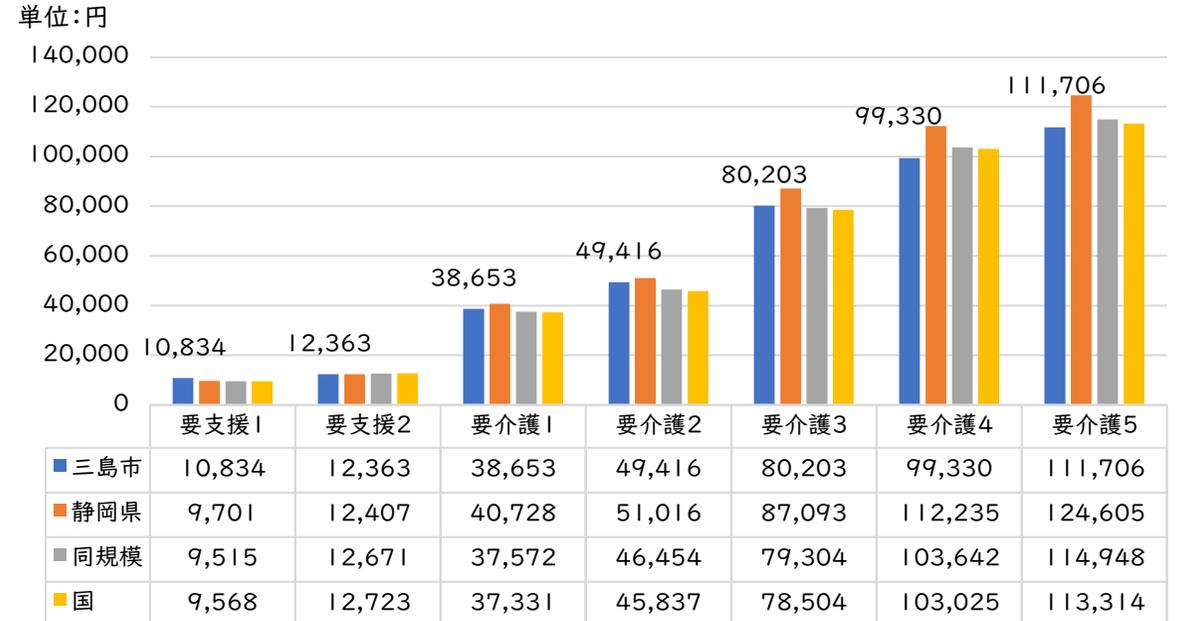


※1号被保険者、2号被保険者含む

※認知症（再掲）…「認知症」は「精神」にも含まれる

（KDBシステム「地域の全体像の把握（令和4年度）」）

一件当たり介護保険給付費の比較（令和4年度）

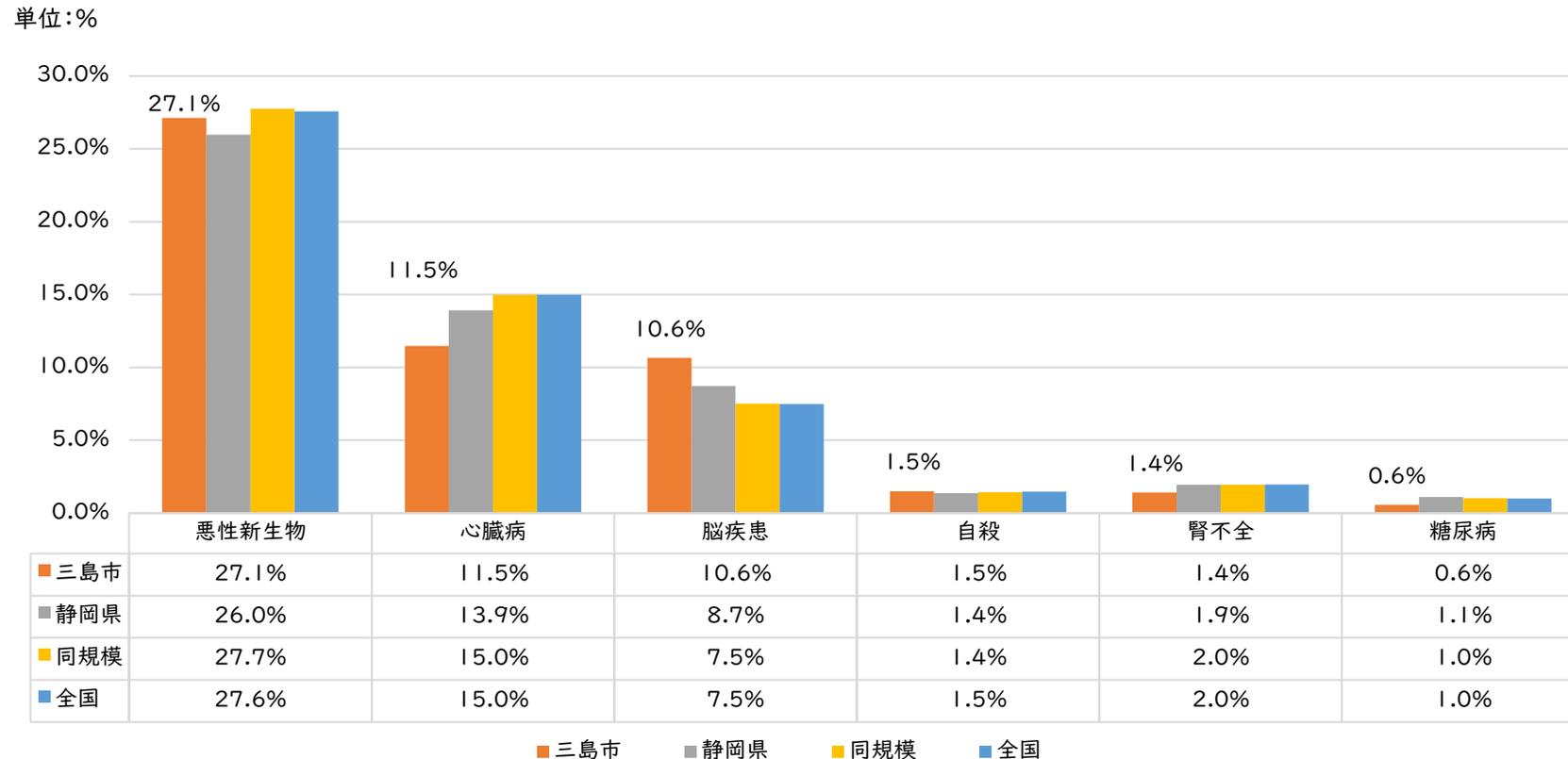


（KDBシステム「地域の全体像の把握（令和4年度）」）

1-3. 主たる死因の状況

本市における主要疾病別死因割合は、静岡県や国の傾向と同様に6疾病の中で「悪性新生物(27.1%)」が最も多く、次いで「心臓病(11.5%)」、「脳疾患(10.6%)」、「自殺(1.5%)」、「腎不全(1.4%)」、「糖尿病(0.6%)」と続いています。県の傾向と比較し、「脳疾患」の割合が高くなっています。死因別標準化死亡比では、男女とも「肺炎」が非常に高く、「肝疾患」の割合も高くなっています。女性においては「脳血管疾患」が高くなっています。

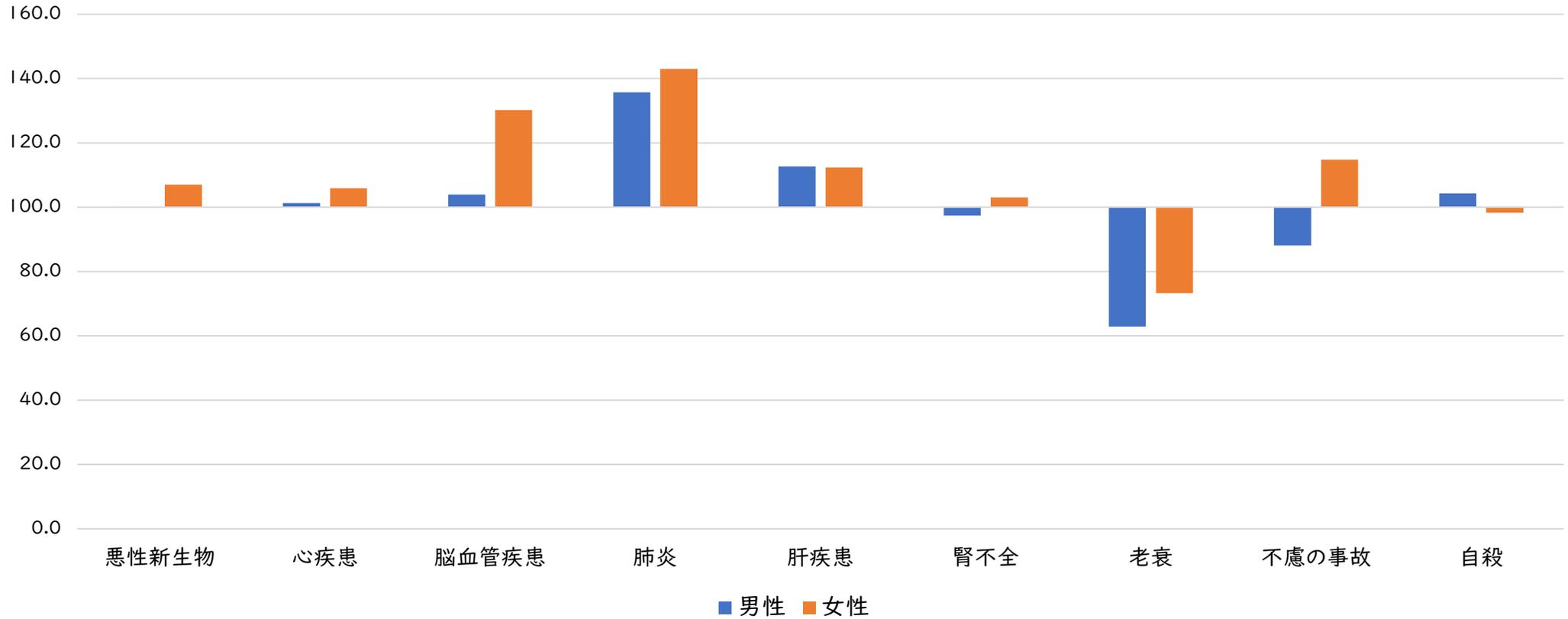
主要疾病別死因割合(令和4年度)



1-3. 主たる死因の状況

死因別標準化死亡比(三島市) ※平成29~令和3年度

平成29年度~令和3年度 三島市死因別標準化死亡比(静岡県)



※標準化死亡比…静岡県の死亡率を三島市に当てはめた場合の期待死亡数と実際の観察死亡数の比

(静岡県「傷病分類別SMR」)

2. 医療費状況

2-1. 国民健康保険被保険者の医療費状況①

医療基礎情報(令和4年度)

医療項目	三島市	静岡県	同規模	全国
千人当たり				
病院数	0.3	0.2	0.3	0.3
診療所数	4.2	3.8	3.7	4.2
病床数	40.9	50.8	62	61.1
医師数	7.5	11.5	11.5	13.8
外来患者数	731.7	743.3	707.3	709.6
入院患者数	17.8	16.9	19.1	18.8
受診率	749.5	760.2	726.4	728.4
一件当たり医療費(円)	38,540	37,950	40,000	39,870
一般(円)	38,540	37,950	40,000	39,870
退職(円)	0	9,470	36,330	67,230
外来				
外来費用の割合	63.4%	62.9%	59.4%	59.9%
外来受診率	731.7	743.3	707.3	709.6
一件当たり医療費(円)	25,040	24,400	24,420	24,520
一人当たり医療費(円)	18,320	18,140	17,270	17,400
一日当たり医療費(円)	17,420	16,570	16,520	16,500
一件当たり受診回数	1.4	1.5	1.5	1.5
入院				
入院費用の割合	36.6%	37.1%	40.6%	40.1%
入院率	17.8	16.9	19.1	18.8
一件当たり医療費(円)	594,210	633,970	616,530	619,090
一人当たり医療費(円)	10,570	10,710	11,790	11,650
一日当たり医療費(円)	37,000	39,880	37,770	38,730
一件当たり在院日数	16.1	15.9	16.3	16

(KDBシステム「地域の全体像の把握(令和4年度)」)

年度別 基礎統計

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
A	一か月平均の被保険者数(人)	23,395	23,278	22,424	21,203	
B	レセプト件数	外来	206,740	191,009	196,600	192,087
		入院	7,536	6,720	6,974	6,075
		調剤	151,061	142,322	144,705	141,175
		合計	365,337	340,051	348,279	339,337
C	医療費(円)※1	9,003,089,540	8,525,258,150	8,841,716,770	8,263,900,360	
D	一か月平均の患者数(人)※2	12,341	11,655	11,807	11,431	
E	患者数(人)	21,594	20,574	20,552	20,241	
C/E	患者一人当たり医療費(円)	416,926	414,370	430,212	408,275	
C/A	被保険者一人当たり医療費(円)	384,830	366,237	394,297	389,751	
C/B	レセプト一件当たり医療費(円)	24,643	25,071	25,387	24,353	
D/A	有病率(%)	52.8%	50.1%	52.7%	53.9%	
B/12/A	受診率(%)	130.1%	121.7%	129.4%	133.4%	

※1 医療費…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている、保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示

※2 一か月平均の患者数…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトの人数を集計。同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は一人とし、年度毎に集計。そのため他統計とは一致しない。

(レセプトデータ(医科、DPC、調剤))

年度別大分類による疾病分類別医療費の内訳では、平成30年度から令和2年度まで1位「IX.循環器系の疾患」、2位「II.新生物<腫瘍>」の順でしたが、令和3年度から順位が逆転しています。

年度別 大分類による疾病別医療費統計

疾病分類(大分類)	平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	医療費(円)	構成比(%)	順位												
I.感染症及び寄生虫症	141,834,660	1.8%	12	121,283,600	1.5%	13	126,353,960	1.7%	13	120,625,260	1.5%	13	95,366,650	1.3%	16
II.新生物<腫瘍>	1,137,791,000	14.3%	2	1,174,756,660	14.8%	2	1,150,865,030	15.1%	2	1,215,026,570	15.5%	1	1,224,038,800	16.2%	1
III.血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	72,858,930	0.9%	16	32,077,990	0.4%	17	47,636,270	0.6%	16	38,422,290	0.5%	16	39,258,230	0.5%	17
IV.内分泌、栄養及び代謝疾患	812,090,780	10.2%	4	816,877,320	10.3%	4	808,309,300	10.6%	3	849,328,100	10.8%	3	797,116,320	10.5%	3
V.精神及び行動の障害	620,087,570	7.8%	6	666,674,950	8.4%	5	646,555,040	8.5%	5	592,712,980	7.6%	6	592,146,590	7.8%	5
VI.神経系の疾患	470,892,270	5.9%	8	495,217,570	6.2%	7	548,072,940	7.2%	7	508,603,580	6.5%	7	476,184,410	6.3%	7
VII.眼及び付属器の疾患	357,294,970	4.5%	10	341,293,420	4.3%	10	311,710,140	4.1%	10	342,243,610	4.4%	10	308,014,450	4.1%	10
VIII.耳及び乳様突起の疾患	36,228,230	0.5%	17	33,133,900	0.4%	16	24,119,710	0.3%	18	37,984,240	0.5%	17	28,276,530	0.4%	18
IX.循環器系の疾患	1,212,997,090	15.3%	1	1,201,030,520	15.1%	1	1,177,666,710	15.4%	1	1,170,496,150	14.9%	2	1,067,566,430	14.1%	2
X.呼吸器系の疾患	468,205,890	5.9%	9	452,393,980	5.7%	9	386,455,850	5.1%	9	419,175,590	5.4%	9	418,992,890	5.5%	9
X I.消化器系の疾患	481,967,460	6.1%	7	469,542,240	5.9%	8	459,659,370	6.0%	8	436,121,480	5.6%	8	442,548,830	5.8%	8
X II.皮膚及び皮下組織の疾患	129,972,830	1.6%	13	137,079,790	1.7%	12	143,707,730	1.9%	12	142,246,460	1.8%	12	141,602,120	1.9%	12
X III.筋骨格系及び結合組織の疾患	669,694,990	8.4%	5	641,330,020	8.1%	6	571,410,490	7.5%	6	634,964,770	8.1%	5	579,556,670	7.7%	6
X IV.腎尿路生殖器系の疾患	813,040,030	10.2%	3	853,646,050	10.7%	3	726,714,890	9.5%	4	755,621,560	9.6%	4	764,941,370	10.1%	4
X V.妊娠、分娩及び産じょく	16,282,720	0.2%	20	13,467,530	0.2%	20	12,042,420	0.2%	21	12,163,050	0.2%	21	3,354,130	0.0%	22
X VI.周産期に発生した病態	10,105,340	0.1%	21	5,025,930	0.1%	21	17,731,690	0.2%	19	3,989,520	0.1%	22	5,337,200	0.1%	21
X VII.先天奇形、変形及び染色体異常	20,223,370	0.3%	19	31,671,540	0.4%	18	33,635,200	0.4%	17	16,639,540	0.2%	19	23,687,040	0.3%	19
X VIII.症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	93,491,700	1.2%	15	88,945,230	1.1%	14	84,157,680	1.1%	15	95,406,230	1.2%	14	102,640,020	1.4%	13
X IX.損傷、中毒及びその他の外因の影響	247,917,730	3.1%	11	262,589,840	3.3%	11	244,683,330	3.2%	11	307,010,930	3.9%	11	239,907,390	3.2%	11
X X I.健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	22,910,830	0.3%	18	15,733,970	0.2%	19	17,326,470	0.2%	20	23,955,870	0.3%	18	22,464,140	0.3%	20
X X II.特殊目的用コード	0	0.0%	22	0	0.0%	22	360,350	0.0%	22	14,174,240	0.2%	20	96,371,830	1.3%	14
分類外	101,946,050	1.3%	14	88,174,600	1.1%	15	87,350,910	1.1%	14	94,502,720	1.2%	15	95,889,220	1.3%	15
合計	7,937,834,440			7,941,946,650			7,626,525,480			7,831,414,740			7,565,261,260		

(KDBシステム「医療費分析(2)大、中、細小分類」、レセプトデータ(医科、DPC))

大分類による患者数では、Ⅶ. 眼及び付属器の疾患、ⅩⅠ. 消化器系の疾患が多く、一人当たり医療費ではⅡ. 新生物<腫瘍>、Ⅴ. 精神及び行動の障害が多い傾向にあります。

大分類による疾病別医療費統計(令和4年度)

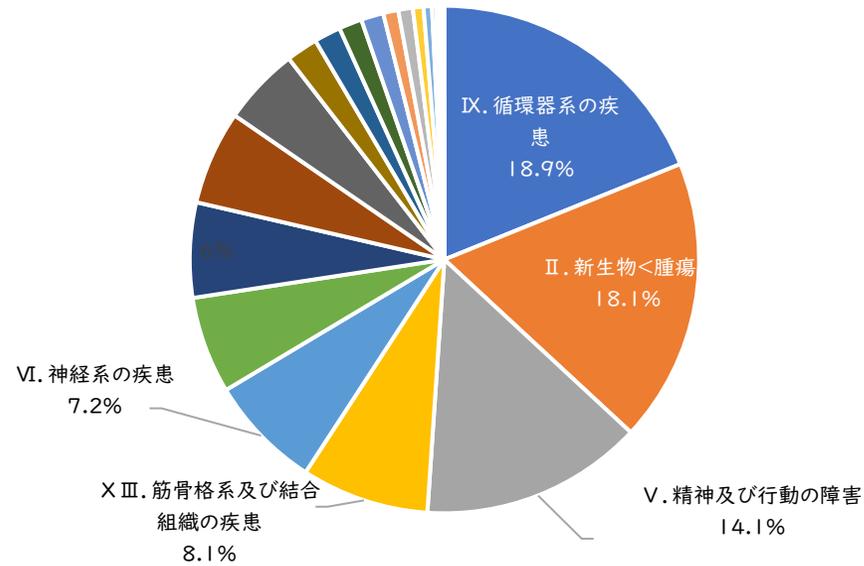
疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円)	構成比(%)	順位	レセプト件数	順位	患者数(人)	順位	患者1人当たりの医療費(円)	順位
Ⅰ. 感染症及び寄生虫症	95,366,650	1.3%	16	30,175	13	7,097	12	13,438	17
Ⅱ. 新生物<腫瘍>	1,224,038,800	16.2%	1	32,553	12	6,315	13	193,830	1
Ⅲ. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	39,258,230	0.5%	17	13,715	15	2,033	19	19,310	14
Ⅳ. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	797,116,320	10.5%	3	166,895	1	22,772	3	35,004	10
Ⅴ. 精神及び行動の障害	592,146,590	7.8%	5	41,563	11	5,767	14	102,678	2
Ⅵ. 神経系の疾患	476,184,410	6.3%	7	61,855	8	9,029	9	52,739	5
Ⅶ. 眼及び付属器の疾患	308,014,450	4.1%	10	95,337	5	27,960	1	11,016	18
Ⅷ. 耳及び乳様突起の疾患	28,276,530	0.4%	18	8,920	19	3,166	15	8,931	19
Ⅸ. 循環器系の疾患	1,067,566,430	14.1%	2	150,568	2	22,163	5	48,169	6
Ⅹ. 呼吸器系の疾患	418,992,890	5.5%	9	81,650	6	21,034	6	19,920	13
ⅩⅠ. 消化器系の疾患	442,548,830	5.8%	8	145,929	3	27,176	2	16,285	16
ⅩⅡ. 皮膚及び皮下組織の疾患	141,602,120	1.9%	12	68,361	7	17,206	7	8,230	21
ⅩⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患	579,556,670	7.7%	6	126,568	4	22,338	4	25,945	12
ⅩⅣ. 腎尿路生殖器系の疾患	764,941,370	10.1%	4	44,671	10	8,495	10	90,046	3
ⅩⅤ. 妊娠, 分娩及び産じょく	3,354,130	0.0%	22	373	21	201	21	16,687	15
ⅩⅥ. 周産期に発生した病態	5,337,200	0.1%	21	251	22	64	22	83,394	4
ⅩⅦ. 先天奇形, 変形及び染色体異常	23,687,040	0.3%	19	2,608	20	547	20	43,304	7
ⅩⅧ. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	102,640,020	1.4%	13	53,019	9	12,299	8	8,345	20
ⅩⅨ. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	239,907,390	3.2%	11	21,512	14	7,239	11	33,141	11
ⅩⅩⅠ. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	22,464,140	0.3%	20	12,891	16	3,003	16	7,481	22
ⅩⅩⅡ. 特殊目的用コード	96,371,830	1.3%	14	12,891	17	2,334	18	41,290	8
分類外	95,889,220	1.3%	15	10,940	18	2,353	17	40,752	9
合計	7,565,261,260			1,183,245		230,591		919,936	

(KDBシステム「医療費分析(2)大、中、細小分類(令和4年度)」レセプトデータ(医科、DPC)(令和4年度))

疾病分類別医療費において、外来では、「内分泌、栄養及び代謝疾患」(16.0%)、「新生物<腫瘍>」(15.4%)、「腎尿路生殖器系の疾患」(12.7%)の順に多く、入院では「循環器系の疾患(18.9%)」、「新生物<腫瘍>」(18.1%)、「精神及び行動の障害」(14.1%)の順に多くなっています。

疾病分類別医療費の内訳(入院・外来)(大分類)

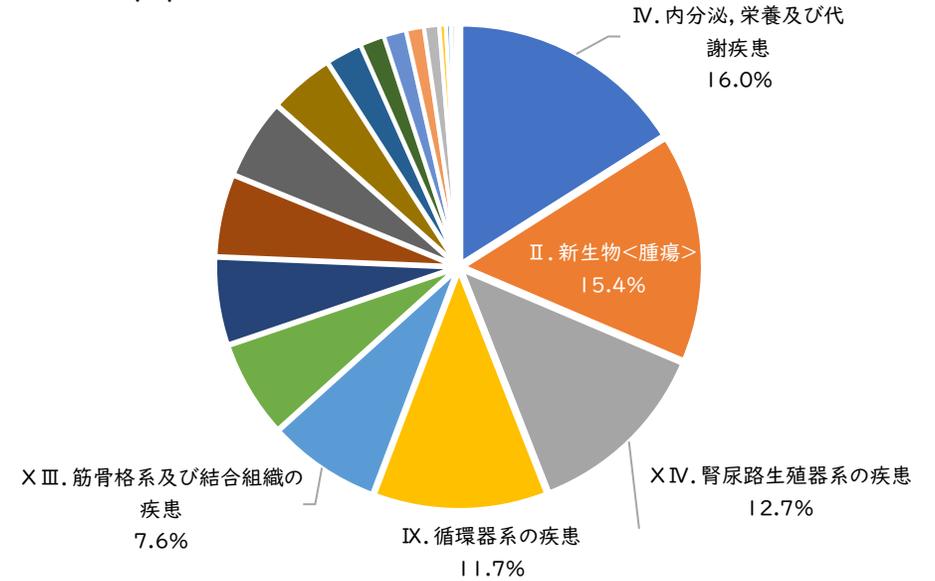
入院



コード	総医療費(円)	割合
IX. 循環器系の疾患	51,476,556	18.9%
II. 新生物<腫瘍>	49,301,851	18.1%
V. 精神及び行動の障害	38,597,470	14.1%
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	22,128,450	8.1%
VI. 神経系の疾患	19,733,936	7.2%
その他	91,698,420	33.6%

(KDBシステム「疾病別医療費分析(大分類)(令和4年度)」)

外来



コード	総医療費(円)	割合
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	75,817,607	16.0%
II. 新生物<腫瘍>	73,060,322	15.4%
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	59,978,338	12.7%
IX. 循環器系の疾患	55,275,686	11.7%
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	35,826,730	7.6%
その他	173,986,677	36.7%

(KDBシステム「疾病別医療費分析(大分類)(令和4年度)」)

中分類による疾病別医療費統計では、例年、「腎不全」、「糖尿病」が上位にあり、構成比も大きな変化が見られないことから糖尿病重症化予防の対策が必要であると考えられます。

年度別 中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

令和元年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	構成割合(%) ※1	延べ患者数(人) ※2	令和3年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	構成割合(%) ※1	延べ患者数(人) ※2
1	腎不全	710,135,440	8.9%	737	1	腎不全	619,536,360	7.9%	803
2	糖尿病	464,491,930	5.8%	6,825	2	糖尿病	497,886,180	6.4%	7,246
3	その他の心疾患	391,848,620	4.9%	4,590	3	その他の悪性新生物<腫瘍>	448,393,110	5.7%	1,416
4	その他の悪性新生物<腫瘍>	390,693,200	4.9%	1,465	4	その他の心疾患	387,915,540	5.0%	4,903
5	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	357,326,830	4.5%	1,034	5	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	346,844,030	4.4%	1,014
6	高血圧性疾患	296,702,450	3.7%	7,974	6	その他の神経系の疾患	300,599,160	3.8%	7,831
7	脂質異常症	280,113,490	3.5%	9,972	7	高血圧性疾患	274,406,200	3.5%	8,114
8	その他の神経系の疾患	275,223,050	3.5%	7,911	8	脂質異常症	252,564,320	3.2%	10,061
9	その他の消化器系の疾患	259,970,360	3.3%	14,090	9	その他の消化器系の疾患	243,223,020	3.1%	14,073
10	その他の眼及び付属器の疾患	212,286,680	2.7%	11,433	10	その他の眼及び付属器の疾患	210,445,300	2.7%	11,468
令和2年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	構成割合(%) ※1	延べ患者数(人) ※2	令和4年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	構成割合(%) ※1	延べ患者数(人) ※2
1	腎不全	601,025,890	7.9%	728	1	腎不全	631,254,990	8.3%	824
2	糖尿病	472,053,360	6.2%	6,809	2	糖尿病	479,628,630	6.3%	7,127
3	その他の悪性新生物<腫瘍>	428,713,850	5.6%	1,282	3	その他の悪性新生物<腫瘍>	479,085,460	6.3%	1,549
4	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	358,634,210	4.7%	1,033	4	その他の心疾患	405,126,380	5.4%	4,882
5	その他の神経系の疾患	343,534,770	4.5%	7,644	5	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	343,279,840	4.5%	1,035
6	その他の心疾患	340,498,390	4.5%	4,556	6	その他の神経系の疾患	289,037,640	3.8%	7,461
7	高血圧性疾患	286,620,380	3.8%	7,980	7	その他の消化器系の疾患	260,564,860	3.4%	13,517
8	脂質異常症	258,657,170	3.4%	9,952	8	高血圧性疾患	252,406,230	3.3%	7,837
9	その他の消化器系の疾患	247,776,010	3.2%	13,481	9	脂質異常症	225,305,640	3.0%	9,716
10	その他の眼及び付属器の疾患	191,837,460	2.5%	11,021	10	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	216,042,870	2.9%	240

※1 構成割合は全体の総医療費対し各疾病の総医療費が占める割合。

(KDBシステム「医療費分析(2)大、中、細小分類」、レセプトデータ(医科、DPC、調剤))

※2 患者数は中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

令和元年度から令和4年度に発生しているレセプトより、疾病中分類別に集計し、レセプト件数上位10疾病を年度別にレセプト件数で見ると、どの年度においても「脂質異常症」が最も多く、次いで「高血圧性疾患」「その他消化器系の疾患」の順となっています。

年度別 中分類による疾病別統計(レセプト件数上位10疾病)

令和元年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	レセプト件数(件)	構成割合(%)※1	令和3年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	レセプト件数(件)	構成割合(%)※1
1	脂質異常症	280,113,490	73,585	6.5%	1	脂質異常症	252,564,320	76,236	6.7%
2	高血圧性疾患	296,702,450	66,046	5.8%	2	高血圧性疾患	274,406,200	66,395	5.8%
3	その他の消化器系の疾患	259,970,360	59,410	5.2%	3	その他の消化器系の疾患	243,223,020	60,825	5.3%
4	その他の神経系の疾患	275,223,050	52,010	4.6%	4	その他の神経系の疾患	300,599,160	51,534	4.5%
5	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	88,945,230	47,105	4.1%	5	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	95,406,230	50,549	4.4%
6	糖尿病	464,491,930	46,980	4.1%	6	糖尿病	497,886,180	48,661	4.3%
7	胃炎及び十二指腸炎	90,496,870	41,296	3.6%	7	胃炎及び十二指腸炎	88,556,500	40,411	3.5%
8	その他の眼及び付属器の疾患	212,286,680	38,076	3.3%	8	その他の眼及び付属器の疾患	210,445,300	39,977	3.5%
9	アレルギー性鼻炎	52,061,710	32,143	2.8%	9	皮膚炎及び湿疹	59,246,710	31,281	2.7%
10	皮膚炎及び湿	60,620,910	30,668	2.7%	10	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	74,474,020	31,055	2.7%
令和2年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	レセプト件数(件)	構成割合(%)※1	令和4年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	レセプト件数(件)	構成割合(%)※1
1	脂質異常症	258,657,170	73,710	6.9%	1	脂質異常症	225,305,640	73,563	6.3%
2	高血圧性疾患	286,620,380	64,351	6.0%	2	高血圧性疾患	252,406,230	63,913	5.4%
3	その他の消化器系の疾患	247,776,010	58,176	5.4%	3	その他の消化器系の疾患	260,564,860	60,624	5.2%
4	その他の神経系の疾患	343,534,770	50,274	4.7%	4	糖尿病	479,628,630	53,069	4.5%
5	糖尿病	472,053,360	46,929	4.4%	5	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	102,640,020	53,019	4.5%
6	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	84,157,680	45,643	4.2%	6	その他の神経系の疾患	289,037,640	50,069	4.3%
7	胃炎及び十二指腸炎	94,360,050	39,448	3.7%	7	その他の眼及び付属器の疾患	193,955,750	40,946	3.5%
8	その他の眼及び付属器の疾患	191,837,460	37,563	3.5%	8	胃炎及び十二指腸炎	85,644,770	38,615	3.3%
9	皮膚炎及び湿疹	56,866,240	30,311	2.8%	9	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	77,433,010	32,069	2.7%
10	アレルギー性鼻炎	47,640,490	29,729	2.8%	10	アレルギー性鼻炎	50,338,760	31,704	2.7%

※1 構成割合は全体のレセプト数に対して各疾病のレセプト数が占める割合。

(KDBシステム「医療費分析(2)大、中、細小分類」、レセプトデータ(医科、DPC、調剤))

令和元年度から令和4年度に発生しているレセプトより、疾病中分類別に集計し、患者数上位10疾病を年度別に患者数で見ると「その他の消化器系の疾患」が最も多く、次いで年度によって前後していますが「症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの」「その他の眼及び付属器の疾患」の順となっています。上位10疾病の中には、脂質異常症や高血圧性疾患が含まれているため、生活習慣の改善により患者数や医療費を抑えることにつながります。

年度別 中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

令和元年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	延べ患者数(人) ※2	構成割合(%) ※1	令和3年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	延べ患者数(人) ※2	構成割合(%) ※1
1	その他の消化器系の疾患	259,970,360	14,090	65.6%	1	その他の消化器系の疾患	243,223,020	14,073	69.0%
2	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	88,945,230	12,136	56.5%	2	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	95,406,230	12,355	60.5%
3	その他の眼及び付属器の疾患	212,286,680	11,433	53.2%	3	その他の眼及び付属器の疾患	210,445,300	11,468	56.2%
4	脂質異常症	280,113,490	9,972	46.4%	4	脂質異常症	252,564,320	10,061	49.3%
5	皮膚炎及び湿疹	60,620,910	8,811	41.0%	5	皮膚炎及び湿疹	59,246,710	8,448	41.4%
6	屈折及び調節の障害	25,310,230	8,511	39.6%	6	屈折及び調節の障害	24,478,380	8,117	39.8%
7	高血圧性疾患	296,702,450	7,974	37.1%	7	高血圧性疾患	274,406,200	8,114	39.8%
8	その他の神経系の疾患	275,223,050	7,911	36.8%	8	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	74,474,020	7,864	38.5%
9	胃炎及び十二指腸炎	90,496,870	7,700	35.9%	9	その他の神経系の疾患	300,599,160	7,831	38.4%
10	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	67,753,090	7,572	35.3%	10	糖尿病	497,886,180	7,246	35.5%
令和2年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	延べ患者数(人) ※2	構成割合(%) ※1	令和4年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	延べ患者数(人) ※2	構成割合(%) ※1
1	その他の消化器系の疾患	247,776,010	13,481	65.9%	1	その他の消化器系の疾患	260,564,860	13,517	67.4%
2	その他の眼及び付属器の疾患	191,837,460	11,021	53.9%	2	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	102,640,020	12,299	61.3%
3	症状、徴候及び異常臨床所見・異常、検査所見で他に分類されないもの	84,157,680	10,974	53.7%	3	その他の眼及び付属器の疾患	193,955,750	11,846	59.0%
4	脂質異常症	258,657,170	9,952	48.7%	4	脂質異常症	225,305,640	9,716	48.4%
5	皮膚炎及び湿疹	56,866,240	8,347	40.8%	5	皮膚炎及び湿疹	52,169,480	7,899	39.4%
6	高血圧性疾患	286,620,380	7,980	39.0%	6	高血圧性疾患	252,406,230	7,837	39.1%
7	屈折及び調節の障害	23,707,060	7,871	38.5%	7	屈折及び調節の障害	23,558,940	7,791	38.8%
8	その他の神経系の疾患	343,534,770	7,644	37.4%	8	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	77,433,010	7,535	37.5%
9	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	77,097,400	7,450	36.4%	9	その他の神経系の疾患	289,037,640	7,461	37.2%
10	胃炎及び十二指腸炎	94,360,050	6,957	34.0%	10	糖尿病	479,628,630	7,127	35.5%

※1 構成割合は全体の総患者数に対して各疾病の患者数が占める割合。

※2 患者数は中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

(KDBシステム「医療費分析(2)大、中、細小分類」、レセプトデータ(医科、DPC、調剤))

令和元年度から令和4年度に発生しているレセプトより、疾病中分類別に集計し、患者一人当たりの医療費上位10疾病を年度別に患者一人当たりの医療費で見ると、令和4年度は「白血病」が高く、「気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>」「腎不全」「肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>」の順となっています。各年度順位は入れ替わるものの上位4疾患は同様となっています。

年度別 中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費が高額な上位10疾病)

令和元年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	延べ患者数(人)※1	1人当たり医療費(円)※2	令和3年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	延べ患者数(人)※1	1人当たり医療費(円)※2
1	腎不全	710,135,440	737	963,549	1	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	54,172,850	49	1,105,568
2	白血病	26,177,640	28	934,916	2	白血病	22,616,150	26	869,852
3	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	144,663,350	182	794,854	3	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	167,794,580	193	869,402
4	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	32,942,350	57	577,936	4	腎不全	619,536,360	803	771,527
5	悪性リンパ腫	63,020,940	117	538,641	5	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	65,256,930	123	530,544
6	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	64,769,540	159	407,356	6	悪性リンパ腫	58,746,170	131	448,444
7	血管性及び詳細不明の認知症	37,062,510	102	363,358	7	くも膜下出血	20,712,820	51	406,134
8	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	357,326,830	1,034	345,577	8	子宮の悪性新生物<腫瘍>	35,511,210	96	369,908
9	胃の悪性新生物<腫瘍>	101,841,510	331	307,678	9	胃の悪性新生物<腫瘍>	76,026,890	214	355,266
10	その他の悪性新生物<腫瘍>	390,693,200	1,465	266,685	10	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	346,844,030	1,014	342,055
令和2年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	延べ患者数(人)※1	一人当たり医療費(円)※2	令和4年度	疾病分類(中分類)	総医療費(円)	延べ患者数(人)※1	一人当たり医療費(円)※2
1	白血病	34,563,060	32	1,080,096	1	白血病	46,802,240	35	1,337,207
2	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	165,791,970	176	942,000	2	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	216,042,870	240	900,179
3	腎不全	601,025,890	728	825,585	3	腎不全	631,254,990	824	766,086
4	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	36,631,130	48	763,149	4	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	28,374,780	50	567,496
5	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	73,868,540	117	631,355	5	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	46,405,770	136	341,219
6	心臓の先天奇形	15,738,630	44	357,696	6	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	343,279,840	1,035	331,671
7	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	358,634,210	1,033	347,177	7	その他の悪性新生物<腫瘍>	479,085,460	1,549	309,287
8	子宮の悪性新生物<腫瘍>	35,095,600	102	344,075	8	胃の悪性新生物<腫瘍>	64,901,600	248	261,700
9	その他の悪性新生物<腫瘍>	428,713,850	1,282	334,410	9	結腸の悪性新生物<腫瘍>	71,471,620	274	260,845
10	悪性リンパ腫	39,793,220	124	320,913	10	妊娠及び胎児発育に関連する障害	4,098,670	16	256,167

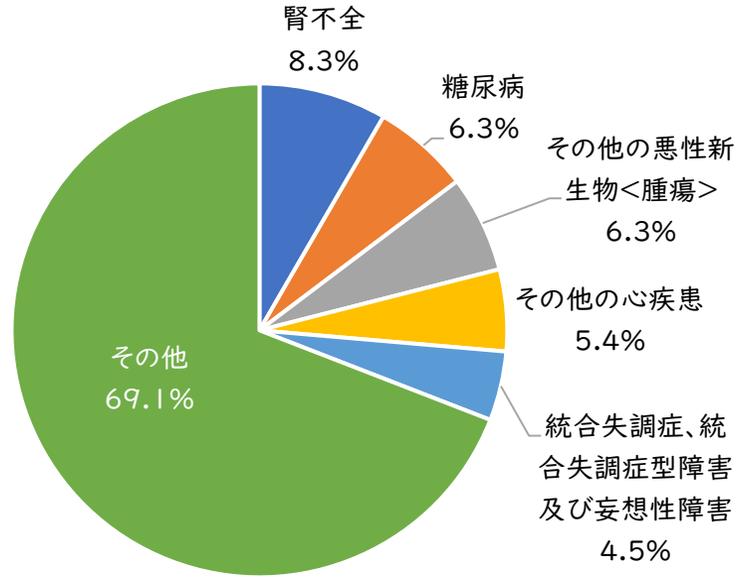
※1 患者数は中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。 (KDBシステム「医療費分析(2)大、中、細小分類」、レセプトデータ(医科、DPC、調剤))

※2 一人当たり医療費は患者数(人)/総医療費(円)にて算出。

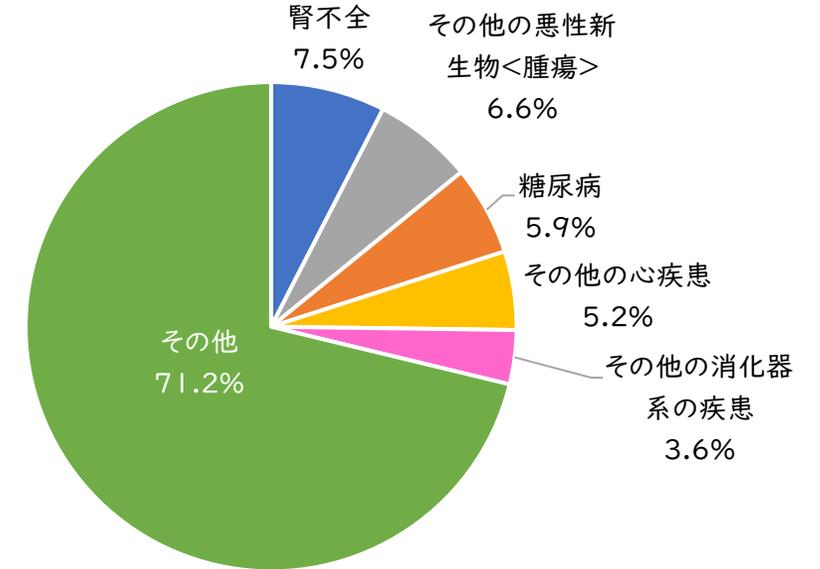
国・県・同規模に比べ、「腎不全」と「糖尿病」の割合が高い傾向が見られます。

疾病分類別医療費の内訳(中分類)

三島市



静岡県



疾病分類	医療費(円)	割合
腎不全	63,125,499	8.3%
糖尿病	47,960,682	6.3%
その他の悪性新生物<腫瘍>	47,908,546	6.3%
その他の心疾患	40,508,237	5.4%
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	34,327,984	4.5%
その他	522,639,823	69.1%

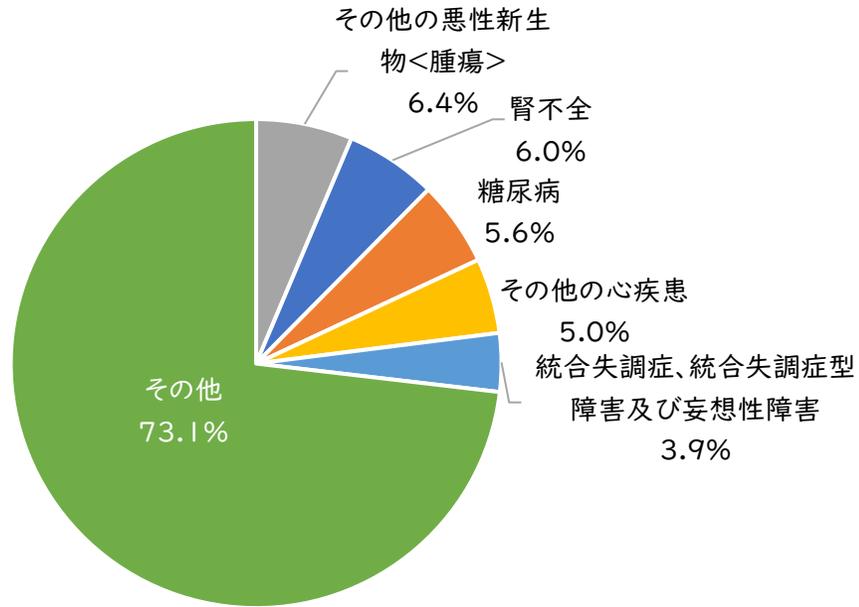
(KDBシステム「疾病別医療費分析(中分類)(令和4年度)」)

疾病分類(中分類)	医療費(円)	割合(%)
腎不全	19,359,666,950	7.5%
その他の悪性新生物<腫瘍>	16,881,597,290	6.6%
糖尿病	15,174,351,210	5.9%
その他の心疾患	13,360,010,210	5.2%
その他の消化器系の疾患	9,173,614,970	3.6%
その他	182,924,047,650	71.2%

(KDBシステム「疾病別医療費分析(中分類)(令和4年度)」)

疾病分類別医療費の内訳(中分類)

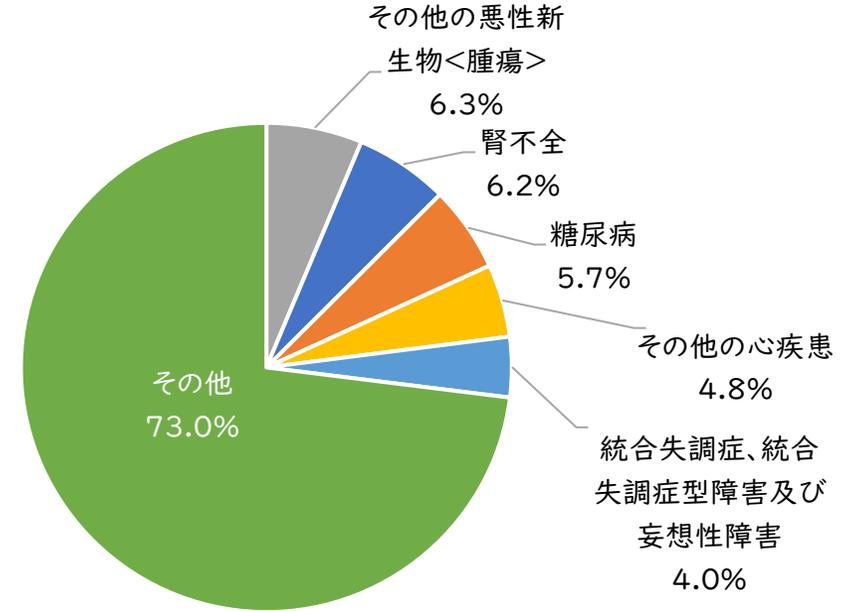
国



疾病分類(中分類)	医療費(円)	割合(%)
その他の悪性新生物<腫瘍>	558,643,324,920	6.4%
腎不全	530,456,250,430	6.0%
糖尿病	495,414,144,190	5.6%
その他の心疾患	436,864,159,230	5.0%
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	340,165,882,890	3.9%
その他	6,430,552,455,600	73.1%

(KDBシステム「疾病別医療費分析(中分類)(令和4年度)」)

同規模

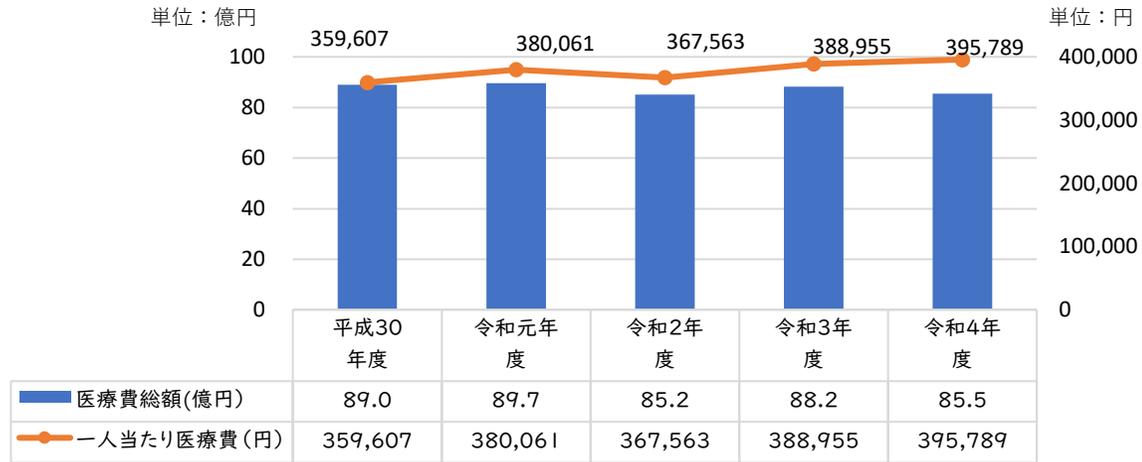


疾病分類(中分類)	医療費(円)	割合(%)
その他の悪性新生物<腫瘍>	56,452,889,170	6.3%
腎不全	55,231,878,870	6.2%
糖尿病	50,563,198,650	5.7%
その他の心疾患	43,065,370,190	4.8%
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	35,590,181,370	4.0%
その他	652,384,573,550	73.0%

(KDBシステム「疾病別医療費分析(中分類)(令和4年度)」)

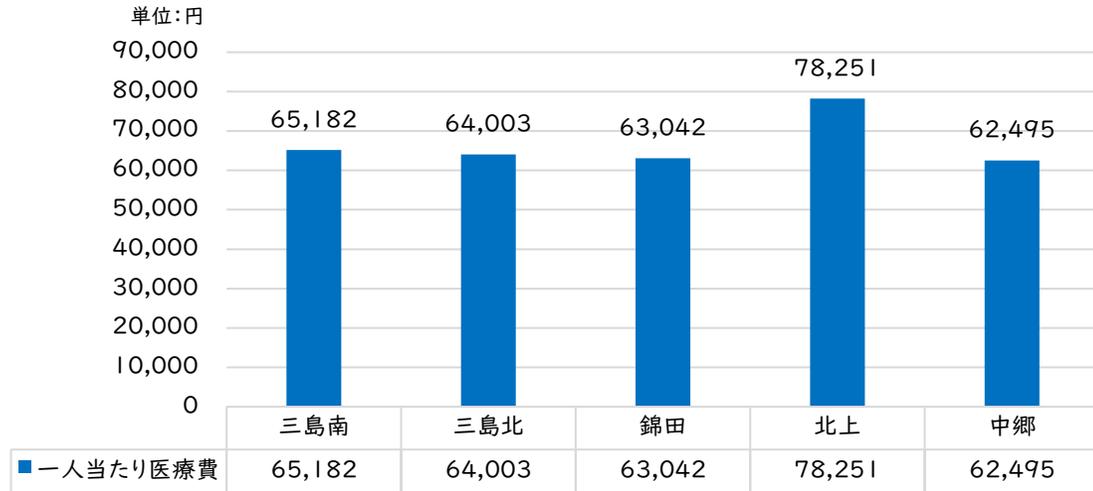
一人当たり年間医療費は、平成30年度と比較すると令和4年度は36,182円増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響により受診控えが発生したと思われる時期を除き、増加傾向が見られます。

医療費年間総額、一人当たりの年間医療費



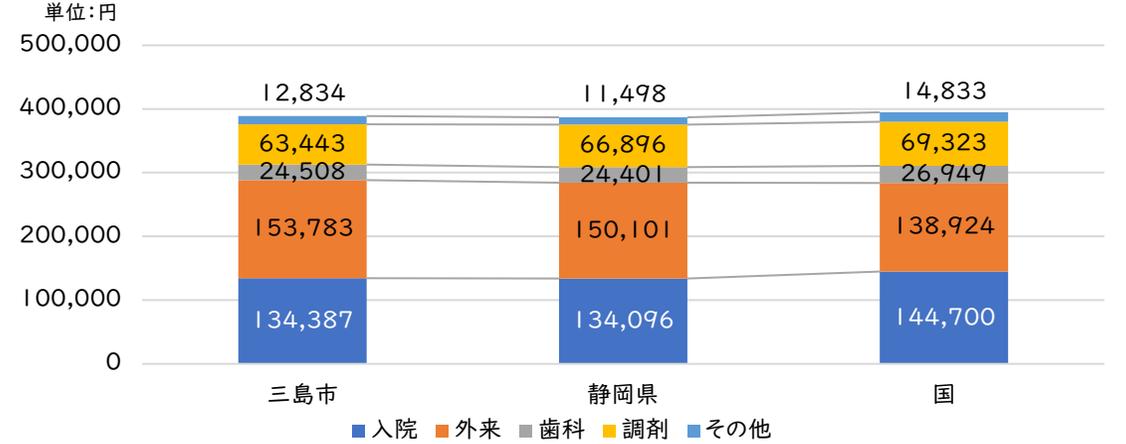
(三島市「国民健康保険事業状況報告書(年報)」)

日常生活圏域ごとの一人当たり医療費(令和4年度)



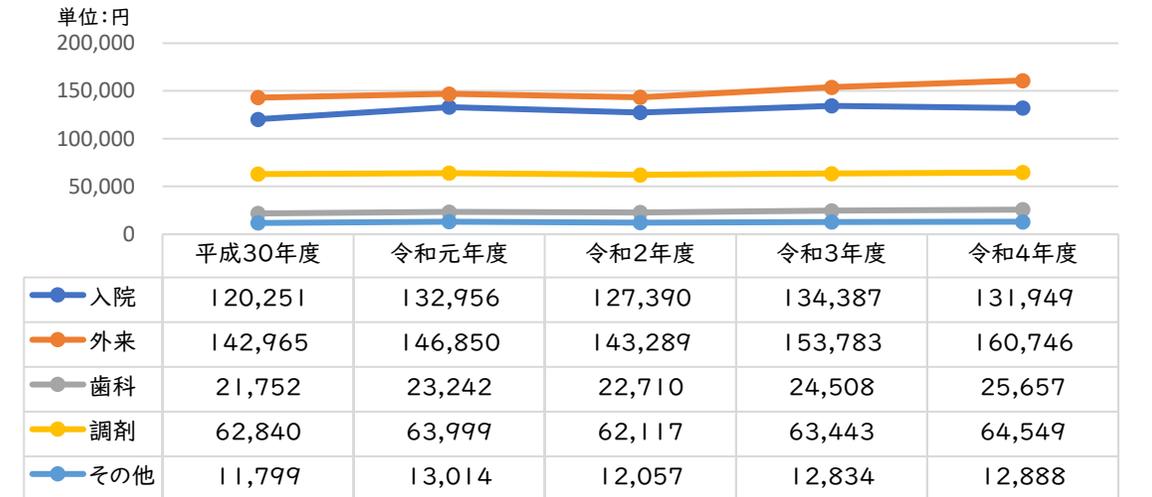
(データヘルス被保番マスタ、レセプトデータ(医科、DPC)(令和4年度))

一人当たりの年間医療費の比較(令和3年度)



(三島市「国民健康保険事業状況報告書(年報)(令和3年度)」、厚生労働省「国民健康保険事業年報 令和3年度」)

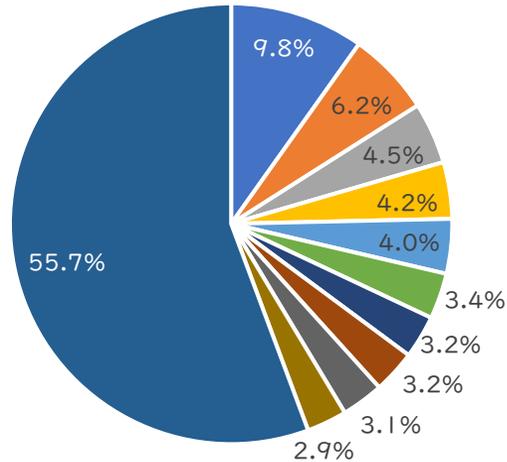
医療分類別一人当たり年間医療費の推移



(三島市「国民健康保険事業状況報告書(年報)」)

高額レセプトの主病を86疾病の中分類に分類し、患者数が多い順にみると「その他の悪性新生物<腫瘍>」が最も高く、また、患者一人当たりの医療費順にみると、「心臓の先天奇形」が最も高い。

高額(5万点以上)レセプト発生患者の疾病傾向(患者数順)



疾病名	患者数(人)	患者数割合	1人当たり医療費(円)	医療費合計(円)	医療費割合
1 その他の悪性新生物<腫瘍>	137	9.8%	2,334,027	319,761,730	12.4%
2 その他の心疾患	86	6.2%	2,335,555	200,857,730	7.8%
3 骨折	63	4.5%	1,504,872	94,806,920	3.7%
4 その他の消化器系の疾患	58	4.2%	1,235,658	71,668,180	2.8%
5 腎不全	56	4.0%	2,614,414	146,407,210	5.7%
6 虚血性心疾患	47	3.4%	1,427,933	67,112,840	2.6%
7 気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	44	3.2%	3,896,152	171,430,690	6.7%
8 乳房の悪性新生物<腫瘍>	44	3.2%	1,381,499	60,785,940	2.4%
9 その他の呼吸器系の疾患	43	3.1%	2,223,132	95,594,660	3.7%
10 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	41	2.9%	1,471,346	60,325,190	2.3%
- その他	777	55.7%		1,282,523,710	49.9%
- 合計	1396			2,571,274,800	100%

(KDBシステム「基準金額以上になったレセプト一覧(令和4年度累計)」)

高額(5万点以上)レセプト発生患者の疾病傾向(患者一人当たりの医療費順)

疾病名	患者数(人)	1人当たり医療費(円)	医療費合計(円)	医療費割合
1 心臓の先天奇形	1	5,402,070	5,402,070	0.2%
2 その他の神経系の疾患	30	3,902,053	117,061,580	4.6%
3 気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	44	3,896,152	171,430,690	6.7%
4 白血病	11	3,291,620	36,207,820	1.4%
5 ウイルス性肝炎	3	3,097,860	9,293,580	0.4%
6 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	9	2,963,072	26,667,650	1.0%
7 その他の精神及び行動の障害	14	2,921,945	40,907,230	1.6%
8 その他の内分泌、栄養及び代謝障害	9	2,901,181	26,110,630	1.0%
9 動脈硬化(症)	3	2,865,553	8,596,660	0.3%
10 頭蓋内損傷及び内臓の損傷	5	2,676,272	13,381,360	0.5%
- その他	1267		2,116,215,530	82.3%
- 合計	1396		2,571,274,800	100.0%

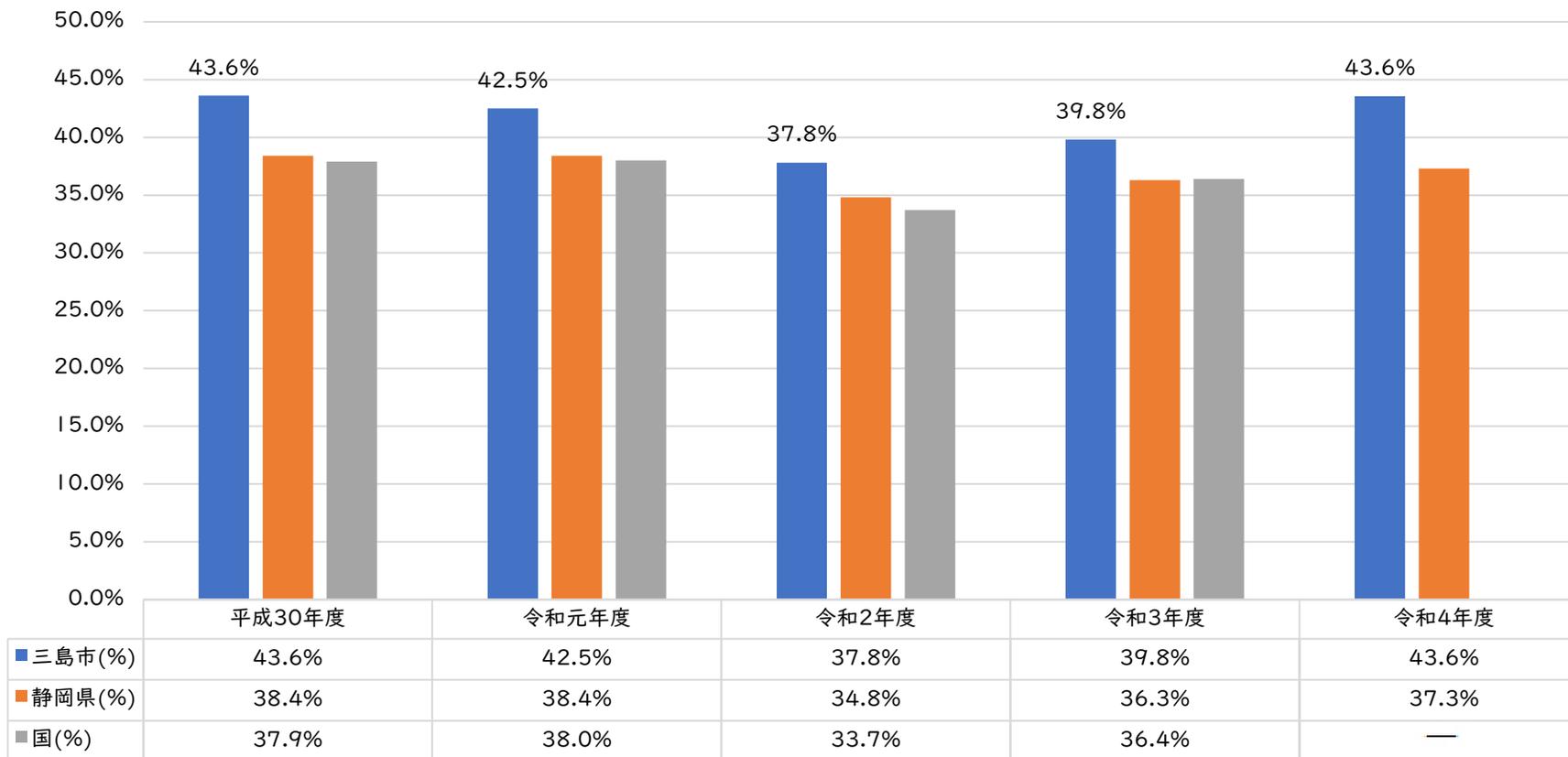
(KDBシステム「基準金額以上になったレセプト一覧(令和4年度累計)」)

3.特定健康診査の状況・実施効果

3-1. 特定健康診査の状況

令和4年度の特定健康診査の受診率は43.6%でした。新型コロナウイルスの影響により令和2年度に大きく低下しましたが、上昇傾向にあります。県(37.3%)より高い状況ですが、国の目標値60.0%には達していません。

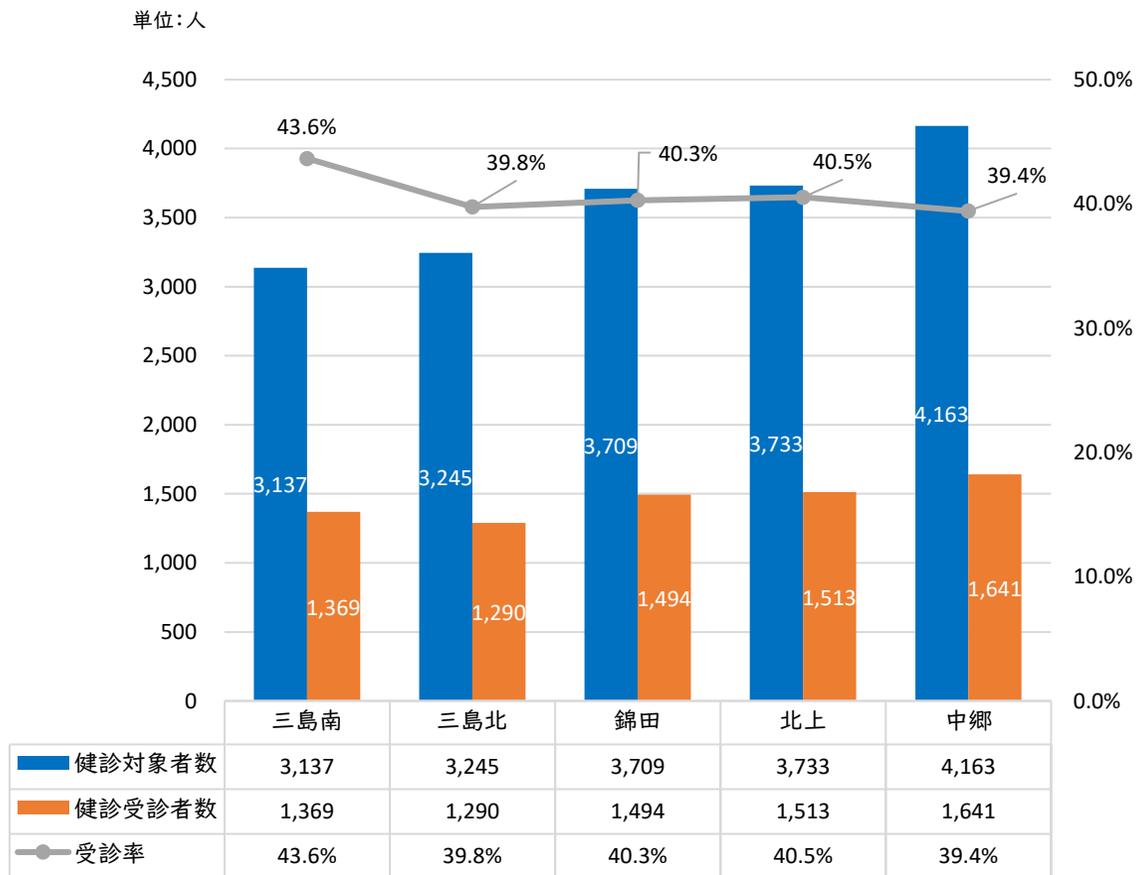
特定健診の実施状況



(市、県:「法定報告値(三島市、市町計)」 国:2021年度特定健康診査・特定保健指導の実施状況(概要))

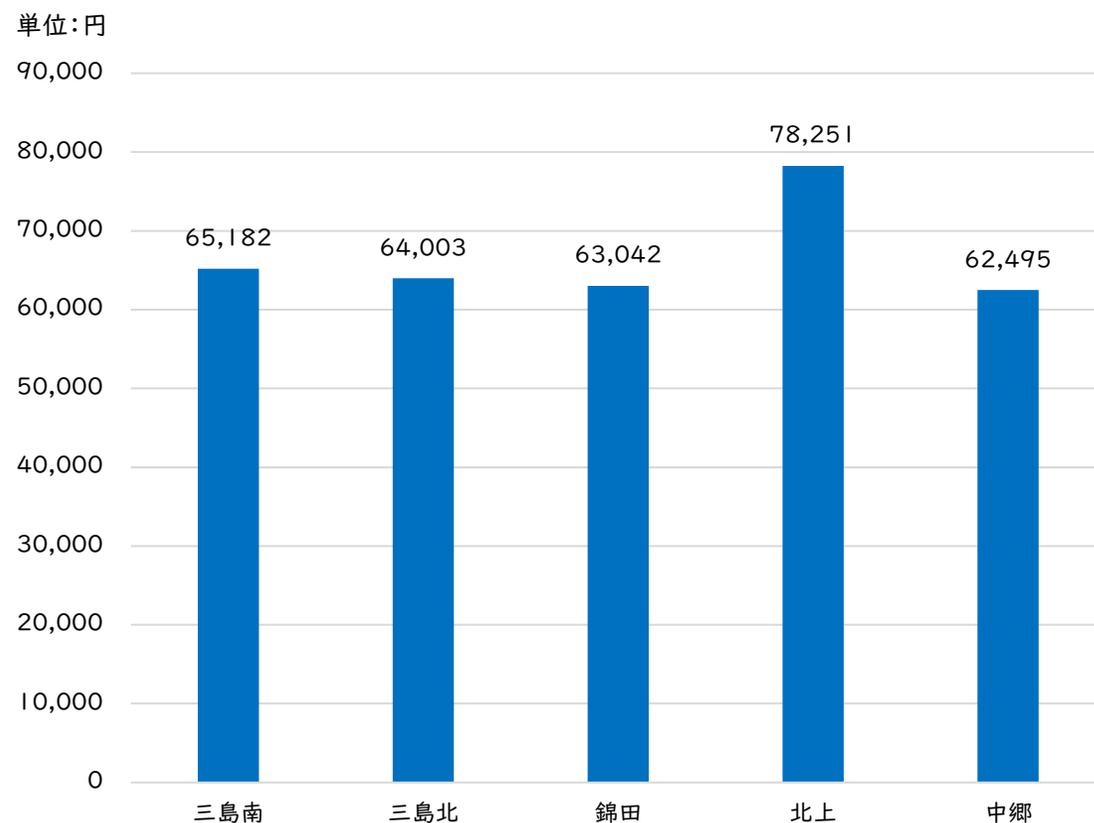
日常生活圏域ごとで見ると、特定健診受診率は、「三島南」が最も高く、「中郷」が最も低い状況です。
また、一人当たり医療費は「北上」が最も高くなっています。

日常生活圏域ごとの特定健診受診率（令和4年度）



（特定健康診査データ「FKAC161特定健康診査結果等情報作成抽出（受診券情報）」、
「FKAC131特定健康診査受診者」）

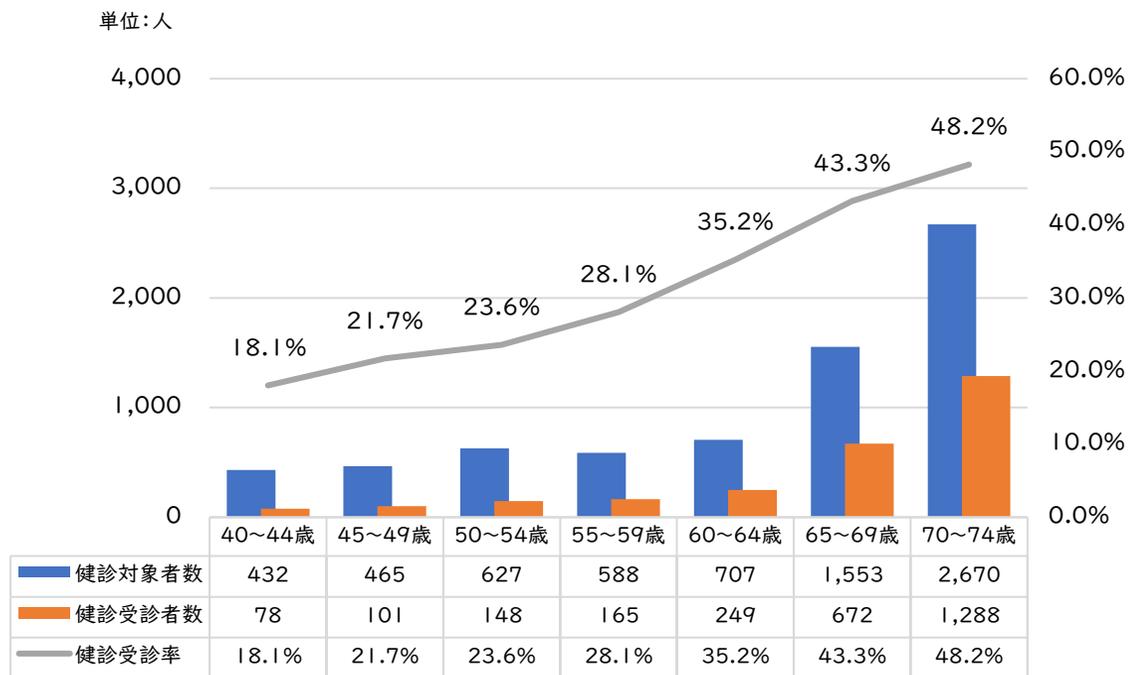
日常生活圏域ごとの一人当たり医療費（令和4年度）



（データヘルス被保番マスタ、レセプトデータ（医科、DPC））

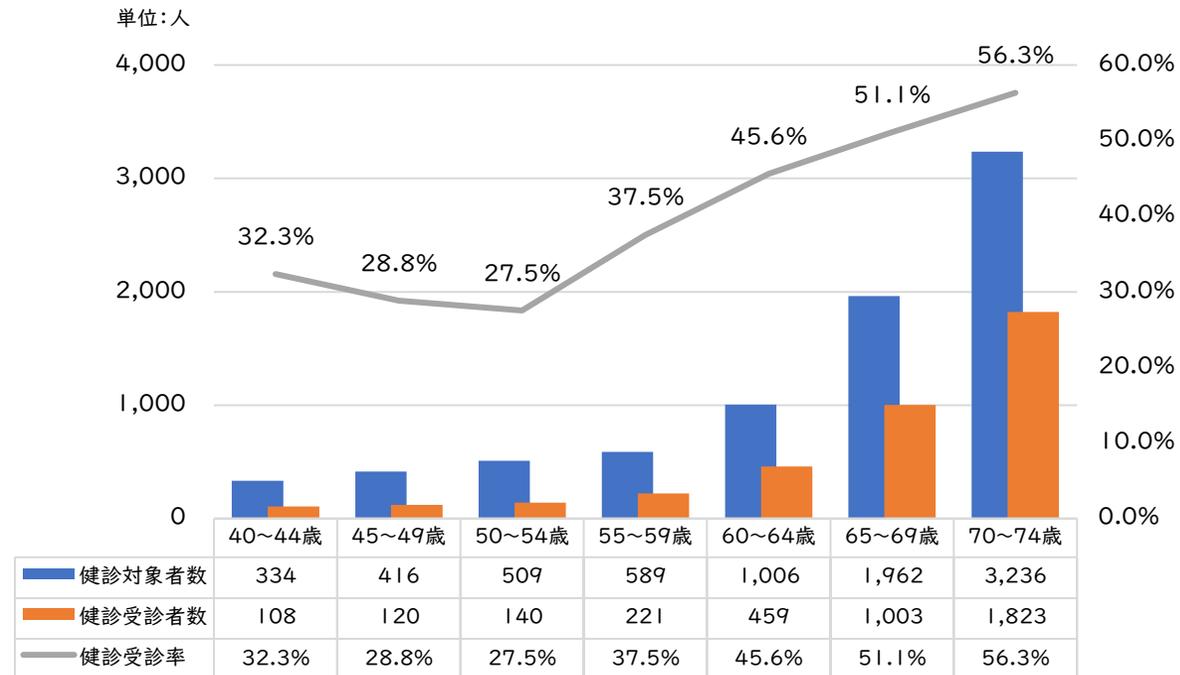
特定健診の受診率を性年代別でみると、40～50歳代の特に男性の受診率が低いことがわかり、受診勧奨の強化が必要であると考えます。男女ともに50歳以降は年齢が上がるのに比例して、受診率も上がっています。

男性の年齢別特定健診実施状況（令和4年度）



（法定報告）

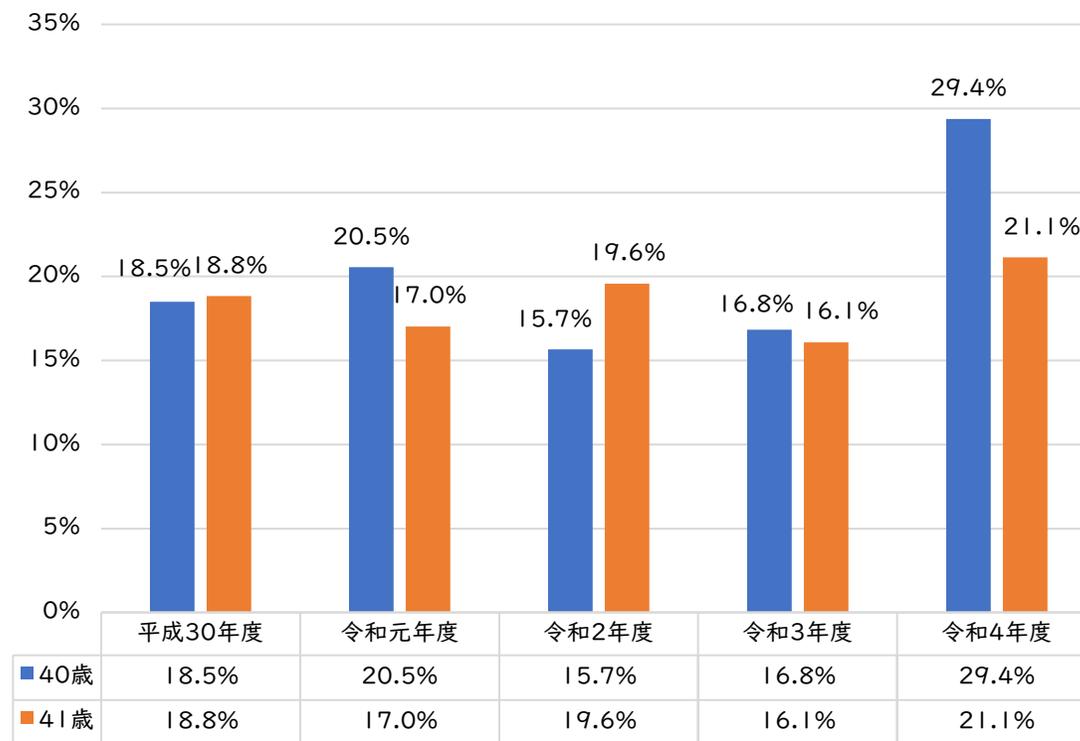
女性の年齢別特定健診実施状況（令和4年度）



（法定報告）

40、41歳の特定健診受診率は、令和4年度に割合が多くなっています。

40、41歳の特定健診受診率



(特定健診データ「FKAC161特定健診結果等情報作成抽出(受診券情報)」、
「FKAC131特定健診受診者」)

特定健診受診回数別医療費状況において、未受診者の総医療費が高い傾向にあります。4年間のうち1回から4回受診した方は総医療費が抑えられています。対象人数の割合から考えると、1人当たりの医療費は毎年(4回)受診した方が最も低く、定期的な健診受診が医療費の適正化に寄与していることが伺えます。

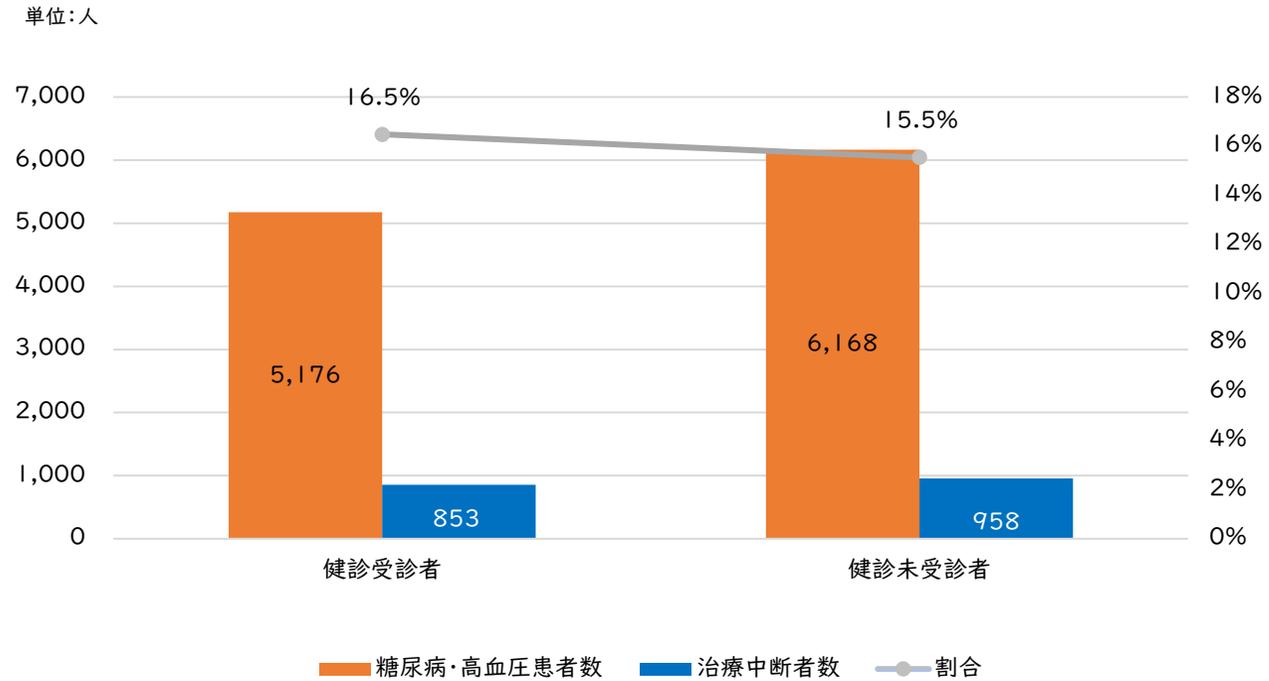
特定健診受診回数別医療費状況(令和元年度~令和4年度)

受診回数	対象人数	総医療費(円)	一人当たり 医療費(円)	うち生活習慣病医療費(円)			
				小計	高血圧症	脂質異常症	糖尿病
0回	6,149人	8,623,612,910	1,402,442	888,988,360	336,928,540	287,615,310	264,444,510
1回	1,423人	1,349,751,410	948,525	158,988,670	54,543,740	51,151,780	53,293,150
2回	1,141人	1,163,302,190	1,019,546	133,547,960	45,505,310	46,126,240	41,916,410
3回	1,480人	1,549,111,670	1,046,697	202,928,950	67,040,250	78,530,060	57,358,640
4回	3,577人	3,008,949,050	841,193	446,298,160	138,745,880	185,449,990	122,102,290
合計	13,770人	15,694,727,230	1,139,777	1,830,752,100	642,763,720	648,873,380	539,115,000

(特定健康診査データ「FKAC161特定健康診査結果等情報作成抽出(受診券情報)」、
「FKAC131特定健康診査受診者」、「レセプトデータ(医科、DPC)」)

糖尿病・高血圧治療中断した割合は特定健康診査受診者と未受診者とでおよそ同率の状況です。

特定健診有無の糖尿病・高血圧治療中断者状況（令和4年度）



（特定健診データ「FKAC161特定健診結果等情報作成抽出（受診券情報）（令和4年度）」、
「FKAC131特定健診受診者（令和4年度）」、レセプトデータ（医科、DPC、調剤）（令和4年度）」、
KDBシステム「疾病管理一覧（糖尿病）・（高血圧症）（令和4年度）」

3-2. 特定健康診査の受診結果－全体

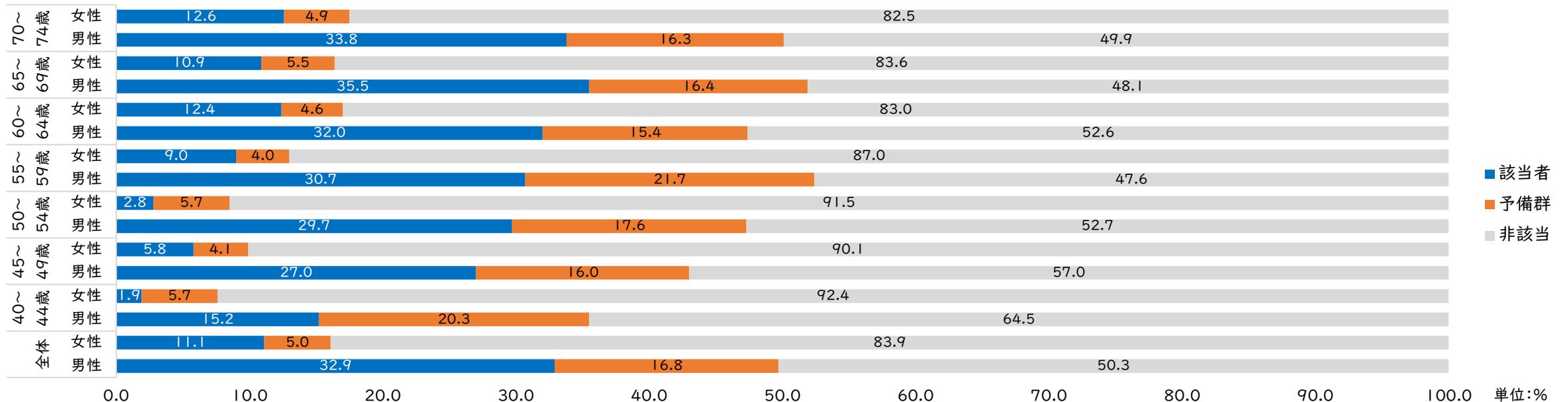
メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の該当者・予備群は例年ほぼ横ばいが続いており、令和4年度時点で受診者に占める該当者の割合は20.0%、予備群の割合は9.8%となっています。全年代を通して、男性の罹患率が高いことが伺えます。

メタボリックシンドローム該当者・予備群割合の推移



(KDBシステム「厚生労働省様式(様式5-3)メタボリックシンドローム該当者・予備群」)

年代別・男女別メタボリックシンドローム該当者・予備群の内訳(令和4年度)



(KDBシステム「健診の状況(令和4年度)」)

メタボリックシンドロームの該当者において高血圧症・脂質異常症該当者の割合が高く、メタボリックシンドローム予備群において高血圧症予備群割合が高い状況です。重症化しないよう生活習慣の見直しが大切です。

メタボリックシンドローム該当者・予備群の該当項目及び人数、割合（令和4年度）

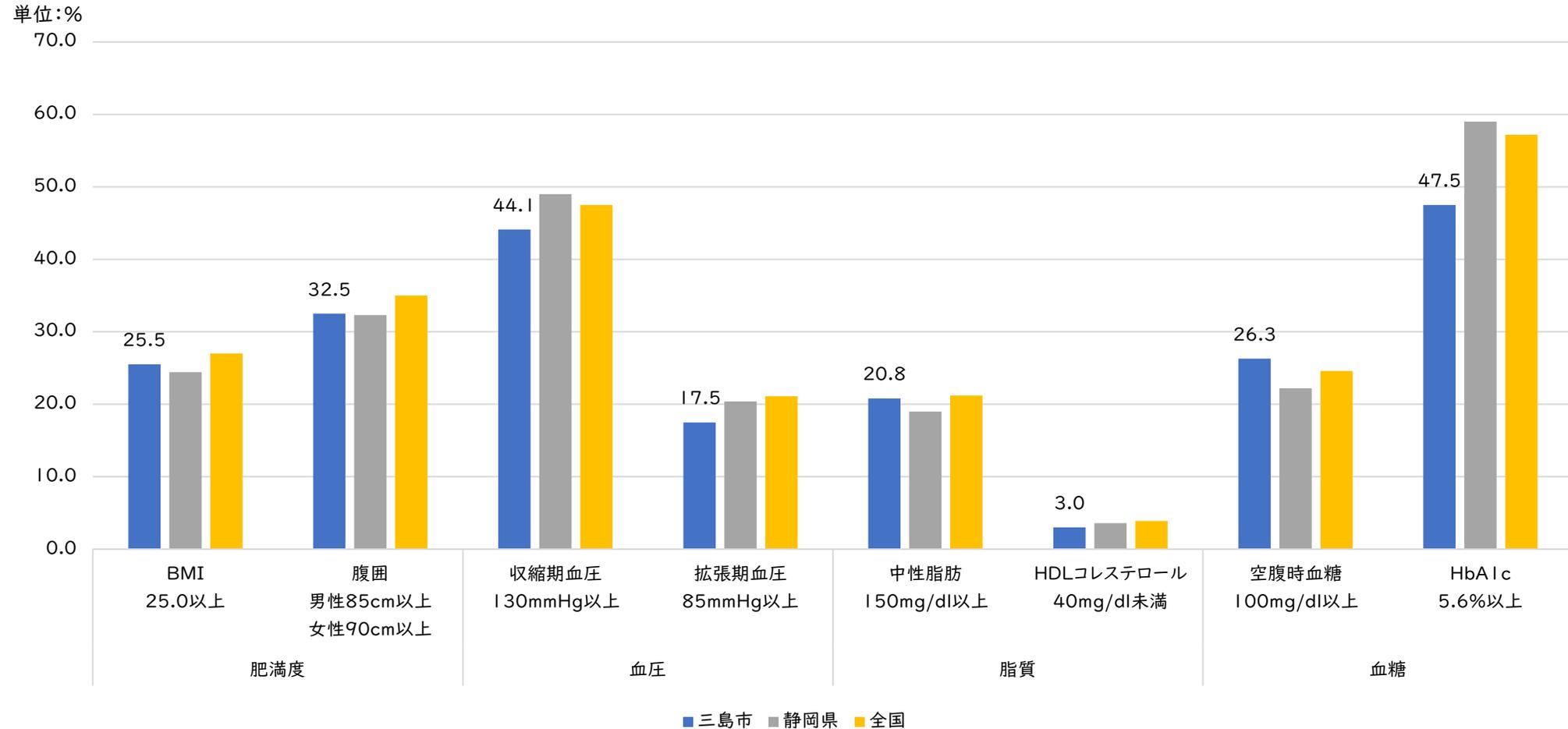
	人数(人)	割合(%)
腹囲基準値以上	2,142	32.5%
高血糖・高血圧症該当者	164	2.4%
高血糖・脂質異常症該当者	60	0.9%
高血圧症・脂質異常症該当者	663	10.1%
3因子全て該当者	432	6.6%
メタボリックシンドローム該当者合計	1,319	20.0%
高血糖予備群	31	0.5%
高血圧症予備群	437	6.6%
脂質異常症予備群	179	2.7%
メタボリックシンドローム予備群合計	647	9.8%

(KDBシステム「厚生労働省様式(様式5-3)メタボリックシンドローム該当者・予備群(令和4年度)」)

3-3. 特定健康診査の受診結果-検査項目別の受診結果

生活習慣病リスク保有者の割合を年齢調整して県と比較すると、「収縮期血圧」(44.1%)「拡張期血圧」(17.5%)、「HDLコレステロール」(3.0%)、「HbA1c」(47.5%)は県平均より少ない状態ですが、「BMI」(25.5%)、「腹囲」(32.5%)、「中性脂肪」(20.8%)、「空腹時血糖」(26.3%)は県平均より多くなっています。

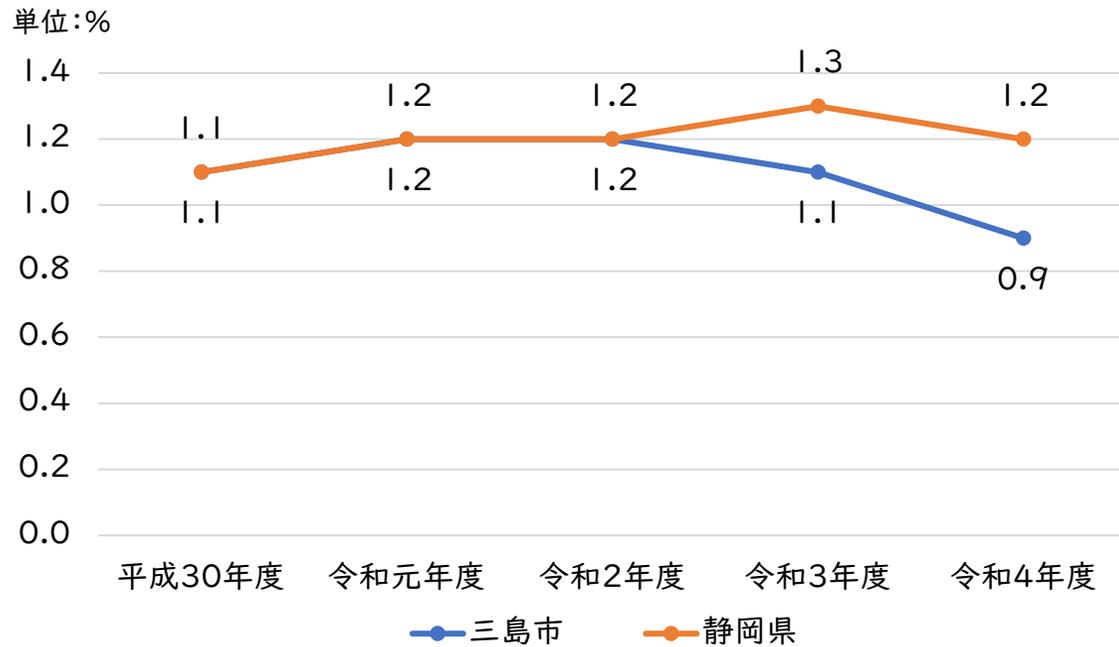
有所見者(保健指導判定値以上)割合の比較(令和4年度)



(KDBシステム「厚生労働省様式(様式5-2)健診有所見者状況(令和4年度)」)

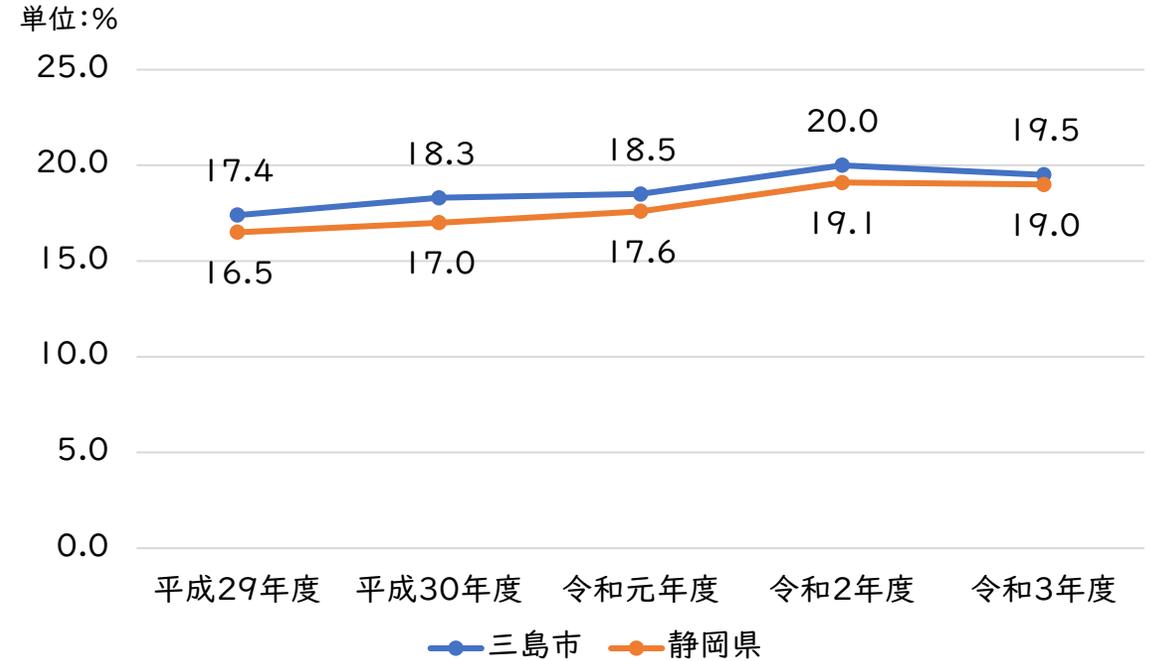
HbA1c8.0%以上の者の割合は近年県平均より低い水準です。内臓脂肪症候群の該当率は例年県と比べるとやや高いですが、その差は縮まってきています。

HbA1c8.0%以上の者の割合



(静岡県共通評価指標)

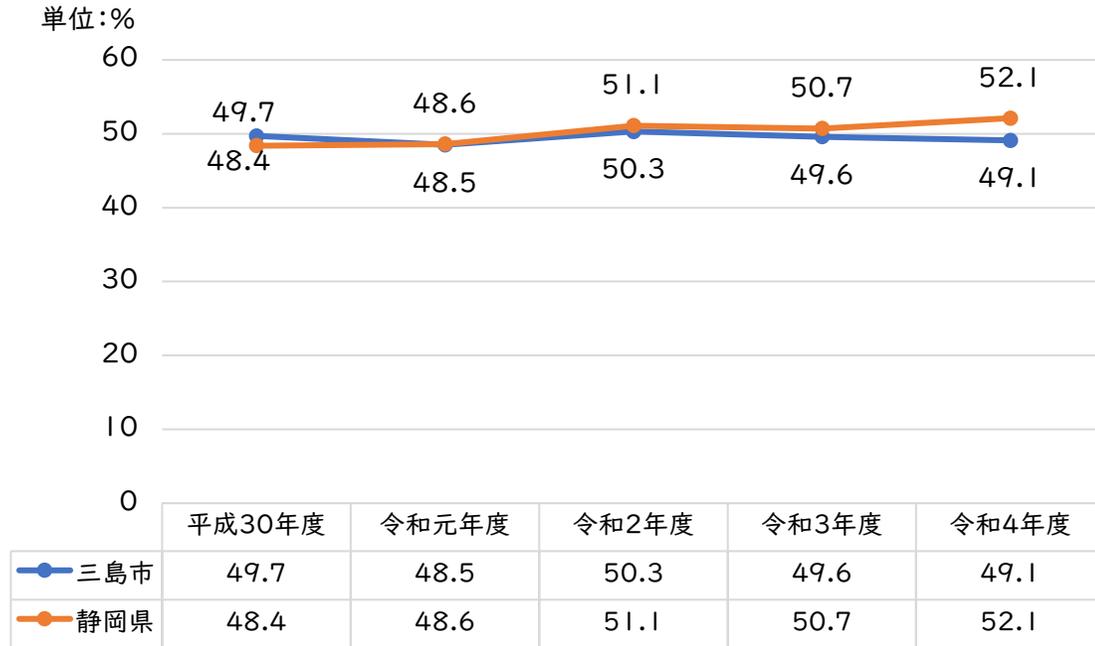
内臓脂肪症候群の該当率



(静岡県共通評価指標)

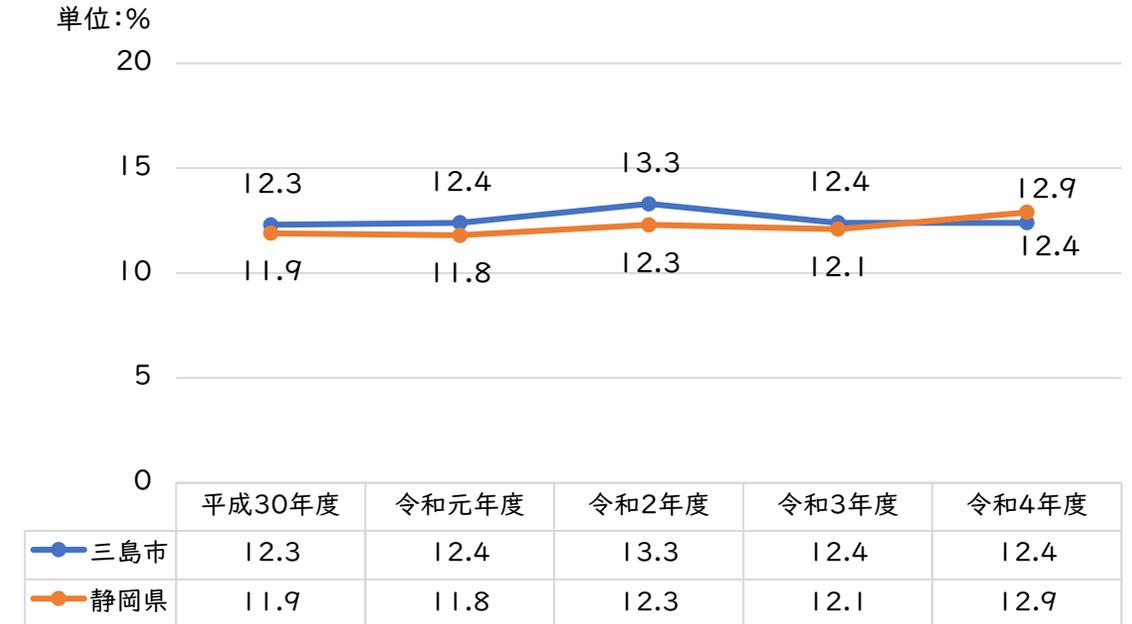
高血圧症有病者の割合（高血圧Ⅰ度以上の割合）は平成30年度時点では県と比較して高い傾向にありましたが、令和元年度に逆転しています。令和2年度にやや増加したものの令和2年度以降減少傾向にあります。高血圧予備群の割合は、ほぼ横ばいの状況です。

高血圧症有病者の割合（高血圧Ⅰ度以上の割合）



（静岡県共通評価指標）

高血圧予備群の割合



※高血圧症予備群…

- ①収縮期血圧が130mmHg以上140mmHg未満、かつ拡張期血圧が90mmHg未満である者
 - ②収縮期血圧が140mmHg未満、かつ拡張期血圧が85mmHg以上90mmHg未満である者
- ただし、①②とも血圧を下げる薬服用者を除く

（静岡県共通評価指標）

特定健診時の質問票調査において、男性の対県との標準化比では「既往歴_脳卒中」(132.1)が高く、該当者割合では、「咀嚼_何でも」(76.8%)が高い状況です。女性の対県との標準化比では「既往歴_脳卒中」(167.1)が高く、該当者割合では、「一日飲酒量(1合未満)」(89.4%)、「咀嚼_何でも」(80.0%)が高い状況です。

質問票調査の状況(男女別)

質問票	男性			女性		
	令和4年度	令和元年～令和4年度(4年平均)		令和4年度	令和元年～令和4年度(4年平均)	
	該当人数	該当者割合	標準化比/対県	該当人数	該当者割合	標準化比/対県
服薬_高血圧症	1,210	44.7%	104.1	1,239	32.0%	99.7
服薬_糖尿病	407	15.0%	129.5	280	7.2%	122.7
服薬_脂質異常症	847	31.3%	121.9	1,527	39.4%	117.3
既往歴_脳卒中	163	6.0%	132.1	149	3.9%	167.1
既往歴_心臓病	248	9.2%	117.6	139	3.6%	102.2
既往歴_慢性腎臓病・腎不全	27	1.0%	93.9	18	0.5%	82.2
既往歴_貧血	158	5.8%	112.6	591	15.2%	104.9
喫煙	538	19.9%	101.1	233	6.0%	125.5
20歳時体重から10kg以上増加	1,178	43.5%	103.2	988	25.5%	104
1回30分以上の運動習慣なし	1,372	50.7%	92.1	2,194	56.6%	93.1
1日1時間以上運動なし	1,377	50.9%	102	1,992	51.4%	102
歩行速度遅い	1,246	46.0%	90.8	1,876	48.4%	91
咀嚼_何でも	2,078	76.8%	99.9	3,103	80.0%	98.4
咀嚼_かみにくい	605	22.3%	100.8	759	19.6%	106.7
咀嚼_ほとんどかめない	25	0.9%	89.3	15	0.4%	111
食べる速度が速い	861	31.8%	108.9	868	22.4%	102.3
食べる速度が普通	1,658	61.2%	96.9	2,726	70.3%	99.2
食べる速度が遅い	190	7.0%	91.6	282	7.3%	100.4
週3回以上就寝前夕食	440	16.3%	103.7	347	8.9%	116.2
3食以外間食_毎日	315	11.6%	98.5	831	21.4%	100
3食以外間食_時々	1,537	56.8%	99.6	2,394	61.8%	99.5
3食以外間食_ほとんど摂取しない	857	31.6%	101.3	651	16.8%	101.8
週3回以上朝食を抜く	292	10.8%	117.7	270	7.0%	124.1
毎日飲酒	1,065	39.3%	99	409	10.5%	119.2
時々飲酒	647	23.9%	100	821	21.2%	106.7
飲まない	996	36.8%	101.1	2,647	68.3%	95.8
1日飲酒量(1合未満)	1,595	58.9%	121.2	3,466	89.4%	103.2
1日飲酒量(1～2合)	699	25.8%	79.8	324	8.3%	79.7
1日飲酒量(2～3合)	326	12.0%	78.6	64	1.6%	71.4
1日飲酒量(3合以上)	88	3.3%	87.4	24	0.6%	107.6
睡眠不足	572	21.1%	87.4	1,023	26.4%	93.7
生活習慣改善意欲なし	717	26.5%	88.2	772	19.9%	87
生活習慣改善意欲あり	785	29.0%	109.9	1,216	31.4%	109.3
生活習慣改善意欲ありかつ始めている	301	11.1%	93.9	531	13.7%	91.9
生活習慣改善取り組み済み6ヶ月未満	251	9.3%	112.3	414	10.7%	105.2
生活習慣改善取り組み済み6ヶ月以上	654	24.2%	102.7	944	24.3%	104.2
保健指導利用しない	1,764	65.1%	100.2	2,441	63.0%	102.5

※令和元年～4年(4年間平均)

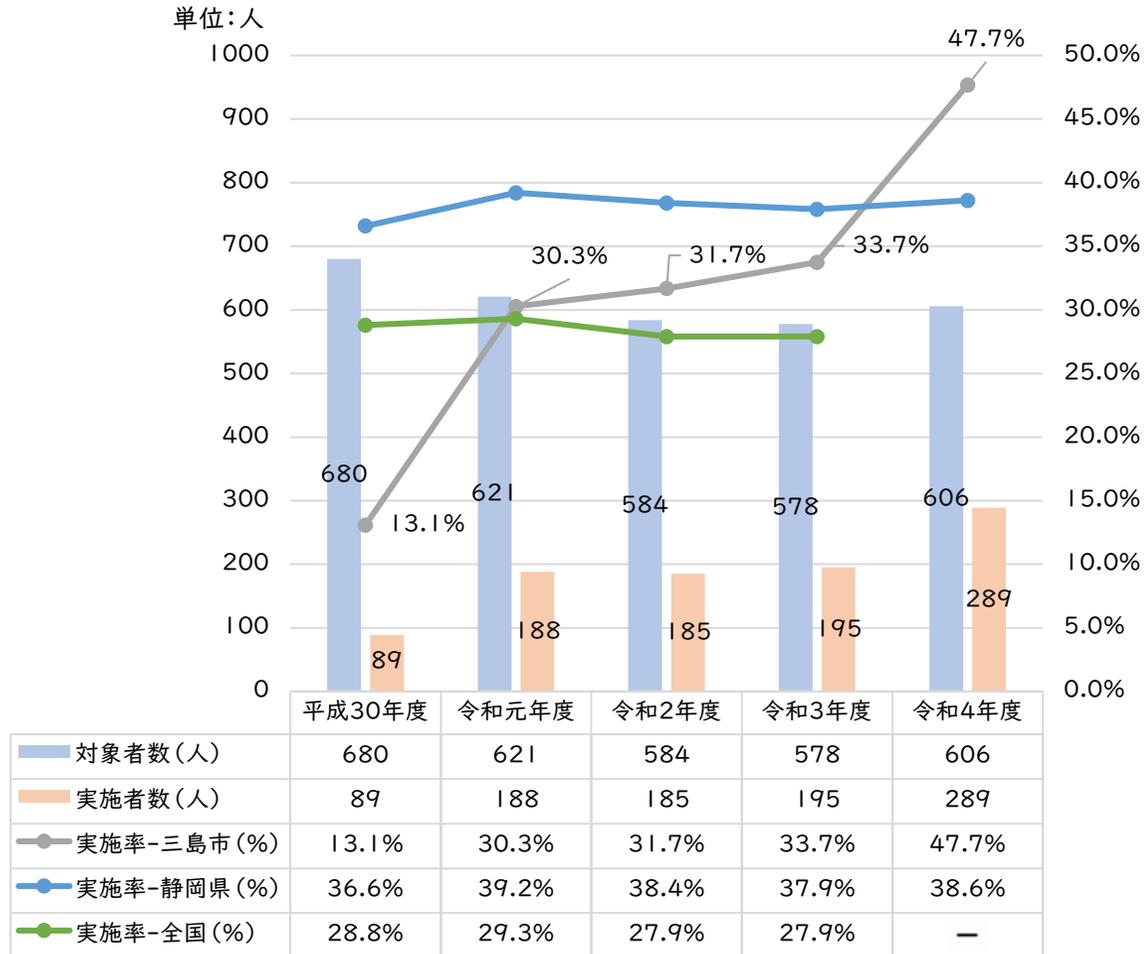
(KDBシステム「質問票調査の状況健診有所見者情報」(令和元年度～4年度))

4.特定保健指導の状況・実施効果

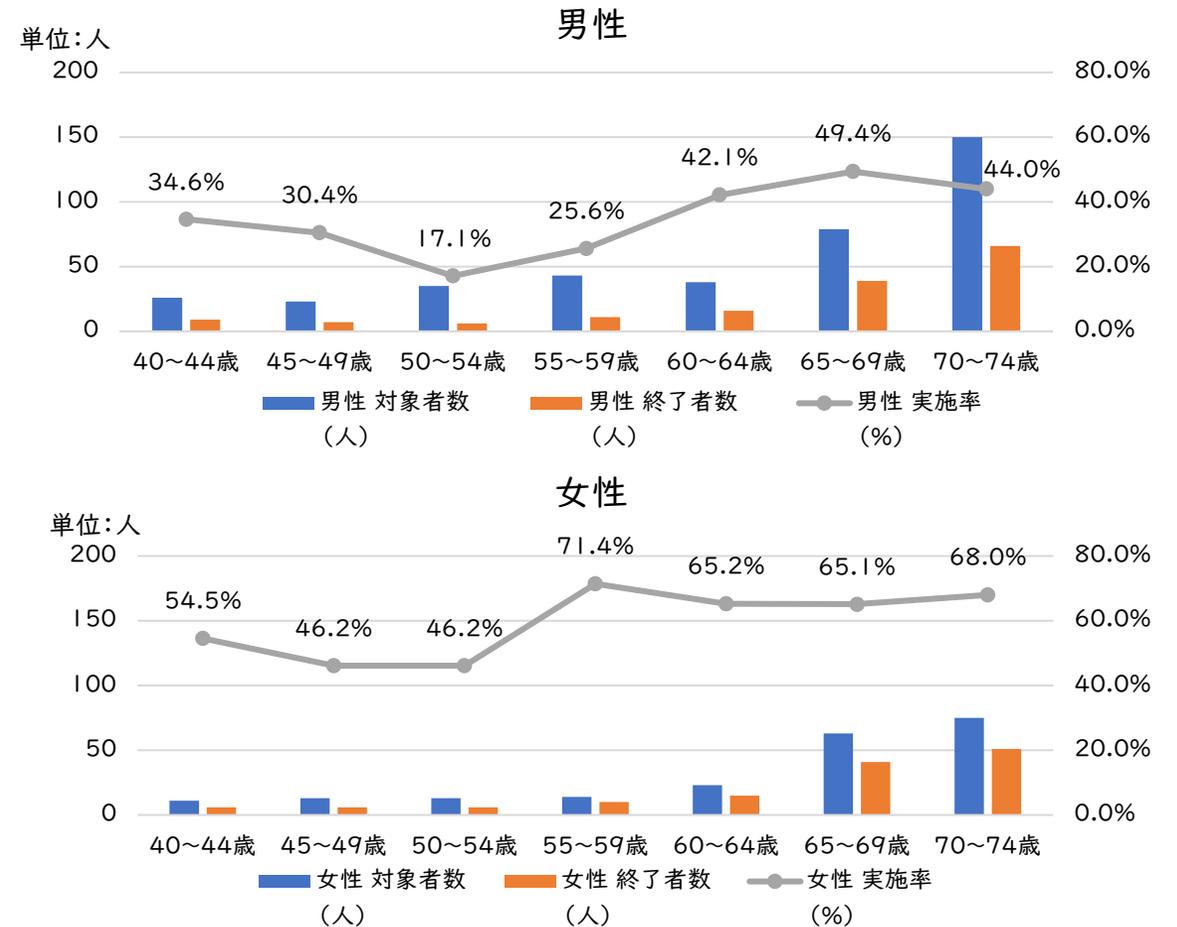
4-1. 特定保健指導の状況①

特定保健指導の実施率は47.7%と県平均より高い状況です。男性は女性に比べ実施率が低く、特に50～54歳の年齢層の実施率が低い状況です。

特定保健指導の実施状況



年齢層別特定保健指導の実施状況(令和4年度)



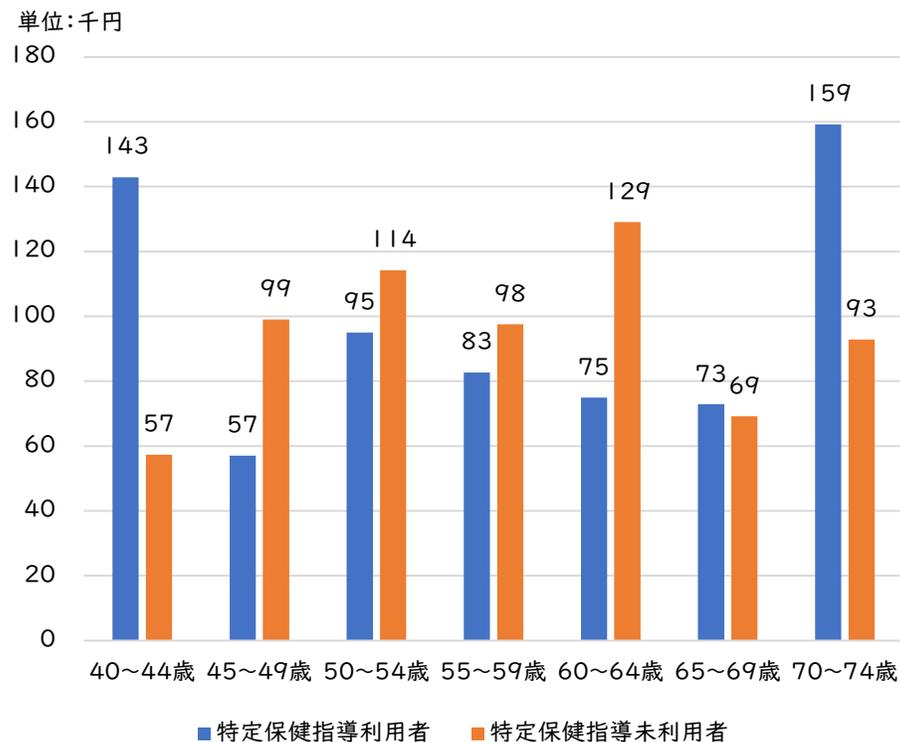
(市、県:「法定報告値(三島市、市町計)」 国:2021年度特定健康診査・特定保健指導の実施状況(概要))

(法定報告)

4-2. 特定保健指導の状況②

特定保健指導利用者と未利用者の一人当たり年間医療費は、70～74歳において特定保健指導利用者の方が高くなっています。未利用者は異常値放置の可能性も考えられます。特定保健指導を行ったことによる次年度の特定保健指導対象者の減少率を見ると、40～44、55～59歳の男性、45～59歳の女性の指導対象者に減少が見られません。

特定保健指導利用者と未利用者の一人当たり年間医療費



(特定健康診査データ「FKCA172特定健康診査結果等情報作成抽出(全保健指導結果情報)(令和3年度)」、レセプトデータ(医科)(令和3年度))

特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率(令和3年度)

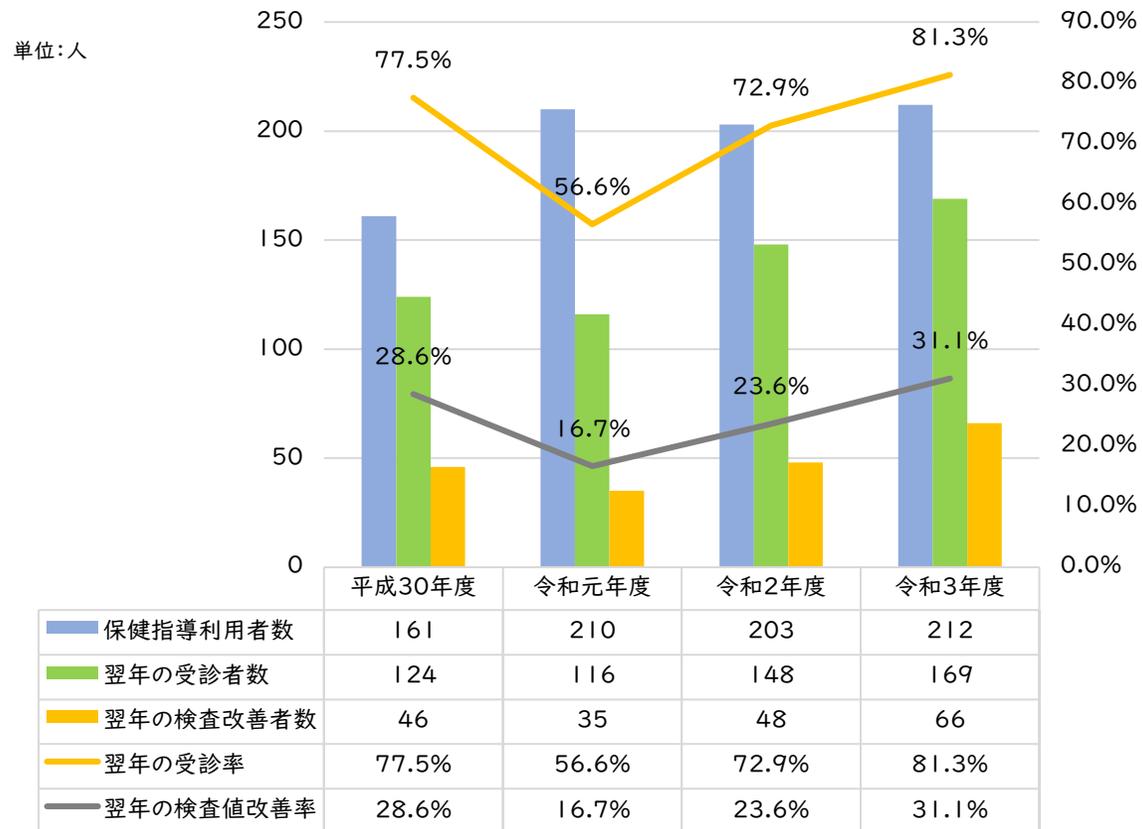


		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳
男性	今年度減少した人数(人)	0	1	2	0	5	8	12
	昨年度利用者数(人)	4	6	10	7	13	23	43
	減少率(%)	0.0%	16.7%	20.0%	0.0%	38.5%	34.8%	27.9%
女性	今年度減少した人数(人)	3	0	0	0	1	6	7
	昨年度利用者数(人)	3	3	5	3	5	21	29
	減少率(%)	100%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	28.6%	24.1%
全体	今年度減少した人数(人)	3	1	2	0	6	14	19
	昨年度利用者数(人)	7	9	15	10	18	44	72
	減少率(%)	42.9%	11.1%	13.3%	0.0%	33.3%	31.8%	26.4%

(特定健診データ「TKCA011特定健診・特定保健指導実施結果報告(令和3年度)」)

特定保健指導利用者の翌年度健診受診率は令和3年度で81.3%、翌年度検査値改善率は31.1%でした。令和元年度、令和2年度の翌年度受診率および検査値改善率が低い理由は新型コロナウイルスの影響によるものと考えられますが、令和3年度の翌年受診率および検査値改善率はコロナ前の水準まで回復しています。

特定保健指導利用者の翌年度健診受診率及び検査値改善率



※翌年の受診者数は保健指導利用者数から翌年国保喪失者数を引いて算出しています。

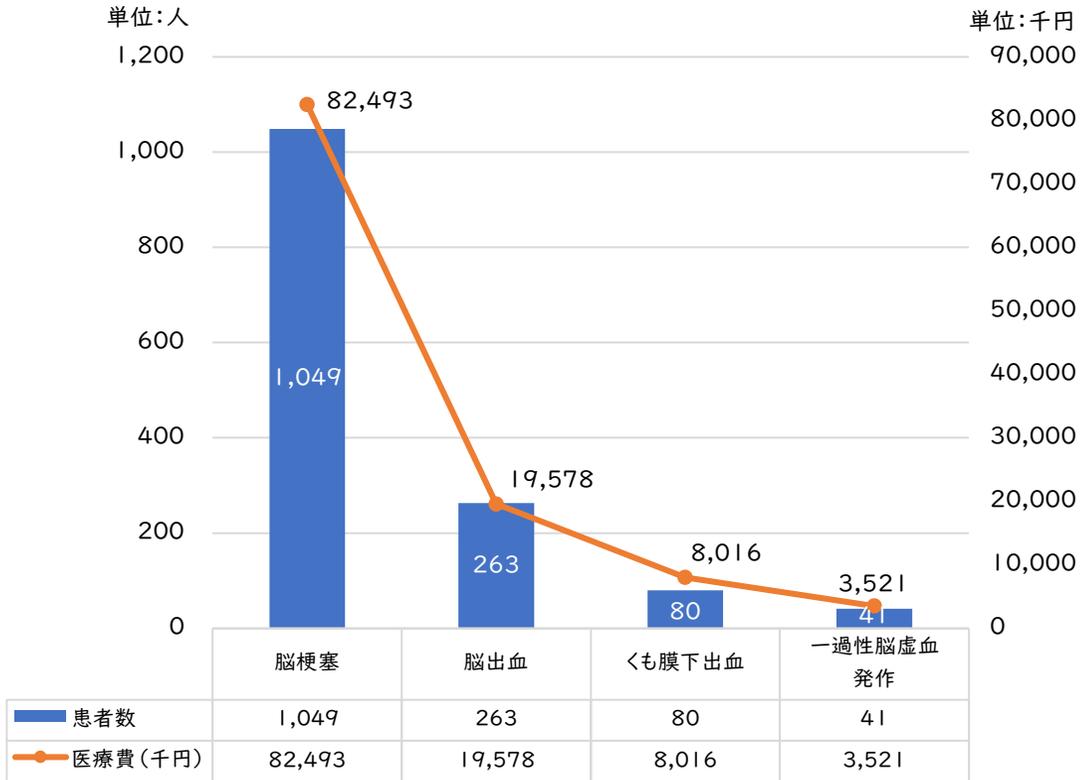
(特定健康診査データ「FKAC167特定健康診査結果等情報作成抽出(健診結果情報(横展開))」、「FKCA172法定報告」、被保険者管理台帳)

5.重症化予防事業に関する状況

5-1. 脳血管疾患患者の状況

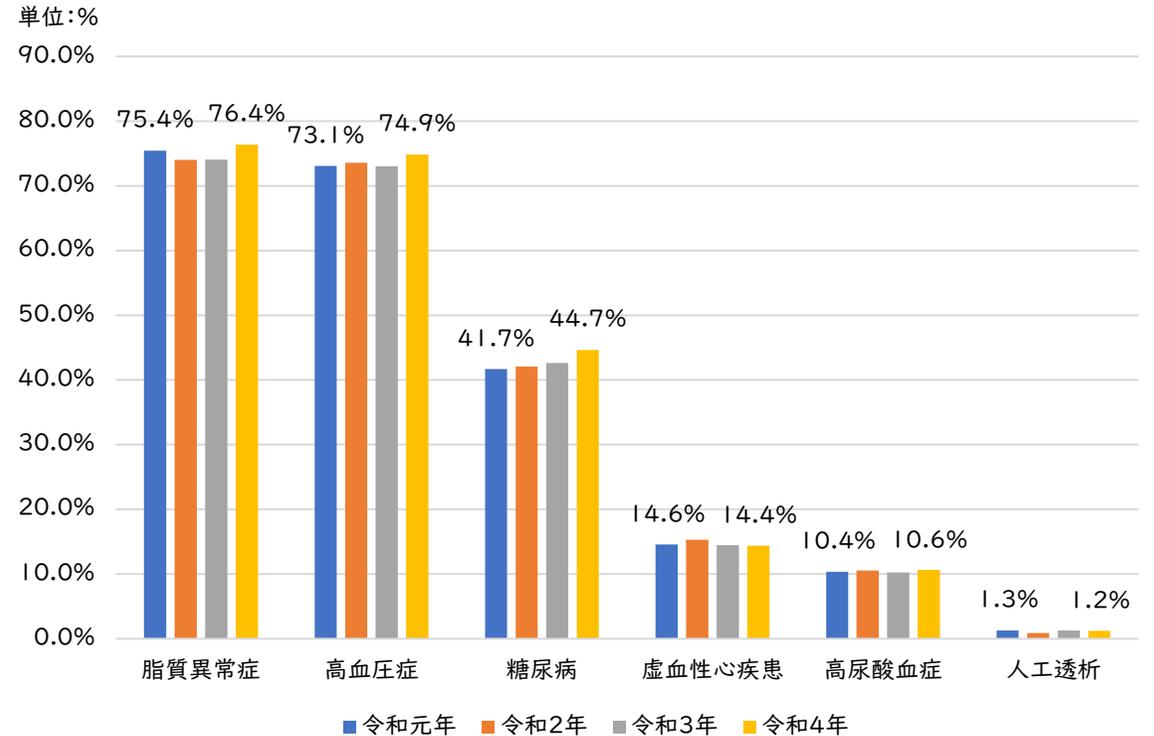
主要4疾患の中で脳血管疾患患者数の内訳として脳梗塞が最も多い状況です。
脳血管疾患患者の有病状況として「脂質異常症」「高血圧症」の割合が例年特に高い状況が続いています。

脳血管疾患の患者数、医療費（令和4年度）



（「レセプトデータ(医科、DPC)（令和4年度）」）

脳血管疾患患者の有病状況

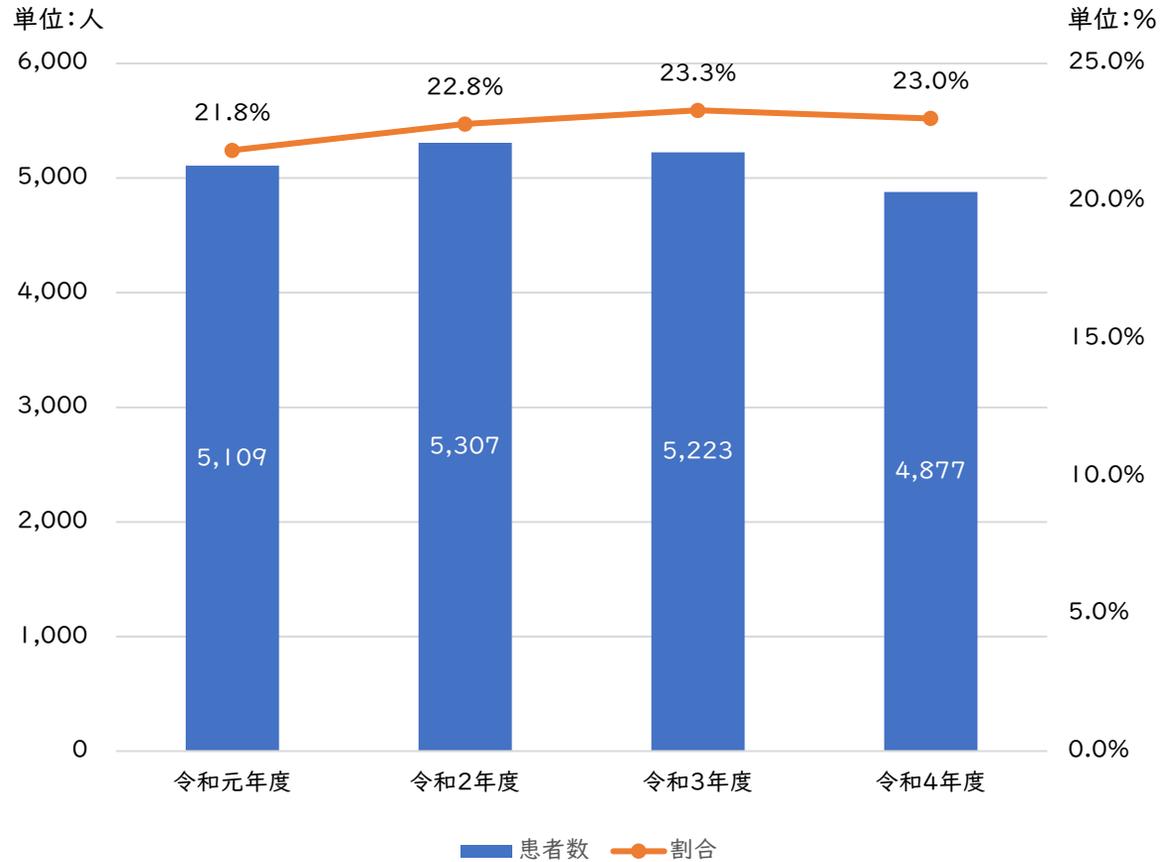


（KDBシステム「脳血管疾患のレセプト分析（各年度3月時点）」）

5-2. 高血圧症患者の状況

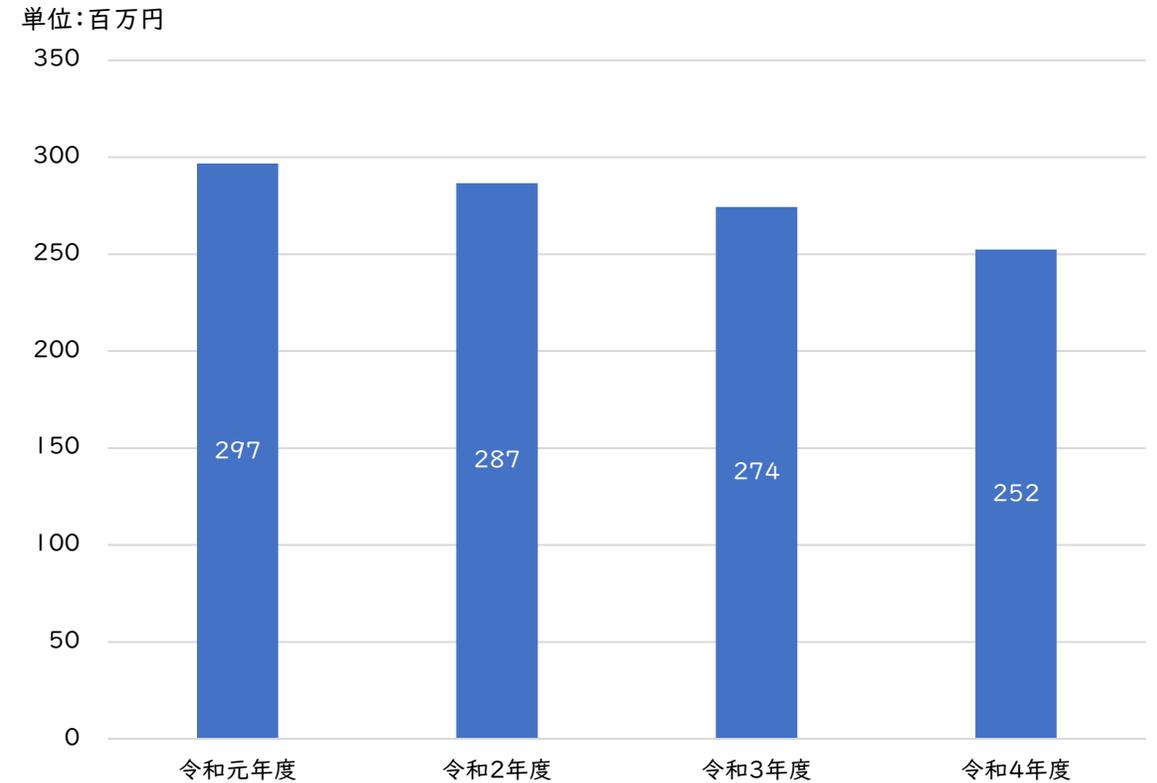
高血圧症患者の割合は増加傾向にあります。
高血圧症患者の医療費は令和元年度から年々減少しています。

高血圧症患者数と割合の推移



(KDBシステム「高血圧症のレセプト分析(各年度3月時点)」)

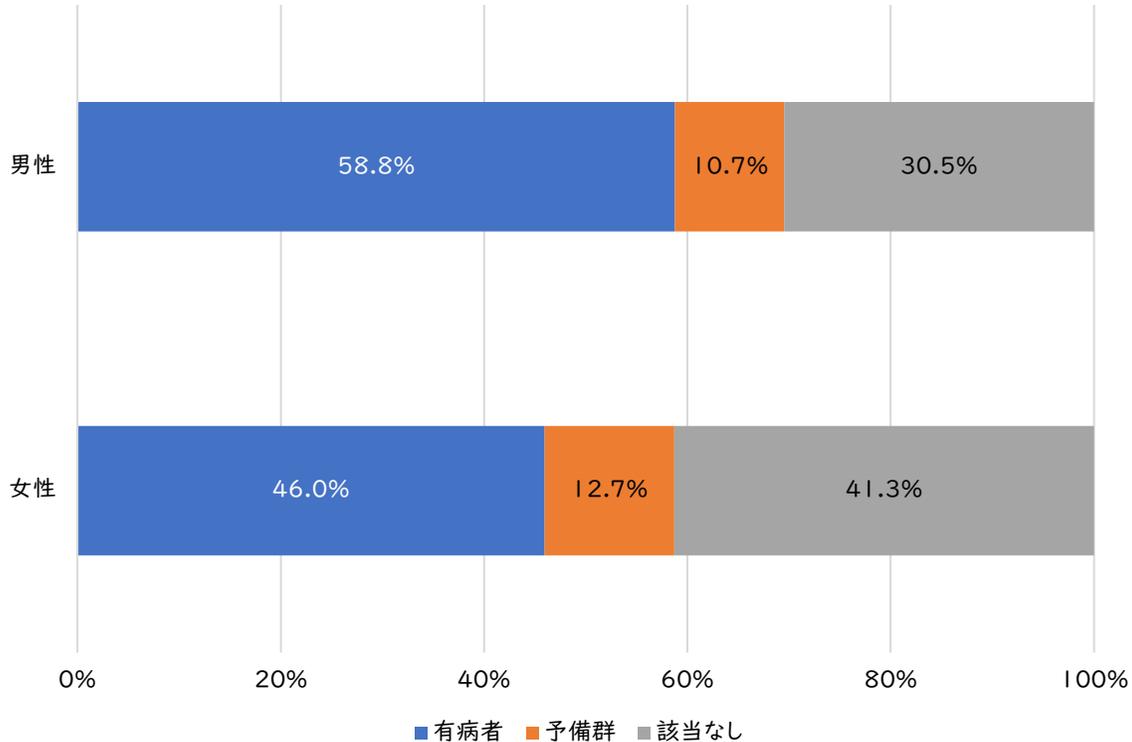
高血圧症年間医療費の推移



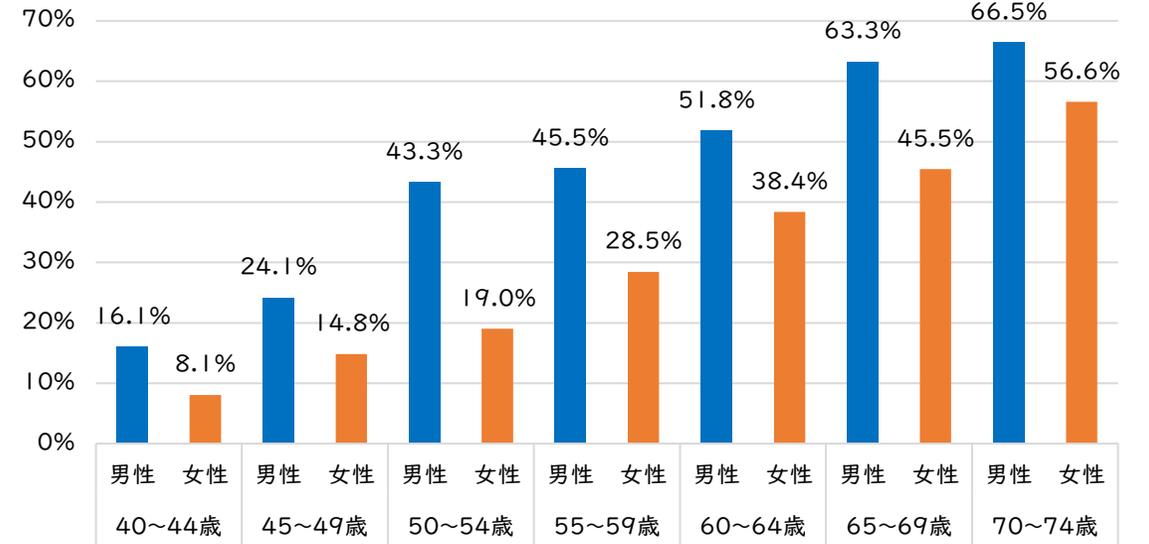
(KDBシステム「医療費分析(2)大、中、細小分類」)

令和4年度に特定健康診査を受けた人の中で、高血圧症有病者及び予備群の割合は、男性の割合が高く、男性の有病者においては58.8%に至ります。高血圧症有病者の割合（年代別男女別）は、年齢とともに増え、70～74歳以上の男性では66.5%に上ります。

高血圧症有病者及び予備群の割合



高血圧症有病者の割合（年代別男女別）

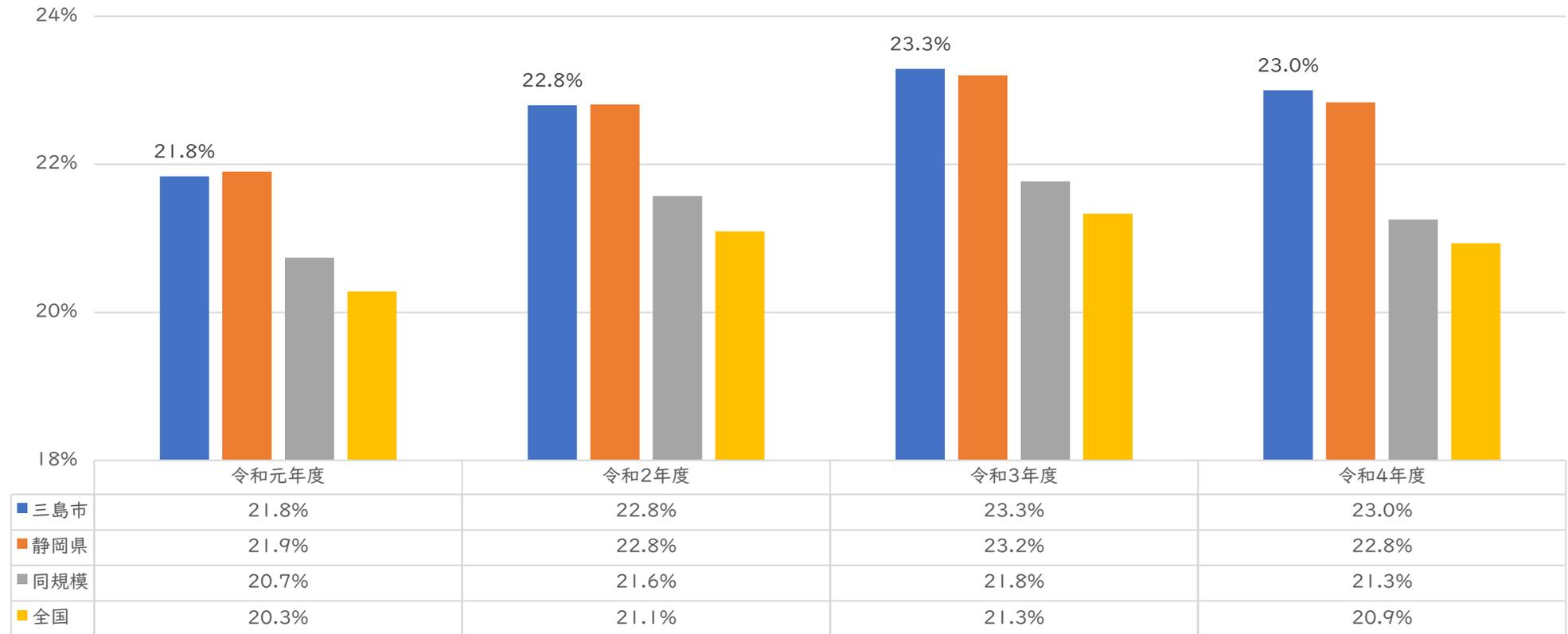


（特定健診データ「FKAC167特定健診結果等情報作成抽出（健診結果情報（横展開））（令和4年度）」）

（特定健診データ「FKAC167特定健診結果等情報作成抽出（健診結果情報（横展開））（令和4年度）」）

高血圧症有病率を県・同規模・国と比較すると、令和3年度から最も高くなっています。

高血圧症有病率（県・同規模・国との比較）



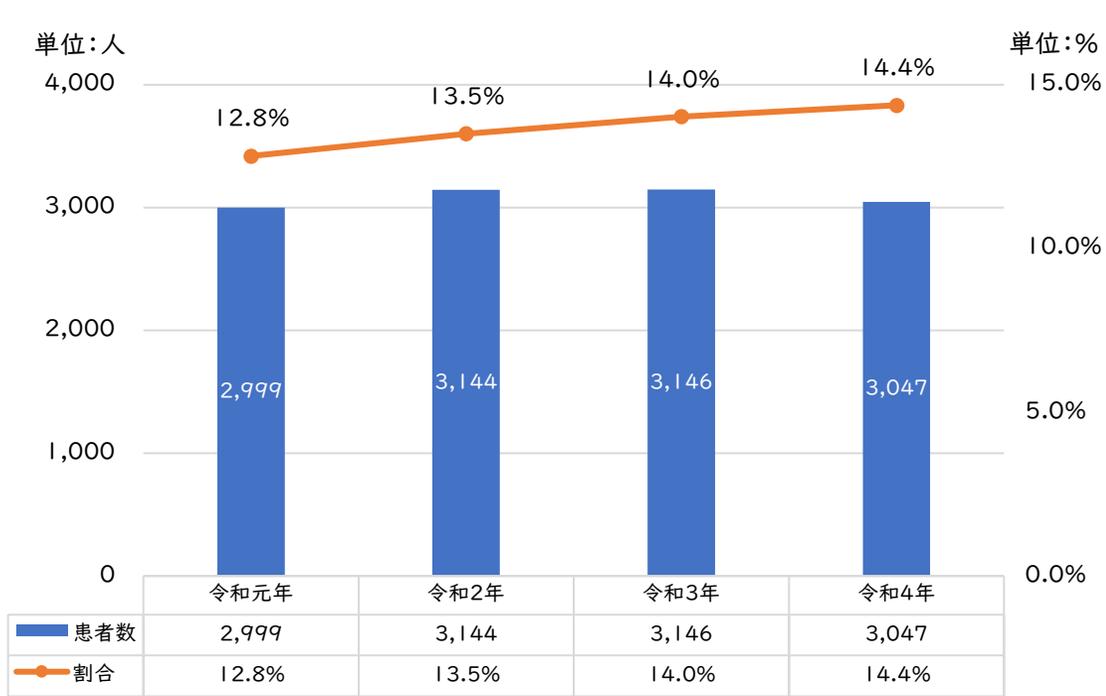
(KDBシステム「医療費分析(1)細小分類」)

6.人工透析・糖尿病患者の状況

6-1. 糖尿病患者の分析

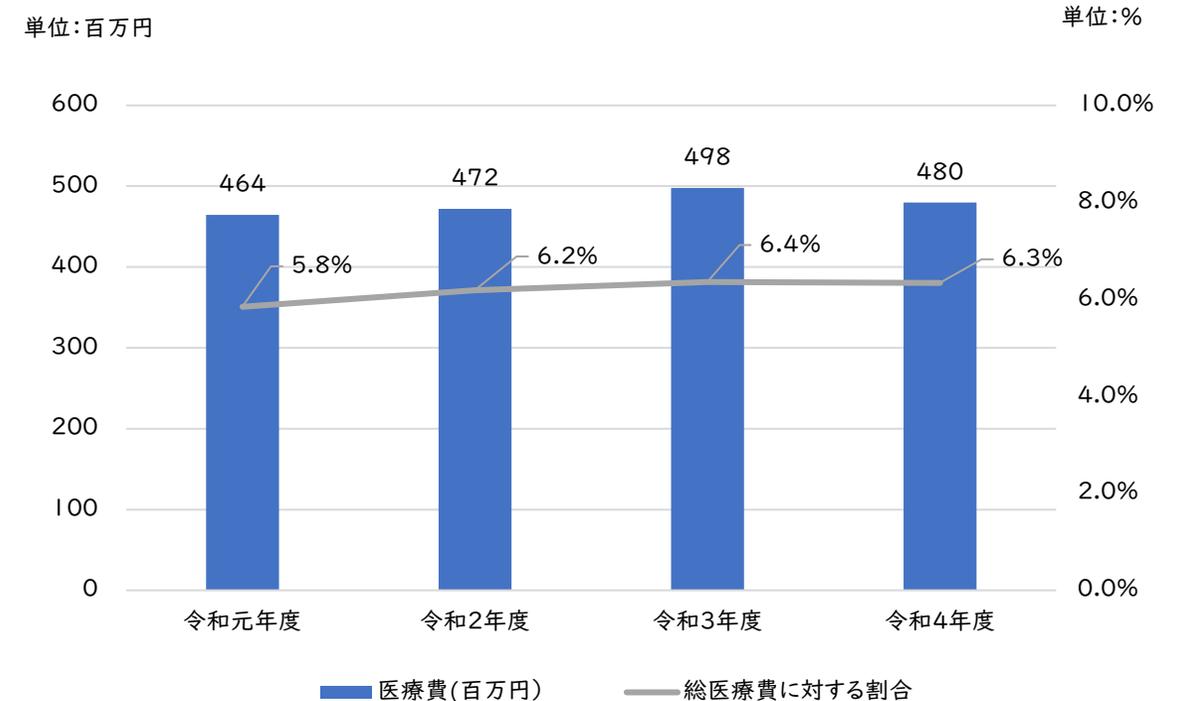
糖尿病患者数は多少の増減でほぼ変わらないものの、被保険者全体に占める患者割合は年々微増傾向です。糖尿病年間医療費は令和元年度から令和3年度まで上がり続け、令和4年度で下がっています。患者割合の増加に伴い、今後徐々に医療費も増加する可能性が見込まれます。

糖尿病患者数の推移



(KDBシステム「糖尿病のレセプト分析(各年度3月時点)」)

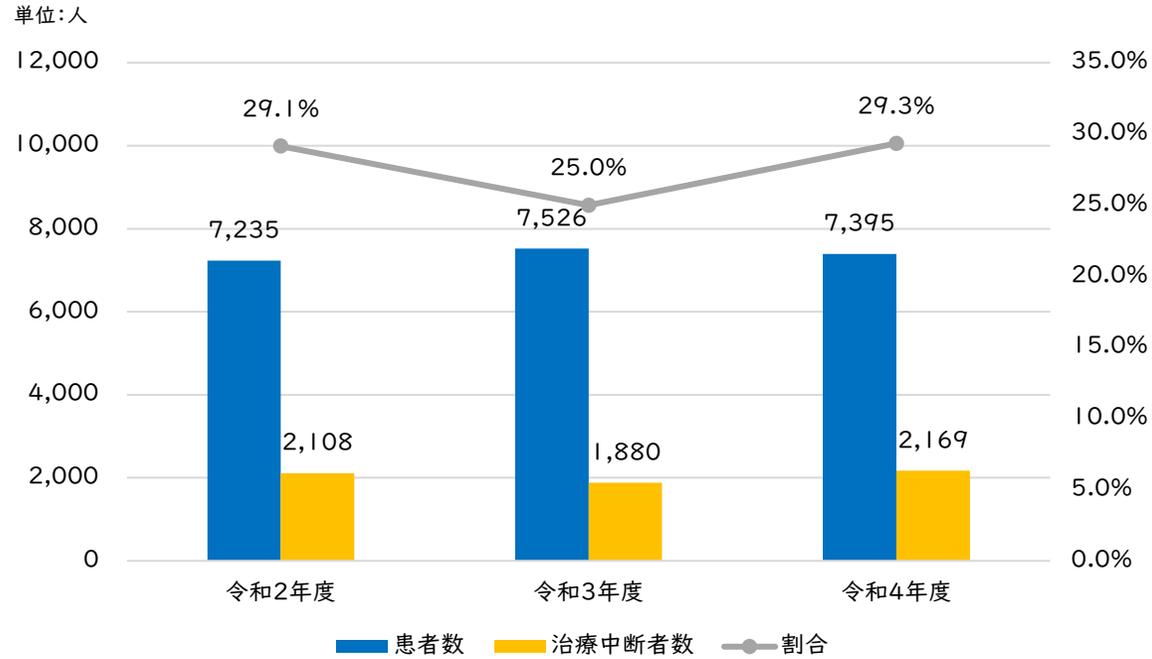
糖尿病年間医療費の推移(百万円)



(KDBシステム「医療費分析(2)大、中、細小分類」)

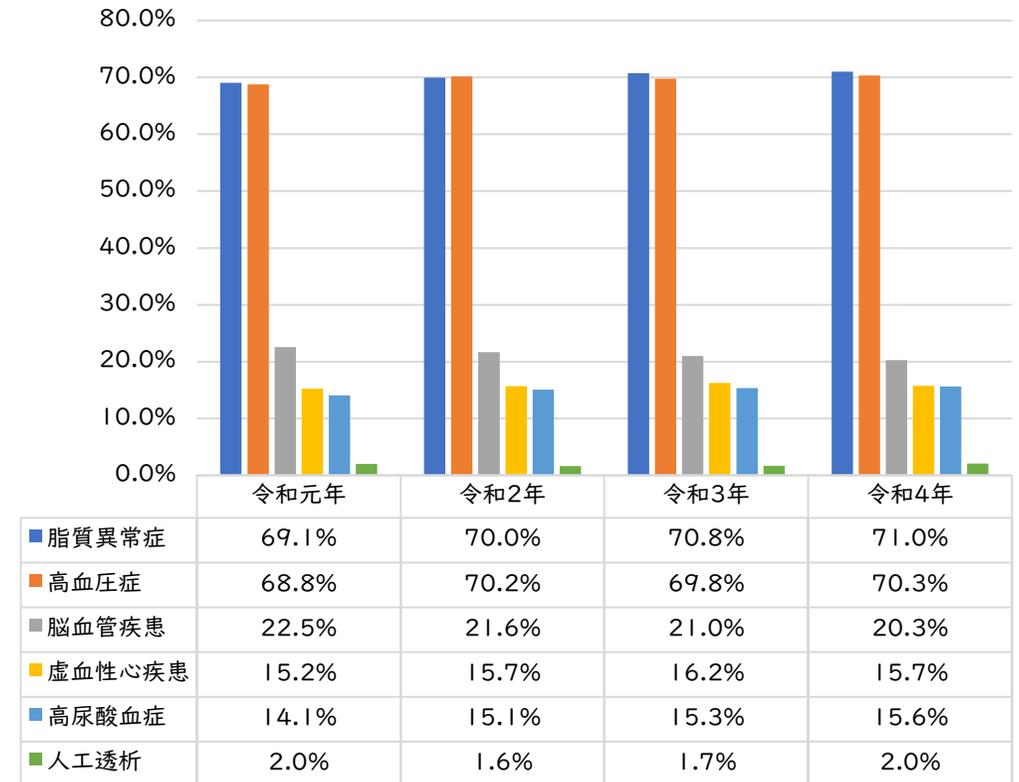
糖尿病患者の治療中断者の状況は、令和3年度は減少したものの、令和4年度には29.3%に増加しています。
 糖尿病患者の有病状況は、例年、「脂質異常症」「高血圧症」の割合が高く、令和4年においては微増しています。

糖尿病患者の治療中断者の状況



(レセプトデータ(医科、DPC、調剤))

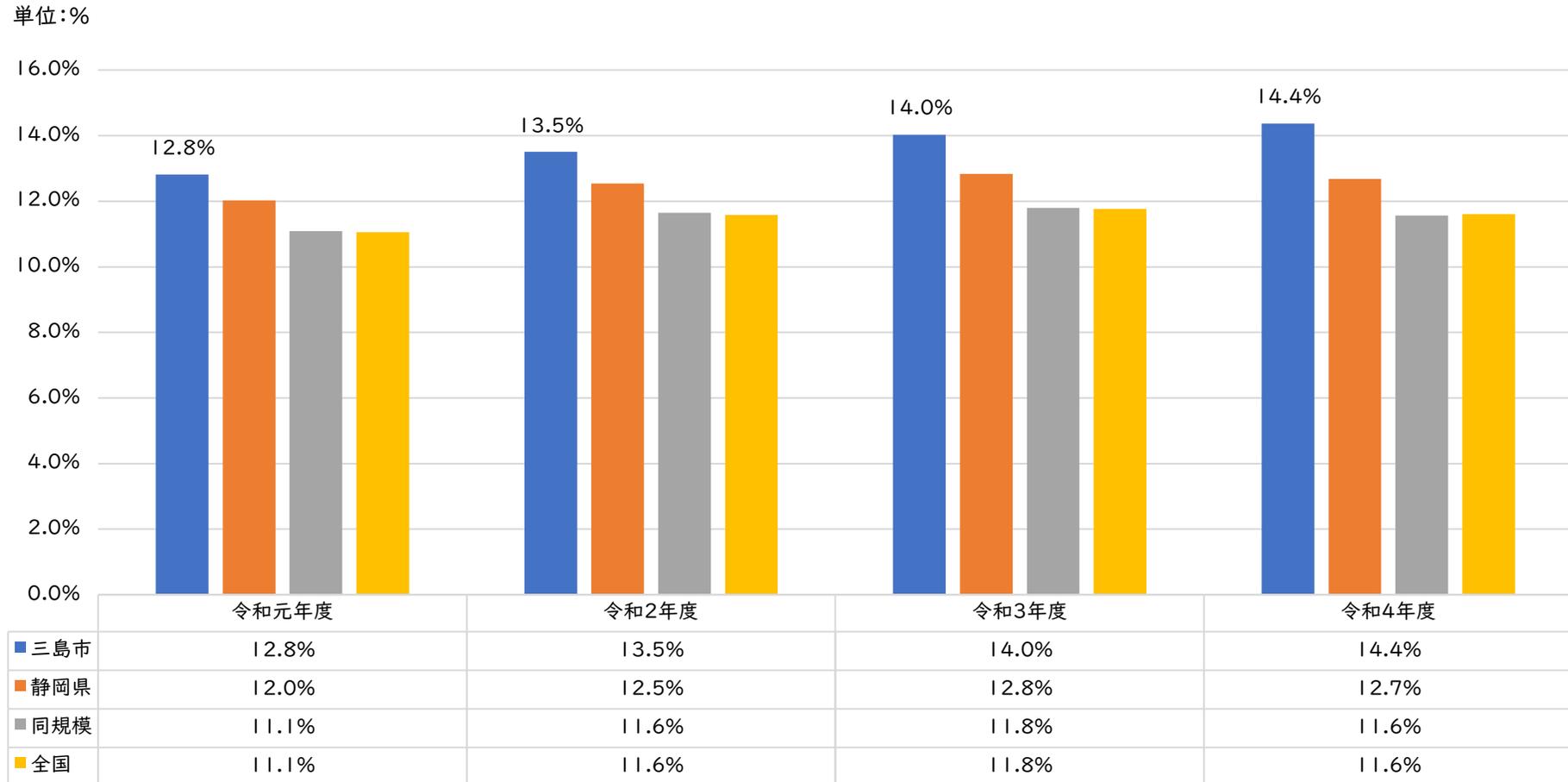
糖尿病患者の有病状況



(KDBシステム「糖尿病のレセプト分析(各年度3月時点)」)

糖尿病有病率は国・県・同規模と比較して例年若干高い傾向にあります。

糖尿病有病率(国・県・同規模との比較)

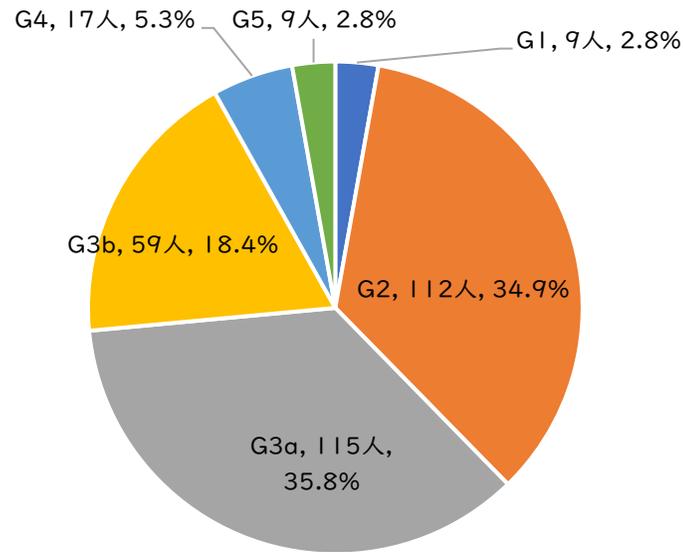


(KDBシステム「医療費分析(1)細小分類」)

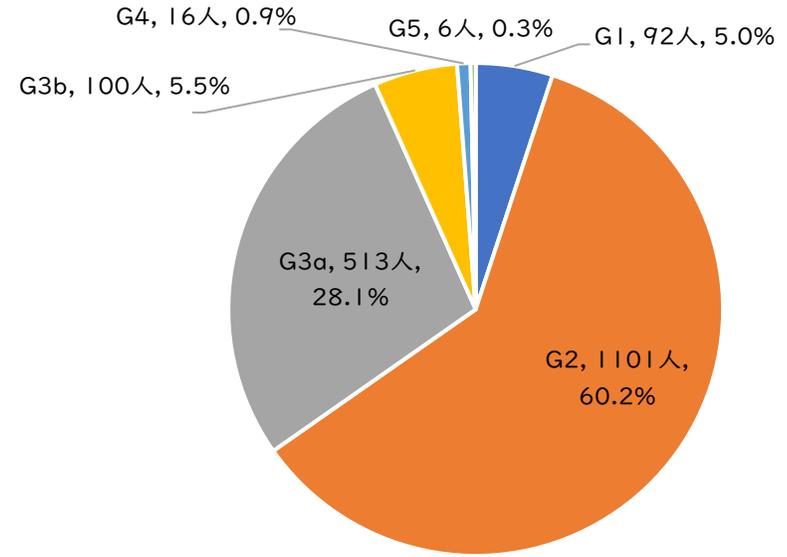
6-2. 腎症患者の状況

慢性腎臓病患者数はG2,G3aで割合が高い状況です。健診を受けることにより回復の余地があるG1,2の段階で慢性腎臓病の早期発見をし、健康管理に努めることは、慢性腎臓病の予防や重症化予防に非常に重要です。糖尿病患者の腎症ステージをみると、回復の余地があるG1,G2は65.2%と割合が高い状況にあります。またG3は33.6%となっており、糖尿病や高血圧・肥満の方はリスクが高まるため、自覚症状のない早い段階から生活習慣の改善に努め、糖尿病性腎症への合併や進行を予防することが重要です。

慢性腎臓病患者の病期階層



腎症ステージ(糖尿病患者)



慢性腎臓病は、その進行度によってステージ(病期)第1期から第5期の5段階に分けられ、ステージ分類によると、G1は「腎障害はあるが腎臓の働きは正常の状態」、G2は「軽度の機能障害がある状態」とされ、G1,G2では自覚症状はほとんどなく、健診などで発見されることが多い段階である。G3は「腎臓の機能が半分近く低下している状態」であり、尿の異常やむくみなどの自覚症状が現れ始める段階となる。

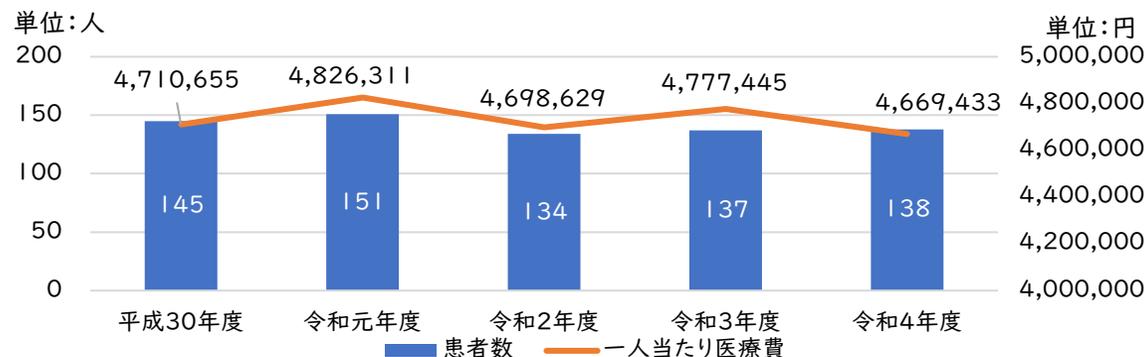
(KDBシステム「疾病管理一覧(慢性腎臓病)(令和4年度)」)

(KDBシステム「疾病管理一覧(慢性腎臓病)(令和4年度)」)

6-3. 人工透析の状況 / 新規人工透析導入者の状況

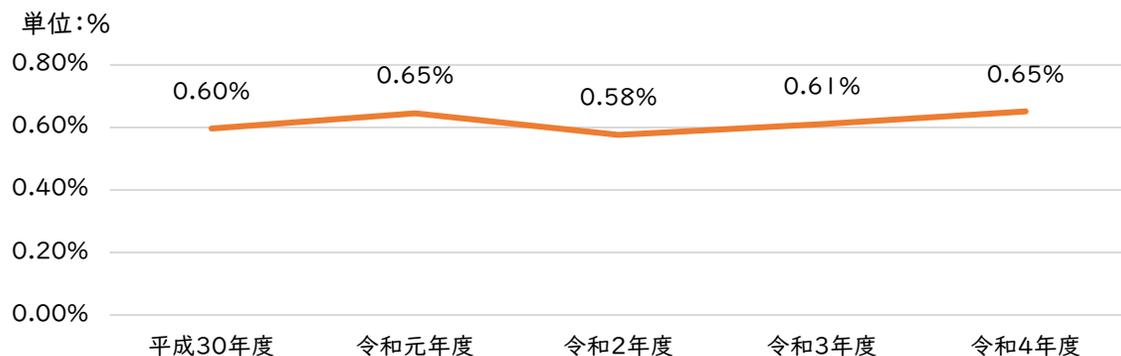
人工透析患者数は令和4年度時点で138人となっており、最も多い令和元年と比較すると13人減少しています。有病率は例年0.6%前後を推移しています。引き続き新規透析者を増やさない対策が必要です。また、新規人工透析者の有病状況は、「高血圧症」と「糖尿病」が特に高くなっています。

人工透析患者数、一人当たり年間医療費



(KDBシステム「人工透析患者一覧」)

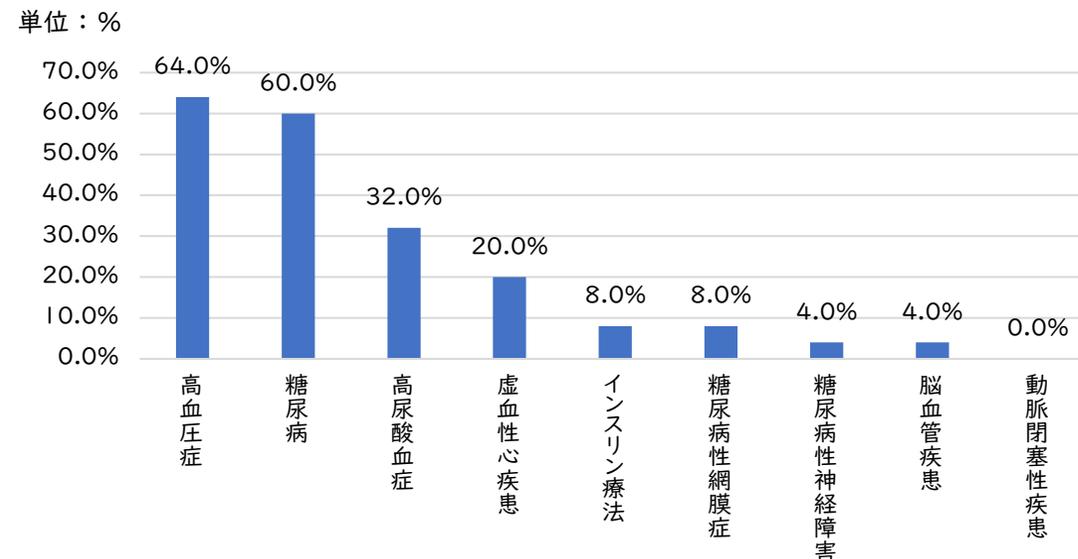
人工透析有病率



有病率…(患者数/被保険者数)の割合

(KDBシステム「人工透析患者一覧」)

新規人工透析導入者有病状況(令和4年度)



(KDBシステム「人工透析患者一覧(令和4年度)」)

※人工透析…血液透析、腹膜透析

7.受診行動適正化事業に関する状況

受診行動適正化に係る分析

重複受診者が被保険者全体の1.37% (290人)。頻回受診者が被保険者全体の0.08% (16人)。
 重複投薬者が被保険者全体の0.13% (28人)。薬剤併用禁忌対象数者が被保険者全体の0.95% (202人)となっています。

年間重複受診(令和4年度)

年間実人数	年間延べ人数	年間延べ受診件数	年間延べ点数
290	556	7,805	5,501,927

順位	薬効別分類	年間延べ人数(人)	割合(%) ※1	順位	傷病名別分類	年間延べ人数(人)	割合(%) ※2
1	他に分類されない代謝性医薬品	291	8.96%	1	高血圧症	96	12.90%
2	鎮痛, 鎮痒, 収斂, 消炎剤	279	8.59%	2	不眠症	74	9.95%
3	消化性潰瘍用剤	178	5.48%	3	糖尿病	59	7.93%
4	局所麻酔剤	171	5.26%	4	アレルギー性鼻炎	46	6.18%
5	血液代用剤	143	4.40%	5	慢性腎不全	41	5.51%
6	解熱鎮痛消炎剤	123	3.79%	6	便秘症	39	5.24%
7	眼科用剤	120	3.69%	7	湿疹	28	3.76%
8	血圧降下剤	113	3.48%	8	変形性膝関節症	23	3.09%
9	ビタミンA及びD剤	100	3.08%	9	COVID-19	19	2.55%
10	抗パーキンソン剤	94	2.89%	10	関節リウマチ	18	2.42%

※1 薬効別分類の割合=薬効別分類ごとの年間延べ人数/薬効別分類全体の年間延べ人数(3,248人)

※2 傷病名別分類の割合=傷病名別分類ごとの年間延べ人数/傷病名別分類全体の年間延べ人数(744人)

(レセプトデータ(医科, DPC, 調剤)(令和4年度))

年間頻回受診(令和4年度)

年間実人数	年間延べ人数	年間延べ受診件数	年間延べ点数
16	39	523	633,583

順位	薬効別分類	年間延べ人数(人)	割合(%) ※1	順位	傷病名別分類	年間延べ人数(人)	割合(%) ※2
1	止しゃ剤, 整腸剤	8	10.53%	1	慢性胃炎	10	3.36%
2	局所麻酔剤	7	9.21%	2	便秘症	10	3.36%
3	眼科用剤	7	9.21%	3	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	7	2.35%
4	下剤, 浣腸剤	5	6.58%	4	不安神経症	7	2.35%
5	鎮痛, 鎮痒, 収斂, 消炎剤	5	6.58%	5	アレルギー性鼻炎	7	2.35%
6	血液代用剤	3	3.95%	6	大腸癌	6	2.01%
7	化膿性疾患用剤	3	3.95%	7	不眠症	6	2.01%
8	消化性潰瘍用剤	3	3.95%	8	頭痛	5	1.68%
9	その他の消化器用薬	3	3.95%	9	高血圧症	5	1.68%
10	漢方製剤	3	3.95%	10	腹部膨満	5	1.68%

※1 薬効別分類の割合=薬効別分類ごとの年間延べ人数/薬効別分類全体の年間延べ人数(76人)

※2 傷病名別分類の割合=傷病名別分類ごとの年間延べ人数/傷病名別分類全体の年間延べ人数(298人)

(レセプトデータ(医科, DPC, 調剤)(令和4年度))

年間重複投薬（令和4年度）

年間実人数	年間延べ人数	年間延べ受診件数	年間延べ点数
28	63	72	5,166

順位	薬効別分類	年間延べ人数(人)	割合(%) ※1	順位	傷病名別分類	年間延べ人数(人)	割合(%) ※2
1	他に分類されない代謝性医薬品	19	12.34%	1	高血圧症	41	3.25%
2	精神神経用剤	15	9.74%	2	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	31	2.46%
3	催眠鎮静剤, 抗不安剤	15	9.74%	3	不眠症	22	1.74%
4	その他の循環器官用薬	14	9.09%	4	糖尿病	22	1.74%
5	血圧降下剤	12	7.79%	5	便秘症	21	1.66%
6	高脂血症用剤	10	6.49%	6	高尿酸血症	20	1.58%
7	抗パーキンソン剤	7	4.55%	7	鉄欠乏性貧血	20	1.58%
8	その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬	6	3.90%	8	骨粗鬆症	17	1.35%
9	あへんアルカロイド系麻薬	6	3.90%	9	腰痛症	15	1.19%
10	血液凝固阻止剤	5	3.25%	10	遠視性乱視	15	1.19%

※1 薬効別分類の割合=薬効別分類ごとの年間延べ人数/薬効別分類全体の年間延べ人数(154人)

※2 傷病名別分類の割合=傷病名別分類ごとの年間延べ人数/傷病名別分類全体の年間延べ人数(1,262人)

(レセプトデータ(医科, DPC, 調剤)(令和4年度))

分析結果より、12カ月で重複受診者は290人、頻回受診者は16人、重複服薬者は28人存在します。機械的に多受診者を特定した場合、問題になるのは、その患者の多くに「必要な医療」の可能性がある患者も含まれていることです。機械的に多受診患者を特定するのではなく、十分な分析の上、指導対象者を特定する必要があります。ここでは令和4年4月～令和5年3月診療分（12カ月分）のレセプトを対象に、「条件設定による指導対象者の特定」「除外設定」「優先順位」の3段階を経て分析しました。

はじめに、「条件設定による指導対象者の特定」を行いました。重複受診・頻回受診・重複服薬を併せ持つ患者がいるため前述の分析結果より患者数は減少します。次に、指導対象者として適切ではない可能性がある患者を「除外設定」により除外します。必要な医療の可能性がある患者、また指導が困難な可能性がある患者、事業の効果を測定できない患者についても除外します。

指導対象者の特定（重複受診者、頻回受診者、重複服薬者）

- ・重複受診患者 … 1カ月間で同系の疾病を理由に3医療機関以上受診している患者
- ・頻回受診患者 … 1カ月間で同一医療機関に12回以上受診している患者
- ・重複服薬者 …… 1カ月間で同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える患者

条件設定により候補者となった患者数	313人
-------------------	------

（レセプトデータ（医科、DPC）（令和4年度））

除外設定（重複受診者、頻回受診者、重複服薬者）

		除外患者数
除外	がん、精神疾患、難病、認知症、人工透析	236人



除外患者を除いた候補者数	77人
--------------	-----

（レセプトデータ（医科、DPC）（令和4年度））

次に、残る対象者77人のうち、指導することでより効果が高く、より効率の良い対象者を特定します。これらは費用対効果を重視し、「優先順位」を決めるためです。効果については、レセプト期間最終月から、6カ月間遡ったレセプトのうち5~6カ月重複受診・頻回受診・重複服薬に該当する患者を最優先します。効率については、指導のアポイントメントが取りやすい等の理由から60歳以上を最優先とし、次に、50歳~59歳を対象としました。以下の通り、効果が高く効率の良い候補者A~候補者Fは4人となりました。

優先順位（重複受診者、頻回受診者、重複服薬者）				
↑高 効果 低↓	最新6カ月レセプトのうち 5~6カ月 重複・頻回・重複服薬に 該当する患者	候補者A 0人	候補者C 0人	候補者 としない
	最新6カ月レセプトのうち 3~4カ月 重複・頻回・重複服薬に 該当する患者	候補者B 4人	候補者D 0人	
	最新6カ月レセプトのうち 2カ月 重複・頻回・重複服薬に 該当する患者	候補者E 0人	候補者F 0人	
	その他の 重複・頻回・重複服薬患者			73人
	60歳以上	50~59歳	50歳未満	
←良 効率 悪→				
効果が高く効率の良い候補者A~Fの患者数			4人	

（レセプトデータ（医科、DPC）（令和4年度））

薬剤併用禁忌対象数者（令和4年度）

年間実人数	年間延べ人数	年間延べ受診件数
202	292	1,090

（レセプトデータ（医科、DPC、調剤）（令和4年度））

薬剤併用禁忌 医薬品リスト

NO.	(A) 剤型名	(A) 医薬品コード	(A) 医薬品名	(B) 剤型名	(B) 医薬品コード	(B) 医薬品名	件数	NO.	(A) 剤型名	(A) 医薬品コード	(A) 医薬品名	(B) 剤型名	(B) 医薬品コード	(B) 医薬品名	件数
1	注射薬	642220029	エフェドリン「ガキ」注射液40mg 4% 1mL	注射薬	641210004	キロカイン注射液「1%」E ₁ レシシ(1:100,000)含有	73	26	内用薬	611170691	バルネチル錠50 50mg	内用薬	620145314	ロバ「リド」錠3mg「ヨトミ」	7
2	注射薬	641210004	キロカイン注射液「1%」E ₁ レシシ(1:100,000)含有	注射薬	642220029	エフェドリン「ガキ」注射液40mg 4% 1mL	72	27	内用薬	611170691	バルネチル錠50 50mg	注射薬	641170048	ロバ「リド」錠100mg 1mL	7
3	注射薬	641210005	キロカイン注射液「2%」E ₁ レシシ(1:80,000)含有	注射薬	620517902	ホスミン注1mg 0.1% 1mL	35	28	注射薬	620517902	ホスミン注1mg 0.1% 1mL	注射薬	641210004	キロカイン注射液「1%」E ₁ レシシ(1:100,000)含有	7
4	注射薬	620517902	ホスミン注1mg 0.1% 1mL	注射薬	641210005	キロカイン注射液「2%」E ₁ レシシ(1:80,000)含有	35	29	注射薬	641210004	キロカイン注射液「1%」E ₁ レシシ(1:100,000)含有	注射薬	620517902	ホスミン注1mg 0.1% 1mL	7
5	内用薬	611170692	バルネチル錠100 100mg	内用薬	611170743	コトシ糖衣錠50mg	29	30	内用薬	620005824	セラ錠25mg	内用薬	622601001	トリス「ド」錠4mg「KO」	7
6	内用薬	611170692	バルネチル錠100 100mg	注射薬	641170048	ロバ「リド」錠100mg 1mL	29	31	注射薬	642220029	エフェドリン「ガキ」注射液40mg 4% 1mL	注射薬	641210003	キロカイン注射液「0.5%」E ₁ レシシ1:100,000含有	6
7	注射薬	642220029	エフェドリン「ガキ」注射液40mg 4% 1mL	注射薬	620008384	ルフト「リナ」注1mg 0.1% 1mL	24	32	内用薬	622517401	バルネチル錠10mg	内用薬	620003930	クワリロキサ錠200mg「ワイ」	6
8	内用薬	611170693	バルネチル錠200 200mg	内用薬	620145314	ロバ「リド」錠3mg「ヨトミ」	24	33	内用薬	620003930	クワリロキサ錠200mg「ワイ」	内用薬	622517401	バルネチル錠10mg	6
9	内用薬	621932501	ラジ「ス」錠150mg	内用薬	622821101	エンズ錠200mg	22	34	内用薬	622632903	トラコ「ゾ」ル内用液1%「VTRS」	内用薬	622696201	バルネチル錠10mg	6
10	内用薬	611170692	バルネチル錠100 100mg	内用薬	611170727	コトシ糖衣錠25mg	21	35	注射薬	641210003	キロカイン注射液「0.5%」E ₁ レシシ1:100,000含有	注射薬	642220029	エフェドリン「ガキ」注射液40mg 4% 1mL	5
11	外用薬	620518102	ホスミン外用液0.1%	注射薬	641210004	キロカイン注射液「1%」E ₁ レシシ(1:100,000)含有	20	36	内用薬	611170692	バルネチル錠100 100mg	内用薬	620005635	バルネチル内用液1mg/mL「ヨトミ」0.1%	4
12	注射薬	621371901	アド「レ」注0.1%シリンジ「フル」1mL	内用薬	620379601	アスコ「レ」配合錠	18	37	注射薬	620008384	ルフト「リナ」注1mg 0.1% 1mL	注射薬	621371901	アド「レ」注0.1%シリンジ「フル」1mL	4
13	注射薬	620008926	プロ「ル」注0.2mg 0.02% 1mL	注射薬	620008384	ルフト「リナ」注1mg 0.1% 1mL	18	38	内用薬	622696201	バルネチル錠10mg	内用薬	622632903	トラコ「ゾ」ル内用液1%「VTRS」	4
14	注射薬	621371901	アド「レ」注0.1%シリンジ「フル」1mL	内用薬	622093301	バルネチル錠50mg	18	39	外用薬	620518102	ホスミン外用液0.1%	内用薬	622093201	バルネチル錠25mg	4
15	注射薬	620008384	ルフト「リナ」注1mg 0.1% 1mL	注射薬	620008926	プロ「ル」注0.2mg 0.02% 1mL	17	40	注射薬	620809804	トラコ「ゾ」注1g「NP」10% 10mL	外用薬	621519901	バルネチル「ラ」点鼻液	4
16	外用薬	620518102	ホスミン外用液0.1%	注射薬	642220029	エフェドリン「ガキ」注射液40mg 4% 1mL	16	41	内用薬	620005824	セラ錠25mg	内用薬	620004902	バルネチル錠300mg	3
17	注射薬	620517902	ホスミン注1mg 0.1% 1mL	注射薬	642220029	エフェドリン「ガキ」注射液40mg 4% 1mL	15	42	内用薬	616140105	クワリ錠200 200mg	内用薬	622374201	バルネチル錠15mg	3
18	注射薬	642220029	エフェドリン「ガキ」注射液40mg 4% 1mL	注射薬	620517902	ホスミン注1mg 0.1% 1mL	15	43	内用薬	622374201	バルネチル錠15mg	内用薬	616140105	クワリ錠200 200mg	3
19	注射薬	641210004	キロカイン注射液「1%」E ₁ レシシ(1:100,000)含有	外用薬	620518102	ホスミン外用液0.1%	12	44	注射薬	620008384	ルフト「リナ」注1mg 0.1% 1mL	注射薬	620517902	ホスミン注1mg 0.1% 1mL	3
20	内用薬	611170692	バルネチル錠100 100mg	注射薬	641170047	ロバ「リド」錠50mg 1mL	12	45	注射薬	620517902	ホスミン注1mg 0.1% 1mL	注射薬	620008384	ルフト「リナ」注1mg 0.1% 1mL	3
21	内用薬	611170693	バルネチル錠200 200mg	注射薬	641170048	ロバ「リド」錠100mg 1mL	12	46	外用薬	620518102	ホスミン外用液0.1%	外用薬	620007639	コ「ル」点鼻液	3
22	内用薬	622821101	エンズ錠200mg	内用薬	621932501	ラジ「ス」錠150mg	11	47	注射薬	621371901	アド「レ」注0.1%シリンジ「フル」1mL	注射薬	620008384	ルフト「リナ」注1mg 0.1% 1mL	3
23	内用薬	622356101	ロ「ル」配合錠LD「ワイ」	内用薬	621932501	ラジ「ス」錠150mg	11	48	注射薬	621931801	ロ「ル」点鼻液	内用薬	620066201	バルネチル錠200mg	3
24	内用薬	621932501	ラジ「ス」錠150mg	内用薬	622356101	ロ「ル」配合錠LD「ワイ」	11	49	内用薬	620005824	セラ錠25mg	内用薬	622609402	トリス「ド」OD錠4mg「TE」	3
25	注射薬	642220029	エフェドリン「ガキ」注射液40mg 4% 1mL	外用薬	620518102	ホスミン外用液0.1%	10	50	外用薬	621519901	バルネチル「ラ」点鼻液	注射薬	620809804	トラコ「ゾ」注1g「NP」10% 10mL	3

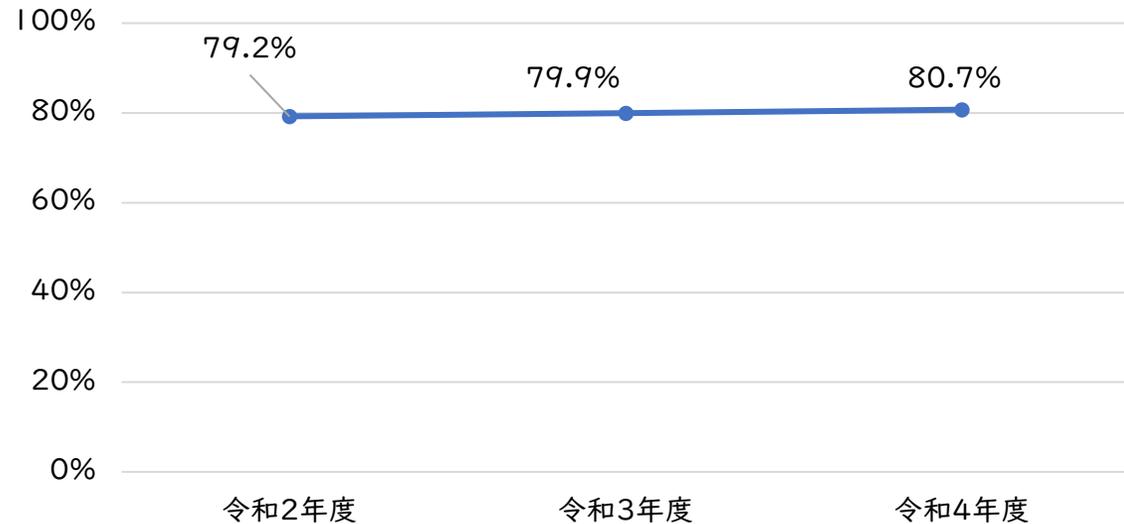
（レセプトデータ（医科、DPC、調剤）（令和4年度））

8.ジェネリック医薬品普及の状況

ジェネリック医薬品普及の状況

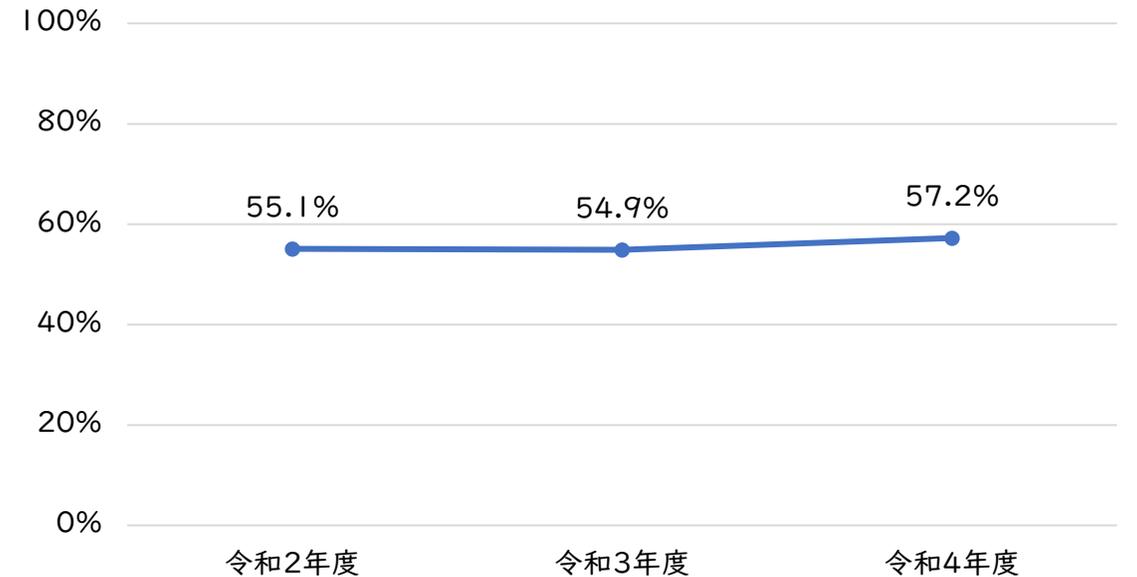
ジェネリック医薬品普及率において、数量ベースでは、令和4年度時点で80.7%となっており、国の目標基準である80.0%を達成し、高い普及率となっています。金額ベースでは、令和4年度時点で57.2%となっています。

年度別 ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)



(静岡県国民健康保険団体連合会「保険者別医薬品利用実態」令和2年度～令和4年度)

年度別 ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)

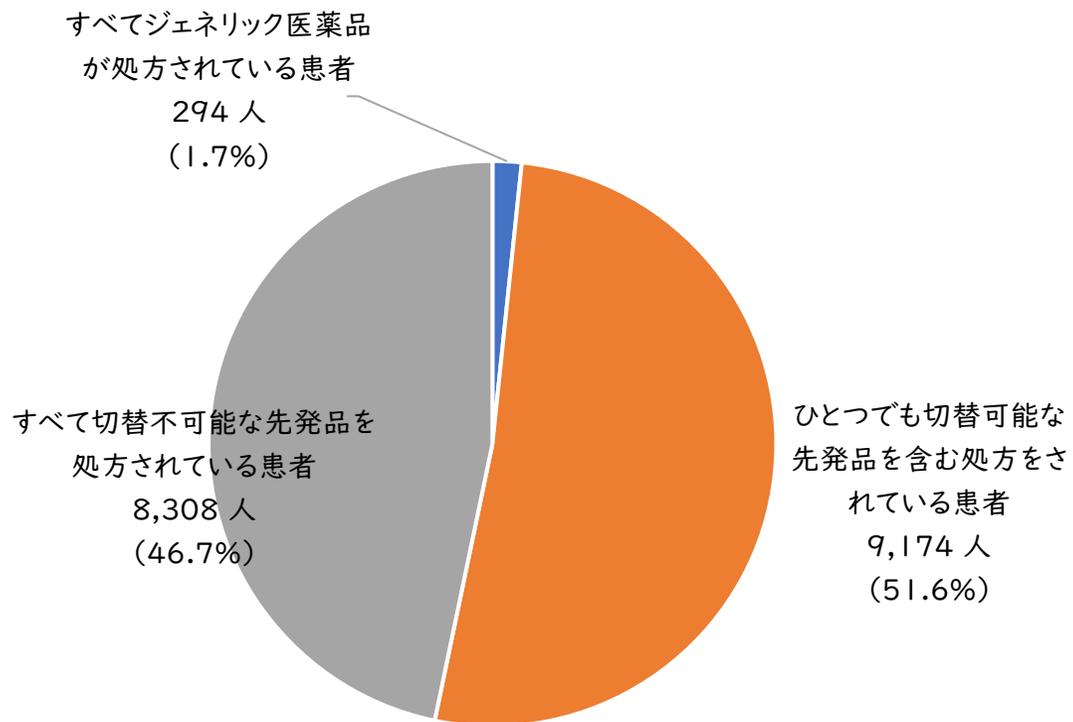


(静岡県国民健康保険団体連合会「保険者別医薬品利用実態」令和2年度～令和4年度)

ジェネリック医薬品普及の状況

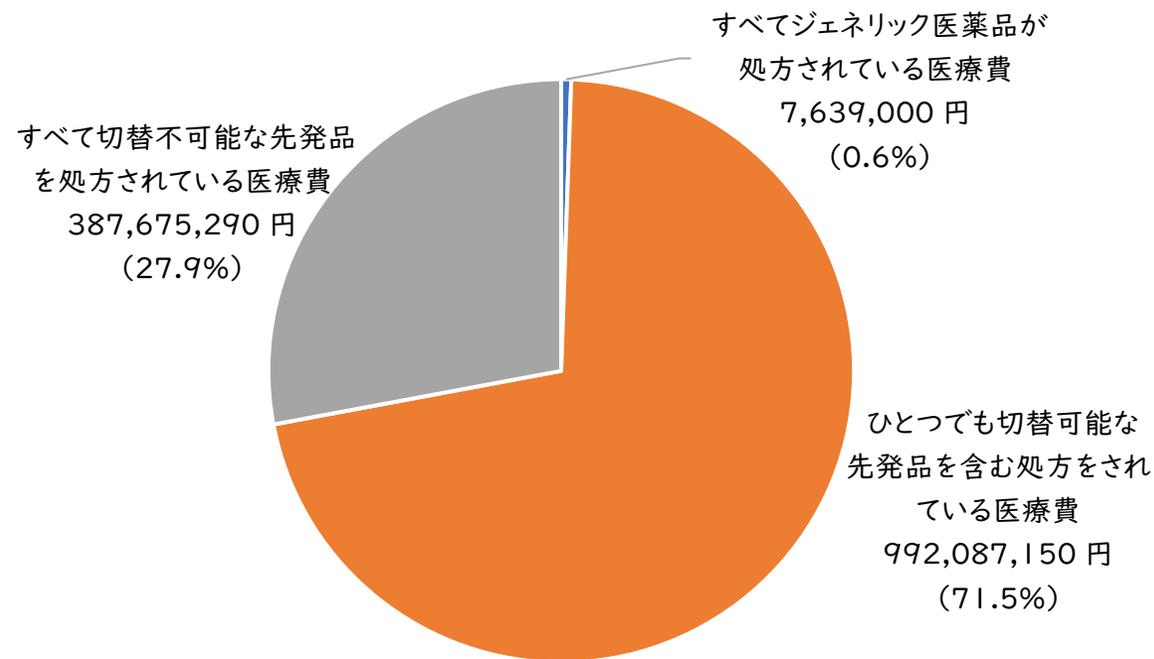
ジェネリック医薬品の切り替えポテンシャルとして、9,174人(51.6%)は切り替えが可能であり、金額ベースでは、992百万円の切り替えポテンシャルがあります。

ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(患者数ベース)



(レセプトデータ(調剤)(令和4年度))

ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(金額ベース)



※医薬品製造中止・在庫切れは反映させておりません。

(レセプトデータ(調剤)(令和4年度))

9. 歯科医療の状況

歯科医療の状況

一般的に歯科医療費の中で高い割合を占める歯周疾患は、生活習慣病や誤嚥性肺炎など様々な疾患や全身状態と関係があるといわれています。歯科レセプト発生者について、関係のある疾病別医療費をみると、「動脈硬化」「悪性新生物」のレセプト発生率が高い状況です。

特定の疾病別歯科レセプト発生者の医療費

生活習慣病※1	歯科レセプト発生者数(人)	歯科レセプト発生率(%) ※2	一人当たり医療費(円)
動脈硬化	927	57.6%	471,575
悪性新生物	945	56.1%	1,030,524
脳血管疾患	1,403	55.5%	502,798
脂質異常症	4,195	54.5%	417,535
高血圧症	3,932	51.1%	495,979
気分障害	738	50.5%	624,138
糖尿病	2,430	50.0%	556,108
虚血性心疾患	749	49.7%	824,487
特定の疾病を持たない者	4,269	46.0%	148,638
腎不全	233	43.3%	1,818,886
肺炎	93	39.6%	2,335,739

※1 特定の疾病

糖尿病…中分類「0402 糖尿病」

高血圧性疾患…中分類「0901 高血圧性疾患」

脂質異常症…中分類「0403 脂質異常症」

虚血性心疾患…中分類「0902 虚血性心疾患」

脳血管疾患…中分類「0904 くも膜下出血」、「0905 脳内出血」、「0906 脳梗塞」、「0907 脳動脈硬化(症)」、「0908 その他の脳血管疾患」

動脈硬化…中分類「0909 動脈硬化(症)」

腎不全…中分類「1402 腎不全」

気分障害…中分類「0504 気分[感情]障害(躁うつ病を含む)」

悪性新生物…中分類「0201 胃の悪性新生物<腫瘍>」、「0202 結腸の悪性新生物<腫瘍>」、「0203 直腸S状

結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>」、「0204 肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>」、「0205 気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>」、「0206 乳房の悪性新生物<腫瘍>」、「0207 子宮の悪性新生物<腫瘍>」、「0210 その他の悪性新生物<腫瘍>」

肺炎…中分類「1004 肺炎」

※2 歯科レセプト発生率…歯科レセプト発生者数/対象者数

(レセプトデータ(医科、DPC、歯科)(令和4年度))

10.フレイルに関する状況

フレイルの状況

疾病別患者割合・医療費ともに骨粗鬆症が最も高い状況です。年齢階層別で見ると、70歳～74歳が55.0%と最も多くの割合を占めています。

フレイル分析対象者数

分析対象者(人)	11,872
----------	--------

※レセプトが発生している40歳以上の患者数

フレイル関連疾病別 患者数および医療費

疾患名	患者数(人)	割合(%)	医療費(円)	一人当たり医療費(円)
変形性膝関節症	1,891	34.1%	36,028,868	19,053
変形性股関節症	157	2.8%	3,251,428	20,710
変形性脊椎症	156	2.8%	2,488,128	15,950
骨粗鬆症	1,979	35.7%	51,549,773	26,048
大腿骨頸部骨折	51	0.9%	7,004,203	137,337
橈骨遠位端骨折	31	0.6%	335,268	10,815
上腕骨近位端骨折	15	0.3%	777,742	51,850
脊椎圧迫骨折	6	0.1%	317,546	52,924
肋骨骨折	108	1.9%	1,808,730	16,747
脆弱性骨折	1	0.0%	24,760	24,760
サルコペニア	0	0.0%	0	0
低栄養(BMI20.0未満)	1,156	20.8%	326,431,222	282,380
計(延べ人数)	5,551	—	430,017,668	79,514

割合…フレイル関連疾病別患者数/フレイル関連疾病罹患患者数

患者数…傷病が複数ある場合は、患者数の合計と疾病項目毎の患者数の合計は一致しない

(レセプトデータ(医科、DPC)(令和4年度))

年齢階層別 フレイル関連疾病医療費

年齢階層	分析対象者(人)	フレイル関連疾患あり			
		患者数(人)	割合(%)	医療費(円)	患者一人当たり医療費(円)
40歳～44歳	479	79	1.6%	4,526,786	57,301
45歳～49歳	560	102	2.1%	5,394,879	52,891
50歳～54歳	694	172	3.6%	15,348,445	89,235
55歳～59歳	811	224	4.7%	13,701,451	61,167
60歳～64歳	1,277	463	9.6%	42,260,681	91,276
65歳～69歳	2,614	1,125	23.4%	99,322,500	88,287
70歳～74歳	5,437	2,650	55.0%	249,462,926	94,137
計(実人数)	11,872	4,815	—	430,017,668	89,308

割合…フレイル関連疾病別患者数/フレイル関連疾病罹患患者数

患者数…傷病が複数ある場合は、患者数の合計と疾病項目毎の患者数の合計は一致しない

(レセプトデータ(医科、DPC)(令和4年度))

フレイルの状況

男性の疾病別患者割合は70歳～74歳の変形性膝関節症が最も高い状況です。
一人当たり医療費で見ると、60歳～64歳の低栄養が最も高額となっています。

フレイル分析対象者数

分析対象者(人) 5,285 ※レセプトが発生している40歳以上の男性患者数

フレイル関連疾病別・年齢階層別 患者数及び割合(男性)

疾患名	上段:患者数(人) / 下段:割合(%)						
	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳
変形性膝関節症	6 (0.1%)	8 (0.2%)	31 (0.6%)	24 (0.5%)	58 (1.1%)	132 (2.5%)	336 (6.4%)
変形性股関節症	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.0%)	6 (0.1%)	14 (0.3%)
変形性脊椎症	0 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (0.1%)	15 (0.3%)	37 (0.7%)
骨粗鬆症	7 (0.1%)	5 (0.1%)	8 (0.2%)	10 (0.2%)	15 (0.3%)	54 (1.0%)	144 (2.7%)
大腿骨頸部骨折	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.1%)	3 (0.1%)	8 (0.2%)
橈骨遠位端骨折	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)
上腕骨近位端骨折	0 (0.0%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
脊椎圧迫骨折	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)	2 (0.0%)
肋骨骨折	2 (0.0%)	3 (0.1%)	6 (0.1%)	3 (0.1%)	5 (0.1%)	17 (0.3%)	29 (0.5%)
脆弱性骨折	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
サルコペニア	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
低栄養 (BMI20.0未満)	8 (0.2%)	12 (0.2%)	16 (0.3%)	12 (0.2%)	21 (0.4%)	80 (1.5%)	162 (3.1%)
計(延べ人数)	23 (0.4%)	29 (0.5%)	61 (1.2%)	46 (0.9%)	101 (1.9%)	282 (5.3%)	651 (12.3%)

関連疾患別患者数/患者数全体(男性)

(レセプトデータ(医科、DPC)(令和4年度))

フレイル関連疾病別・年齢階層別 医療費及び患者一人当たり医療費(男性)

疾患名	上段:医療費(円) / 下段:一人当たり医療費(円)						
	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳
変形性膝関節症	49,212 (8,202)	74,600 (9,325)	675,301 (21,784)	234,835 (9,785)	1,169,739 (20,168)	1,811,711 (13,725)	4,960,205 (14,763)
変形性股関節症	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	17,945 (8,973)	24,583 (4,097)	152,044 (10,860)
変形性脊椎症	0 (-)	17,433 (17,433)	28,238 (28,238)	0 (-)	157,475 (26,246)	332,022 (22,135)	512,614 (13,854)
骨粗鬆症	104,233 (14,890)	84,877 (16,975)	54,783 (6,848)	410,231 (41,023)	638,449 (42,563)	1,796,300 (33,265)	2,564,113 (17,806)
大腿骨頸部骨折	0 (-)	0 (-)	4,407 (4,407)	0 (-)	813,156 (271,052)	162,487 (54,162)	412,367 (51,546)
橈骨遠位端骨折	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	5,556 (5,556)	1,869 (1,869)
上腕骨近位端骨折	0 (-)	6,663 (6,663)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
脊椎圧迫骨折	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	18,100 (18,100)	230,470 (115,235)
肋骨骨折	17,533 (8,767)	25,892 (8,631)	33,250 (5,542)	24,148 (8,049)	83,955 (16,791)	154,216 (9,072)	323,840 (11,167)
脆弱性骨折	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	24,760 (24,760)	0 (-)	0 (-)
サルコペニア	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
低栄養 (BMI20.0未満)	959,440 (119,930)	1,287,840 (107,320)	1,242,002 (77,625)	1,740,550 (145,046)	7,404,855 (352,612)	21,473,750 (268,422)	41,467,346 (255,971)
計(実人数)	1,130,418 (49,149)	1,497,305 (51,631)	2,037,981 (33,410)	2,409,764 (52,386)	10,310,334 (102,083)	25,778,725 (91,414)	50,624,868 (77,765)

(レセプトデータ(医科、DPC)(令和4年度))

フレイルの状況

女性の疾病別患者割合は70歳～74歳の骨粗鬆症が最も高い状況です。
一人当たり医療費でみると、50歳～54歳の大腿骨頸部骨折が最も高額となっています。

フレイル分析対象者数

分析対象者(人) 6,587 ※レセプトが発生している40歳以上の女性患者数

フレイル関連疾病別・年齢階層別 患者数及び割合(女性)

疾患名	上段:患者数(人) / 下段:割合(%)						
	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳
変形性膝関節症	7 (0.1%)	17 (0.3%)	29 (0.4%)	44 (0.7%)	111 (1.7%)	315 (4.8%)	778 (11.8%)
変形性股関節症	4 (0.1%)	3 (0.0%)	2 (0.0%)	6 (0.1%)	9 (0.1%)	30 (0.5%)	81 (1.2%)
変形性脊椎症	0 (0.0%)	2 (0.0%)	2 (0.0%)	4 (0.1%)	4 (0.1%)	20 (0.3%)	65 (1.0%)
骨粗鬆症	6 (0.1%)	13 (0.2%)	32 (0.5%)	57 (0.9%)	157 (2.4%)	383 (5.8%)	1113 (16.9%)
大腿骨頸部骨折	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	7 (0.1%)	27 (0.4%)
橈骨遠位端骨折	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)	9 (0.1%)	19 (0.3%)
上腕骨近位端骨折	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)	2 (0.0%)	5 (0.1%)	6 (0.1%)
脊椎圧迫骨折	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)	2 (0.0%)
肋骨骨折	0 (0.0%)	1 (0.0%)	3 (0.0%)	4 (0.1%)	4 (0.1%)	15 (0.2%)	33 (0.5%)
脆弱性骨折	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
サルコペニア	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
低栄養 (BMI20.0未満)	42 (0.6%)	39 (0.6%)	54 (0.8%)	85 (1.3%)	148 (2.2%)	307 (4.7%)	585 (8.9%)
計(延べ人数)	56 (0.9%)	73 (1.1%)	111 (1.7%)	178 (2.7%)	362 (5.5%)	843 (12.8%)	1999 (30.3%)

関連疾患別患者数/患者数全体(女性)

(レセプトデータ(医科、DPC)(令和4年度))

フレイル関連疾病別・年齢階層別 医療費及び患者一人当たり医療費(女性)

疾患名	上段:医療費(円) / 下段:一人当たり医療費(円)						
	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳
変形性膝関節症	336,851 (48,122)	172,920 (10,172)	520,714 (17,956)	745,454 (16,942)	2,500,339 (22,730)	6,582,455 (20,897)	16,194,534 (20,816)
変形性股関節症	158,118 (39,530)	11,693 (3,898)	11,795 (5,898)	70,724 (11,787)	33,781 (3,753)	734,542 (24,485)	2,036,202 (25,138)
変形性脊椎症	0 (-)	37,643 (18,821)	4,381 (2,190)	15,874 (3,969)	100,245 (25,061)	308,518 (15,426)	973,686 (14,980)
骨粗鬆症	228,889 (38,148)	230,332 (17,718)	2,177,091 (68,034)	2,132,366 (37,410)	7,957,759 (50,686)	9,503,279 (24,813)	23,667,072 (21,264)
大腿骨頸部骨折	0 (-)	0 (-)	1,562,153 (781,077)	10,229 (10,229)	9,317 (9,317)	455,722 (65,103)	3,574,365 (132,384)
橈骨遠位端骨折	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	6,866 (6,866)	120,224 (13,358)	200,750 (10,566)
上腕骨近位端骨折	0 (-)	0 (-)	0 (-)	172,597 (172,597)	60,238 (30,119)	240,907 (48,181)	297,338 (49,556)
脊椎圧迫骨折	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	49,722 (49,722)	19,254 (9,627)
肋骨骨折	0 (-)	14,067 (14,067)	43,634 (14,545)	267,109 (66,777)	81,072 (20,268)	227,573 (15,172)	512,440 (15,528)
脆弱性骨折	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
サルコペニア	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
低栄養 (BMI20.0未満)	2,672,510 (63,631)	3,430,920 (87,972)	8,990,696 (166,494)	7,877,334 (92,675)	21,200,731 (143,248)	55,320,832 (180,198)	151,362,416 (258,739)
計(延べ人数)	3,396,368 (60,649)	3,897,575 (53,391)	13,310,464 (119,914)	11,291,687 (63,436)	31,950,348 (88,261)	73,543,773 (87,241)	198,838,057 (99,469)

(レセプトデータ(医科、DPC)(令和4年度))

フレイルの状況

令和4年度要支援認定者のフレイル関連疾患罹患患者数は下記のとおりです。

疾病ごとの介護認定者数と認定度

	骨粗鬆症	脊椎圧迫骨折	大腿骨頸部骨折	変形性脊椎症	変形性膝関節症	肋骨骨折	上腕骨近位端骨折	橈骨遠位端骨折	変形性股関節症	低栄養 (BMI20.0未満)	総計	実数
要支援1(人)	4	1	1	0	2	0	0	1	1	0	10	7
要支援2(人)	10	0	1	5	5	2	1	1	2	1	28	16

(KDBシステム「要介護(支援)者突合状況(令和4年度累計)」、レセプトデータ(医科、DPC)(令和4年度))

11.保健事業実施に関わる詳細分析

11-1. 健康異常値放置者に係る分析

特定健康診査では異常値があった場合、医療機関での精密検査を勧めています。しかし、異常値があるにもかかわらず、医療機関への受診をしていない者が存在しています。これらの対象者をレセプトにより見極め、特定健康診査において受診勧奨判定値以上にもかかわらず、医療機関への受診をしていない者を「健診異常値放置者」として抽出したところ、348人が該当しました。

次に、受診勧奨が適切ではない可能性がある患者を「除外設定」により除外しました。「がん患者」「精神疾患患者」「難病患者」「認知症患者」に関しては、すでにこれらの疾患について医療機関での治療を受けており、健診異常が発生している状態についても認知していると考えられるためです。また、指導が困難な可能性がある患者、事業の効果を測定できない患者についても除外しました。

指導対象者の特定（健診異常値放置者）

健診異常値放置者…健診受診後、医療機関へ受診していない人
特定健康診査において受診勧奨判定値以上にある人を対象とする

健診異常値放置者	348人
----------	------

(KDBシステム「保健指導対象者一覧(受診勧奨判定値の者)(令和4年度)」、
レセプトデータ(医科、DPC、調剤)(令和4年度))

除外設定（健診異常値放置者）

		除外患者数
除外	がん、精神疾患、難病、認知症、人工透析	31人
除外患者を除いた候補者数		317人

(KDBシステム「保健指導対象者一覧(受診勧奨判定値の者)(令和4年度)」、
レセプトデータ(医科、DPC、調剤)(令和4年度))

また、残る対象者317人のうち、受診勧奨の実施効果が高い対象者を特定しました。ここでは受診勧奨判定異常値因子数（血糖、血圧、脂質）が多い患者を優先とし、喫煙は生活習慣病のリスクを高めることから、喫煙の有無によりリスクを判定しました。これらの対象者はすべてが受診勧奨対象者ではあるが、候補者Aより順に優先順位が高いと考えられます。※



※喫煙かつ受診勧奨判定異常値因子数が多い人は受診勧奨の優先度が高いと考え、次に受診勧奨判定異常値因子数が1つの喫煙者よりも、受診勧奨判定異常値因子数が2つ以上の非喫煙の方が優先と考え順位を決定した。

（KDBシステム「保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者）（令和4年度）」、
レセプトデータ（医科、DPC、調剤）（令和4年度））

11-2. 生活習慣病治療中断者に係る分析

生活習慣病は一度発症すると治癒することは少ないため病状の維持が重要となります。そのためには定期的な診療が必要であり、継続的な服薬が求められます。しかし、生活習慣病となった患者の中には服薬を適切に行わないケース、定期的な診療を自己の判断により止めてしまうケースがあります。その結果、生活習慣病が進行し、脳卒中、心筋梗塞等の重篤な疾病を引き起こしてしまう可能性があります。そのため、治療中断してしまう方に対して、適切な対処が必要です。レセプトデータより生活習慣病の治療中断者を抽出したところ、1,811人が該当しました。

次に、指導対象者として適切でない可能性がある患者を「除外設定」により除外しました。「がん患者」「精神疾患患者」「難病患者」「認知症患者」に関しては、すでにこれらの疾患について医療機関での治療を受けており、生活習慣病の治療を意図的に中止している可能性も考えられます。合わせて指導が困難な可能性がある患者、事業の効果を測定できない患者についても除外しました。

指導対象者の特定（生活習慣病治療中断者）

生活習慣病治療中断者…かつて、生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症）で治療していたが、その後治療中断した患者を対象とする※

		候補者人数
治療中断者	特定健康診査未受診者	958人
	特定健康診査受診者	853人
条件設定により対象となった候補者数（合計）		1,811人

※分析対象期間：令和元年から令和3年のレセプトデータを用いて集計し
令和4年度に治療中断した人を抽出

（レセプトデータ（医科、DPC、調剤）（令和4年度））

除外設定（生活習慣病治療中断者）

		除外患者数
除外	がん、精神疾患、難病、認知症、人工透析	850人
除外患者を除いた候補者数		961人

（レセプトデータ（医科、DPC、調剤）（令和4年度））

また、残る対象者961人のうち、受診勧奨の実施効果が高い対象者を特定しました。生活習慣病治療中断者の過去のレセプトデータから医療機関への受診頻度を確認し、その受診頻度に応じた期間を超えて、医療機関への受診が確認されない患者を特定し、生活習慣病の有病数が多い患者を指導対象の優先としました。

優先順位（生活習慣病治療中断者）				
↑高 効果 ↓低	生活習慣病有病数 3つ	候補者A1 101人	候補者A2 14人	候補者A3 179人
	生活習慣病有病数 2つ	候補者B1 77人	候補者B2 26人	候補者B3 236人
	生活習慣病有病数 1つ	候補者C1 15人	候補者C2 14人	候補者C3 104人
		毎月受診	2~3か月に1度受診	4カ月以上の定期受診
効果が高く効率の良い候補者A1~C3の患者数				766人

(レセプトデータ(医科、DPC、調剤)(令和3年度))

11-3. 糖尿病性腎症重症化予防に係る分析

本分析は、Ⅱ型糖尿病患者から重症化予防事業対象者を抽出する意図があったが、腎症の分類が困難であったため、腎症患者のうち、抽出予定であった対象者に近い状態の者を抽出しました。

人工透析患者の分析として、「透析」に関する診療行為が行われている患者の抽出を行ったところ、140人が該当しました。内訳をみると血液透析のみの患者が多く、一人当たり医療費は血液透析のみの患者が他の透析療法の患者よりも高い状態でした。

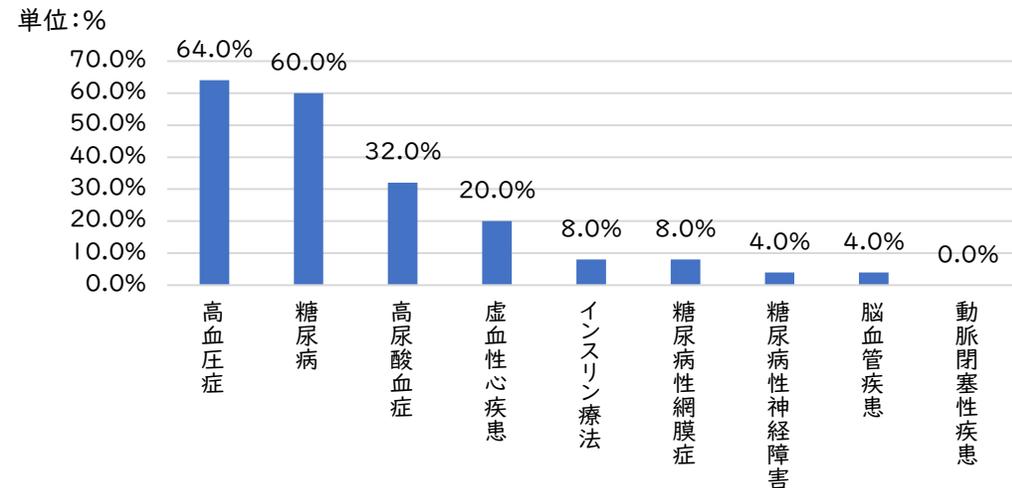
また、新規人工透析患者の有病状況をみたところ、「高血圧症」「糖尿病」との併病率が高いことがわかります。

「透析」に関する診療行為が行われている患者数

透析療法の種類	透析患者数 (人)	医療費(円)	一人当たり医療費 (円)
血液透析のみ	137	691,084,540	5,044,413
腹膜透析のみ	2	2,349,810	1,174,905
血液透析及び 腹膜透析	1	2,695,510	2,695,510
透析患者合計	140	696,129,860	4,972,356

(レセプトデータ(医科、DPC)(令和4年度))

新規人工透析患者(n=25)の有病状況



(KDBシステム「人工透析患者一覧(令和4年度)」)

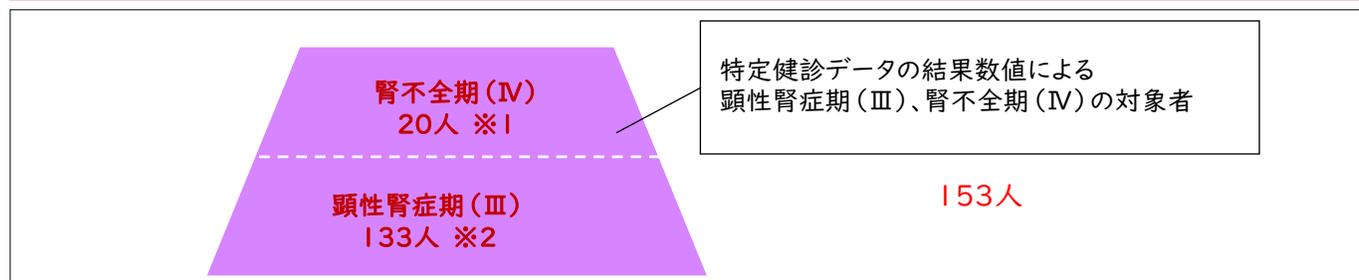
腎症患者の全体像を以下に示します。保健指導対象者の特定のため、特定健診データより顕性腎症期(Ⅲ)、腎不全期(Ⅳ)の対象者を抽出したところ、153人が該当しました。重症化予防を実施するに際し、適切な病期は透析への移行に近い腎不全期(Ⅳ)、腎機能が急激に低下する顕性腎症期(Ⅲ)です。

腎症患者の全体像

病期	臨床的特徴	治療内容
V	透析療法中。	透析療法、腎移植。
IV	腎不全期 蛋白尿。血清Crが上昇し、腎機能は著明低下する。尿毒症等の自覚症状あり。	食事療法(低蛋白食)、透析療法導入、厳格な降圧治療。
III	顕性腎症期 蛋白尿。腎機能は高度に低下。尿毒症等の自覚症状あり。	厳格な血糖コントロール、食事療法(低蛋白食)、厳格な降圧治療。
II	早期腎症期 微量アルブミン尿、血清Crが正常、時に高値。※尿蛋白、血清Cr共に正常だが糖尿病と診断されて10年以上の場合を含む。	血糖コントロール、降圧治療。
I	腎症前期 尿蛋白は正常。血清Crが正常、時に高値。	血糖コントロール。



保健指導対象者



※1 (eGFR30mL/分/1.73m²未満)
 ※2 (尿蛋白+以上かつeGFR30mL/分/1.73m²以上)

(「糖尿病性腎症対象者の概数把握(令和4年度)」)